

森 町

# 森 川 4 遺 跡

北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 15・ 16年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



森 町

# 森 川 4 遺 跡

北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 15・ 16年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





調査風景

層

層

層

層 (B - T m)

層

a

b上

b下

c

(崩落土)

d

層

基本土層





MP - 7 (フラスコ状ピット) 完掘



MF - 3 (焼土) 周辺の遺物出土状況



MF - 2 (焼土) 周辺の遺物出土状況



MF - 2 出土の「石冠様石器」

口絵 4



森川 4 遺跡出土の土器



森川 4 遺跡出土の石器



## 例 言

- 1 本書は、日本道路公団北海道支社が行う北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴い財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成15年度に発掘調査を実施した、森町森川4遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 平成15年度の発掘調査および整理作業は第1調査部第2調査課が担当し、平成16年度の整理作業は第2調査部第4調査課が担当した。
- 3 本書の執筆は、村田 大、阿部明義が行い、編集は村田が行った。各章・節などの執筆者は文末に記している。
- 4 遺構は調査を担当した調査員がそれぞれ整理した。遺物は土器等およびフローテーション試料を阿部が、石器・礫等を村田が担当した。
- 5 発掘調査での写真撮影は各担当の調査員が行い、室内での遺物の写真撮影・焼付けなどは村田が行った。
- 6 分析・同定について、下記に委託した。  
(種実遺体同定) ㈱バリノ・サーヴェイ
- 7 石器等の石材鑑定は第1調査部第1調査課花岡正光の指導のもと、村田が行った。
- 8 出土資料および記録類は、森町教育委員会で保管する。
- 9 調査にあたっては、下記の諸機関および人々の指導、ご協力をいただいた(順不同・敬称略)。  
北海道教育庁生涯学習部文化課  
森町教育委員会  
八雲町教育委員会  
七飯町教育委員会  
森町教育委員会：藤田 登・荻野幸男・佐藤 稔・八重柏 誠・山田あや子・本山志郎・渡辺明美  
八雲町郷土資料館：三浦孝一・柴田信一  
八雲町教育委員会：安西雅希・吉田 力  
七飯町教育委員会：(故)石本省三・山田 央  
函館市教育委員会：長谷部一弘・阿部千春・佐藤智雄・福田裕二・野村祐一・小林 貴  
厚沢部町教育委員会：石井淳平  
旧南茅部町埋蔵文化財調査団：坪井睦美・輪島慎二  
私設北海道考古学研究所：横山英介

## 記号等の説明

### 1 遺構名・遺構図について

- (1) 遺構名は以下の略号を用い、原則として確認順に番号を付した。なお、発掘区と区別するため、アルファベット1文字の略号は森川4遺跡の頭文字「M」を頭に付している。

MP : 土壇                      SP : 柱穴状小ピット                      MF : 焼土  
MS : 石組炉

- (2) 掲載した遺構図等の縮尺は、原則として以下のとおりであり、各図面にスケールを付した。

遺構図 1 : 40                      遺物出土状況 1 : 20

- (3) 遺構図にはグリッド線に従って、方位記号を付したものがある。真北はアルファベットラインの基線に対して東偏30度36分2秒である。レベルは標高(単位m)を示す。

- (4) 遺構の規模は以下の要領で示した。なお一部破壊されているものや不明確なものについては、現存長を「( )」で、不明のものは「-」で示した。

土壇    確認面の長軸長 / 壇底面の長軸長    確認面の短軸長 / 壇底面の短軸長    最大の深さ  
焼土など    確認面の長軸長    確認面の短軸長    最大厚                      (単位: m)

- (5) 出土遺物分布図等での表示は、遺物の種類別に以下のシンボルマークで示したものがある。

・ : 土器・土製品                      ・ : 剥片石器・剥片                      ・ : 礫石器・礫

黒塗りは壇底面出土、白抜きは覆土出土

また焼土等はスクリーントーンで示したものがある。

### 2 遺物について

- (1) 掲載した実測図等の縮尺は、原則として以下のとおりであり、各図面にスケールを付した。

復元土器 1 : 3                      土器拓影 1 : 3                      土製品・石製品 1 : 2  
剥片石器 1 : 2                      磨製石器 1 : 2                      礫石器 1 : 3 (一部 1 : 4)

- (2) 石器・土製品・石製品の大きさは以下の要領で示した。なお破損しているものについては現存最大長を「( )」で示した。

最大長    最大幅    最大厚    (単位: cm)

### 3 土層について

- (1) 基本土層はローマ数字で、遺構の覆土はアラビア数字で示した。

- (2) 土層の混合状態を表現するために、以下のように表記してある。

A + B : AとBが同量混じる。                      A > B : AにBが少量混じる。

A B : AにBが微量混じる。                      A B : AとBはほぼ等しい。

- (3) 土層の色調には『新版標準土色帖』(小山・竹原 1967)を使用し、カラーチャートの番号を付したものがある。

# 目 次

口絵	
例言・記号等の説明	
目次	
挿図目次・表目次・写真図版目次	

章 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	1
4 調査の方法	4
(1) 発掘区の設定	
(2) 発掘調査の方法	
(3) 土層	
(4) 整理作業の方法	
(5) 遺物の分類	
5 調査結果の概要	12
章 遺跡の位置と周辺の遺跡	15
1 遺跡の立地と環境	15
2 周辺の遺跡	18
章 遺構と出土遺物	21
1 概要	21
2 遺構と出土遺物	21
(1) 土壌	
(2) 柱穴状小ピット	
(3) 石組炉	
(4) 焼土	
表	37
章 包含層出土の遺物	39
1 概要	39
2 包含層出土の遺物	39
(1) 土器・土製品	
(2) 石器	
表	78

章 自然科学的分析	85
森川4遺跡から出土した種実遺体について(バリノ・サーヴェイ)	85
付 フローテーションによる微細遺物の採取	
章 成果と課題	89
1 遺跡について	89
2 縄文時代前期の土器について	91
引用・参考文献	94
写真図版	95
・現地調査状況	
・出土遺物	

## 挿図目次

- 図 - 1 遺跡の位置
- 図 - 2 平成15年度北海道縦貫自動車道(森町内)調査遺跡位置図
- 図 - 3 発掘区設定図
- 図 - 4 基本土層模式図・基本土層(4ライン)
- 図 - 5 基本土層(44-45ライン)
- 図 - 6 基本土層(Iライン)
- 図 - 7 遺構位置図
- 図 - 1 遺跡周辺の地形(1)
- 図 - 2 遺跡周辺の地形(2)
- 図 - 3 周辺の遺跡
- 図 - 1 MP(土壌) - 1・2
- 図 - 2 MP(土壌) - 3・4
- 図 - 3 MP(土壌) - 5・6
- 図 - 4 MP(土壌) - 7・8
- 図 - 5 MP(土壌)出土の土器
- 図 - 6 MP(土壌)出土の石器
- 図 - 7 SP(柱穴状小ピット) - 1・2
- 図 - 8 MS(石組炉) - 1・2と出土遺物
- 図 - 9 MF(焼土) - 1～5
- 図 - 10 MF(焼土) - 2の出土遺物
- 図 - 1 包含層出土土器分布図(1)
- 図 - 2 包含層出土土器分布図(2)
- 図 - 3 群a類、群b-1類(1)
- 図 - 4 群b-1類(2)
- 図 - 5 群b-1類(3)
- 図 - 6 群b-1類(4)
- 図 - 7 群b-4類(1)
- 図 - 8 群b-4類(2)
- 図 - 9 群a類(1)
- 図 - 10 群a類(2)
- 図 - 11 群b類、群a類(1)
- 図 - 12 群a類(2)
- 図 - 13 群a類(3)
- 図 - 14 群a類(4)
- 図 - 15 群b類(1)

- 図 - 16 群b類(2) 群
- 図 - 17 土製品
- 図 - 18 包含層出土土器分布図(1)
- 図 - 19 包含層出土土器分布図(2)
- 図 - 20 石錐、ポイント・ナイフ
- 図 - 21 石錐、つまみ付ナイフ
- 図 - 22 スクレイバー、石核
- 図 - 23 石斧
- 図 - 24 たたき石、すり石(1)
- 図 - 25 すり石(2)
- 図 - 26 すり石(3)
- 図 - 27 扁平打製石器(1)
- 図 - 28 扁平打製石器(2)
- 図 - 29 北海道式石冠(1)
- 図 - 30 北海道式石冠(2)
- 図 - 31 石錘、砥石
- 図 - 1 遺物の分布と土層
- 図 - 2 円筒土器下層a式およびその直前の土器

## 表目次

- 表 - 1 出土遺物一覧
- 表 - 1 森町の遺跡一覧
- 表 - 1 遺構規模一覧
- 表 - 2 遺構出土掲載土器一覧
- 表 - 3 遺構出土掲載石器一覧
- 表 - 1 包含層出土掲載土器一覧
- 表 - 2 包含層出土掲載土製品一覧
- 表 - 3 包含層出土掲載石器一覧
- 表 - 1 森川4遺跡出土種実遺体同定結果
- 表 - 2 フローテーション結果一覧

## 写真図版目次

- 口絵1-1 調査風景
- 口絵1-2 基本土層
- 口絵2-1 MP-7(フラスコ状ピット)完掘
- 口絵2-2 MF-3(焼土)周辺の遺物出土状況

口絵 3 - 1 MF - 2 ( 焼土 ) 周辺の遺物出土  
状況

口絵 3 - 2 MF - 2 出土の「石冠様石器」

口絵 4 - 1 森川 4 遺跡出土の土器

口絵 4 - 2 森川 4 遺跡出土の石器

章 - 1

図版 1 森川 4 遺跡出土種実遺体

#### 写真図版

図版 1

1 調査状況 ( 北東から )

2 調査状況 ( 南から )

図版 2

1 基本土層 ( L - 44区 南東から )

2 基本土層 ( I - 44区 南西から )

3 基本土層 ( N - 44区 南東から )

図版 3

1 MP - 1 断面 ( 北から )

2 MP - 1 完掘 ( 南から )

3 MP - 2 検出 ( 東から )

4 MP - 2 断面 ( 北西から )

図版 4

1 MP - 2 断面 ( 南から )

2 MP - 2 小礫、焼土検出状況 ( 北から )

3 MP - 2 小礫出土状況 ( 北から )

4 MP - 2 完掘 ( 東から )

5 MP - 3 断面 ( 西から )

6 MP - 3 完掘 ( 北西から )

図版 5

1 MP - 4 断面 ( 南西から )

2 MP - 4 完掘 ( 北から )

3 MP - 5 断面 ( 南東から )

4 MP - 5 完掘 ( 南東から )

5 MP - 6 断面 ( 南西から )

6 MP - 6 完掘 ( 西から )

図版 6

1 MP - 7 断面 ( 北西から )

2 MP - 7 土器出土状況 ( 南西から )

3 MP - 7 完掘 ( 東から )

4 MP - 7 完掘 ( 北西から )

5 MP - 8 断面 ( 北西から )

6 MP - 8 完掘 ( 西から )

図版 7

1 SP - 1 断面 ( 西から )

2 SP - 2 断面 ( 西から )

3 MS - 1・2 検出状況 ( 西から )

4 MS - 1 ( 西から )

5 MS - 2 ( 西から )

図版 8

1 MF - 1 検出状況 ( 西から )

2 MF - 2 断面 ( 西から )

3 MF - 2 断面 ( 西から )

4 MF - 2 出土状況 ( 北から )

5 MF - 3 検出状況 ( 西から )

6 MF - 4 検出状況 ( 西から )

7 MF - 5 検出状況 ( 南西から )

図版 9

遺構出土の土器 ( 1 )

図版 10

遺構出土の土器 ( 2 )

図版 11

遺構出土の石器等

1 遺構出土の石器

2 MF - 2 出土の石冠様石器

図版 12

群 a 類、群 b - 1 類 ( 1 )

図版 13

群 b - 1 類 ( 2 )

図版 14

群 b - 1 類 ( 3 )

図版 15

群 b - 1 類 ( 4 )

図版 16

群 b - 4 類 ( 1 )

図版 17

群 b - 4 類 ( 2 )

図版 18

群 a 類 ( 1 )

図版 19

群 a 類 ( 2 )

図版 20

群 b 類、 群 a 類 ( 1 )

図版 21

群 a 類 ( 2 )

図版 22

群 a 類 ( 3 )

図版 23

群 a 類 ( 4 )

図版 24

群 b 類 ( 1 )

図版 25

群 b 類 ( 2 )、 群

図版 26

土製品

図版 27

石鏃、ポイント・ナイフ

図版 28

石鏃、つまみ付ナイフ

図版 29

スクレイパー、石核

図版 30

1 石斧

2 たたき石・すり石 ( 1 )

図版 31

1 すり石 ( 2 )

2 すり石 ( 3 )

図版 32

1 扁平打製石器 ( 1 )

2 扁平打製石器 ( 2 )

図版 33

1 北海道式石冠 ( 1 )

2 北海道式石冠 ( 2 )

図版 34

石鏃、砥石





# 調査の概要

## 1 調査要項

遺跡名：森川4遺跡（北海道教育委員会登録番号 B-15-30）  
 事業名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査  
 委託者：日本道路公団北海道支社  
 所在地：茅部郡森町字森川町 317-18ほか  
 調査面積：1400㎡  
 発掘期間：平成15年5月6日～10月24日  
 整理期間：平成15年10月2日～平成17年3月3日

## 2 調査体制

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

平成15年度

理事長 森重植一  
 専務理事 宮崎 勝  
 常務理事 畑 宏明  
 総務部長 下村一久  
 第1調査部長 畑 宏明（兼務）  
 第2調査課課長 種市幸生（発掘担当者）  
 主 任 村田 大（発掘担当者）  
 主 任 阿部明義

平成16年度（整理作業のみ）

理事長 森重植一  
 専務理事 宮崎 勝  
 常務理事 佐藤俊和  
 総務部長 佐藤英一  
 第2調査部長 西田 茂  
 第4調査課課長 工藤研治  
 主 査 村田 大（発掘担当者）  
 主 任 阿部明義

（第1調査部第4調査課）

## 3 調査に至る経緯

北海道縦貫自動車道路（函館～名寄）は、函館を起点として室蘭・苫小牧・札幌・旭川の各都市を經由し、名寄市に至る総延長488kmの路線である。長万部町国縫工～剣淵町土別剣淵工間はすでに供用され、七飯～長万部間については平成5年1月から建設が進められている。

平成2年4月、日本道路公団北海道支社から事業区間の埋蔵文化財調査に関して北海道教育委員会へ事前協議書が提出され、協議を受けた北海道教育委員会では、平成2年4月と平成7年1月に所在確認調査を、平成7年10月以降に試掘調査を実施している。

函館工事事務所の管内に所在する森川4遺跡では、平成13年12月5日に森町教育委員会社会教育課で、平成14年11月13・14日に北海道教育委員会文化課によって試掘調査が実施され、発掘を必要とする面積810㎡が提示された。当該地域における路線の変更は不可能なことから、当センターが発掘調査を実施することになった。現地調査中に、森川3遺跡に隣接する斜面部と森川側の低地部に包含層が良好に存在することが確認されたため、斜面部の532㎡、低地部の58㎡を調査範囲に追加し、最終的な面積は1400㎡となった。

（村田 大）

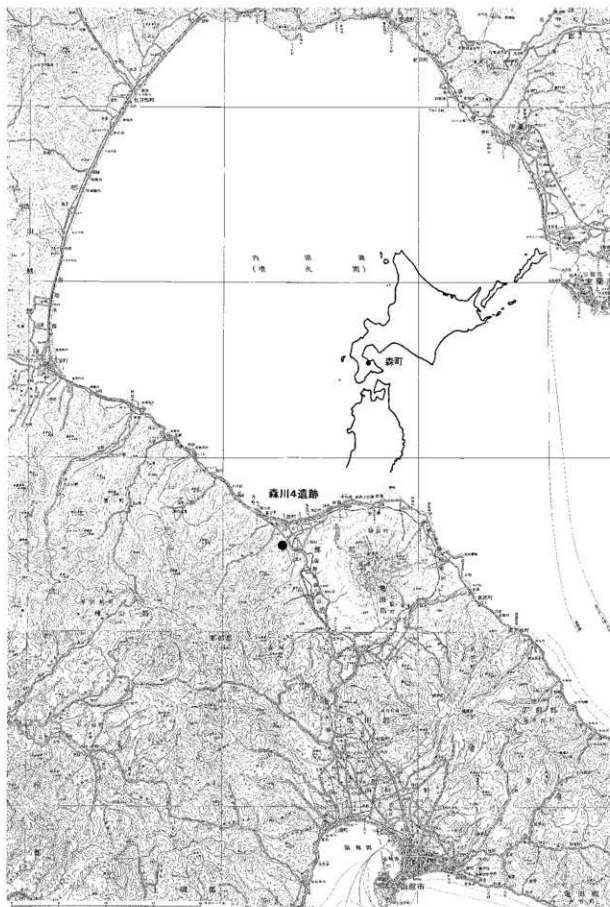
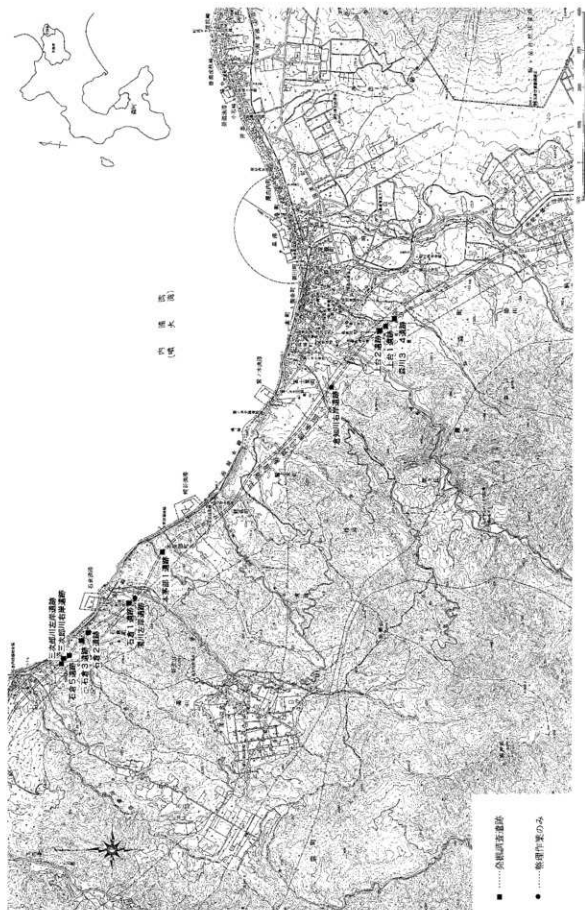


図 - 1 遺跡の位置(この図は国土地理院発行20万分の1地勢図「室蘭」函館を複製、加筆したものである)



## 4 調査の方法

### (1) 発掘区の設定

森川4遺跡の発掘区は、平成14年度に調査が行われた森川3遺跡の発掘区を延長した。森川3遺跡の発掘区の設定に当たっては、日本道路公団北海道支社の「北海道縦貫自動車道露台工事平面図(1)1000分の1図」を使用した。工事予定線の中央線上の中心杭であるSTA. 341とSTA. 342を通る線を基軸のMラインとし、STA. 342を基準に4m方眼を設定した。Mラインと並行に南西へ向かってL、K、J…、北東へ向かってN、O、P…とした。更に、STA. 342を通りそれに直行する線を25ラインとし、北西へ向かって26、27、28…、南東へ向かって24、23、22…とした。この方眼は南端交点をアルファベットとアラビア数字の組み合わせで呼称する(例: STA. 342はM-25)。更に必要に応じて2m方眼に4分割または1m方眼に16分割し小発掘区とした。2m方眼の小発掘区は杭のある側から反時計回りにa、b、c、dを付し(例: M-25-a)。1m方眼の小発掘区は南端から南西へ順に1、2、3、4とした(例: M-25-1)。

この方眼の日本測地系による平面直角座標は第 系で以下のとおり。

STA. 341(調査区杭番号M-25) X = -212992 559 Y = 26870 290

STA. 342 X = -212906 493 Y = 26819 378

また、測量法の改正に伴い、平成14年4月1日にそれまでの平面直角座標系(昭和4年建設省告示第305号)は廃止され、新たに世界測地系に基づく平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)が施行された為、世界測地系による平面直角座標を併記しておく。なお、座標の変換には国土地理院で公開されている座標変換ソフト「TKY2 GD」を使用した。

この方眼の世界測地系による平面直角座標は第 系で以下のとおり。

STA. 341(調査区杭番号M-25) X = -212736 076 Y = 26576 902

STA. 342 X = -212650 009 Y = 26525 990

水準測量は北海道茅部郡森町字森川町301-3番地に所在する、2級基準点第H-21号を用いて、各測量に使用した。

2級基準点第H-21号 H 92 300m

### (2) 発掘調査の方法

調査範囲は森川右岸の標高8m前後の下位段丘と標高95mほどの上位段丘の縁辺部、その間の段丘崖を含む。下位段丘を「低地部」、上位段丘を「台地上」、その間の段丘崖を「斜面部」と呼称して調査を行った。

試掘調査の結果から、多量の遺物の出土と遺構の検出が予想されたため、調査予定範囲全てを通常発掘範囲とした。調査に先行し重機により表土、火山灰を除去した。一部、耕作等による削平や攪乱が見られたが、遺物包含層は良好に残存していることがわかった。

#### 包含層調査

～ 層の遺物包含層は、調査区ごとに遺物の多寡、土層の変化を見極めながら、必要に応じてジョレン、移植こて、竹ベラなどを用いた人力による手掘り作業により掘り下げた。

#### 遺構調査

包含層調査時に土層の変化により確認された遺構については、その平面長軸と短軸に土層観察用の壁面を残して掘り下げた。

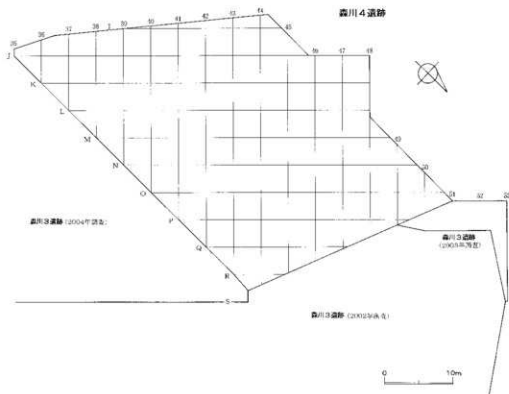


図 - 3 発掘区設定図

#### 遺物の取上げ

包含層出土の遺物は、発掘区および層単位での取上げとした。出土状況に応じて、小発掘区による取り上げ、写真や出土状況図の作成など詳細な記録化に努めた。遺構出土の遺物は、遺構上部の自然堆積層（層・層・層に相当）に包含されていたものについては、遺構および層位を記録して取上げた。覆土、床面または塙底面出土の遺物は、図面、台帳等に出土位置を記録し、遺構単位で連続番号を付して取上げた。ただし、調査の都合により、覆土から出土した遺物の一部は、層位ごとによる取上げを行っている。（村田）

### （3）土層

基本土層は、平成14年度に当センターが調査した森川3遺跡、平成15年度調査の上台1遺跡での設定をおおむね踏襲している。一層が遺物包含層である。

層：表土 黒色～黒褐色（10YR 2 1～2 2）で、しまりは弱く、粘性中。調査前の現況は、段丘上は畑地の縁辺部、低地は森川の河川敷に相当し草木が生い茂っていた。

層：駒ヶ岳火山灰d層（K o - d） 灰黄褐色～にぶい黄褐色（10YR 6 2～5 3）

164年に降下。周辺での層厚は150～200cmにも達するが、森川4遺跡内では100cm程度で、地形的制約により堆積が薄いところや、流出したところが多いと思われる。上位は細砂、径0.1～1mm、中位は細砂礫、径0.2mm程度が主体。下位は径0.5mm程度が主体。

層：黒色～黒褐色土（10YR 1 7 1～2 2） 層厚は5～10cm。低地の一部でやや厚みを増すところがある。粘性やや強く、しまりはやや強い。木根多く含む。低地は泥炭質で上位に木質が残存している。下端境界はやや明瞭である。

- 層：白頭山・苫小牧火山灰〔B・Tm〕 灰白色～灰黄褐色（10YR 7 1-6 2）  
非常に細かい粒子。層厚は0～8cm。段丘上や斜面など層厚の薄いところでは斑点状に分布し、窪みなどにやや厚く堆積している。
- 層：黒色土 色調は軽石や礫の混入によりやや明度を増す部分がある。層厚は50～60cm程度のところが多いが、斜面では土砂堆積層を含めてさらに厚みを増し、低地際の最も厚いところで140cmに達する。粘性やや強く、しまりは中～強。軽石や礫の混入度や土砂堆積層を境として細分した。土砂堆積層は、森川が段丘縁辺を開析した際に再堆積したものと思われる。
- a：黒色土（10YR 17 1）。径1～5mmの軽石を含む層。  
b：黒色～黒褐色土（10YR 2 1-2 2）。径1～10mmの砂・軽石を多く含む層。  
c：黒色土（10YR 2 1）。粘質で、混入物がほとんどない。  
d：黒色土（10YR 17 1）。粘質で、径1mm程度の砂を多く含む層。
- 「土砂1」： b層と c層の間に堆積。Kogと濁川火砕流堆積物、砂が混在している。  
「土砂2」： c層と d層の間に堆積。Kogと濁川火砕流堆積物、砂が混在している。
- 層：黒褐色～暗褐色土〔漸移層〕 森川4遺跡では、明瞭には検出されなかったが、層や層と混在して確認された。
- 層：黄褐色土（10YR 5 6） 駒ヶ岳火山灰g層〔Ko-g〕に由来する橙褐色砂質土を多量含む。層厚は段丘上で10～20cm、斜面では大きく変化する。低地では堆積層は確認できず、流出したとみられる。
- 層：褐色粘質土 森川4遺跡では検出されなかった。
- 層：黄褐色ローム層 約12000年前に噴出した濁川火砕流堆積物層である。少なくとも3m以上の堆積層が観察される。上位は褐色（10YR 4 6）～オリーブ褐色（2.5Y 4 6）を呈し、シルト質で均質的である。砂礫層や砂質粘土層などの互層になっている。
- 層：オリーブ褐色（2.5Y 3 4） シルト質ローム。  
層：暗オリーブ褐色（2.5Y 3 3） 砂質ロームと軽石。  
層：オリーブ褐色（2.5Y 3 4） 砂質ロームと灰色砂層との互層。  
層：暗灰黄色（2.5Y 5 2） 砂質ロームと小礫層。  
層：オリーブ褐色（2.5Y 3 4） 緻密なシルト質ローム。 (阿部明義)

#### (4) 整理作業の方法

現地では野外作業と並行して遺物の水洗、分類、遺物台帳作成、注記作業を行った。注記は小片や微小なものを除いた遺物に、遺跡名略号(MK4)・遺構名または発掘区・層位名・遺物番号を記入した。また、石組炉や焼土付近から採取した土壌のフローテーション作業を行っている。冬期の整理作業で、土器の接合・復元、石器・礫の接合、分析試料の抽出、土器、石器等の実測・製図、計測、集計、写真撮影、記録類の整理、遺物の収納を行った。(村田)



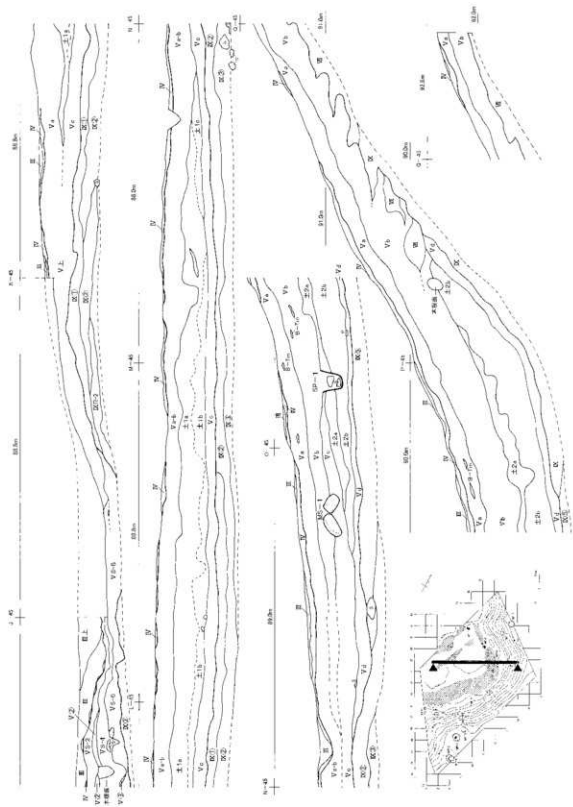


図 - 5 基本土層 (44-455-In)



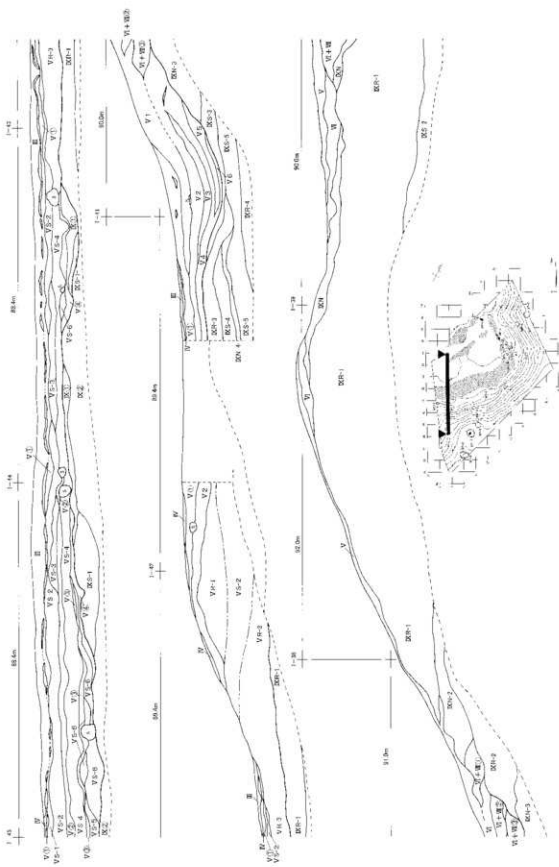


図 - 6 基本土層 (Iライン)

## 森町森川4遺跡

### Iライン土層断面

- 黒褐色土 (30R2 1) 粘性強。しまりやや強。泥炭質で、特に上位に木質残存、弾力に富む。繊維多量含む。
- 黄褐色土 (30R5 1) (B7m) しまり中、粘り非常に細かい、均質だが、層厚は変化が大変大い。
- 黒褐色土 (30R3 2) 粘性強。しまりやや強。一部腐色が見られる。やや砂質で均質。繊維少量含む。
- S1 上記黄褐色土 (30R5 3) 粘性やや強。しまり中、砂・やシルト質で均質的。
- S2 暗オリーブ灰色土 (30Y4 1) 一次 (30Y4 1) しまり中、砂・均質的だが、上位は泥炭がやや大きい。
- 黒色土 (30R2 1) 粘性強。しまりやや強。繊維少量含む。砂礫少量含む。均質的。
- S3 暗オリーブ褐色土 (25Y3 3) しまり中、砂・やや粘り大きい。小礫 10~20%含む。均質的。
- S4 黒褐色土 (25Y2 1) しまりやや中強。砂礫強。砂・径 1~20mmで不均質。
- 黒色土 (30R2 1) 粘性非常に強。しまり強。繊維少量含む。均質的。
- S5 暗オリーブ灰色土 (25Y4 4) しまりやや強。砂・粘りやや大きく、均質的。下部やや灰色が見られる。
- 黒色土 (30R17 1) 粘性やや強。しまりやや強。砂礫多く含む。不均質。
- R1 黒色土 (30R17 1) 硬質。径 2~10cmで、5cm程度の礫が主体。礫の角は丸みを帯びている。小砂礫少量含む。
- R2 暗褐色土 (75R3 4) 砂礫強。径 2~20cmで、10cm程度の礫が主体。礫の角は丸みを帯びている。部分により変色している部分あり。
- R3 黒色土 (75R17 1) オリーブ褐色土 (75Y4 3) 砂礫強。径 2~20cmで不均質。礫の角は丸みを帯びている。砂礫多量含む。
- 1 黒色土 (30R17 1) 粘性強。しまりやや強。
- 径 1~5mmの小礫 10%以下含む。均質的。
- 2 黒褐色土 (30R2 2) 粘性強。しまり中。小砂礫 10~20%程度含む。均質的。
- 暗褐色土 (30R5 1) 粘性強。しまり中。小砂礫 10~20%程度含む。不均質。径 2~10mmの礫 10%以下含む。不均質。
- 4 黒色土 (30R17 1) 粘性強。しまりやや強。小礫少量含む。
- 5 暗褐色土 (30R3 3) 粘性中。しまりやや強。砂が主体。径 5mm程度の礫 10%以下含む。不均質。
- 6 黒色土 (30R17 1) 粘性強。しまり中。小礫少量含む。
- 黒褐色土 (30R3 2) 粘性中。しまり中。小礫少量含む。
- \* 暗褐色土 (30R3 3) 粘性やや強。しまり中。径 1mm程度の砂を多量含む。やや不均質。
- + 上記黄褐色土 (30R4 3) 粘性やや強。しまりやや強。径 2mm以下の小礫 10~20%含む。均質的。
- + 暗褐色土 (30R3 3) 粘性やや強。しまりやや強。径 2mm以下の小礫 10~20%含む。やや不均質。
- 黄褐色土 (30R5 6) しまりなし。径 0~1mm。均質的。
- N1 黄褐色土 (25Y5 4) 粘性やや強。砂質粘土層。一部暗褐色土 (75R5 6)。径 10~20mmの礫含む。不均質。
- S1 暗オリーブ色土 (5Y4 4) しまり中、砂・径 径やや大きい。
- 灰オリーブ土 (5Y4 2) のラニナ状態あり。
- R1 黄褐色土 (25Y5 4) 3) 硬質。径 1~20cmで、5cm程度の礫が主体。大型と小型の礫の層厚が見られる。礫の角はすべて丸みを帯びている。
- S2 オリーブ褐色土 (25Y4 4) 砂礫強。径やや大きい。
- N2 黄褐色土 (30R5 6) オリーブ褐色土 (25Y4 6) 粘性強。しまり弱。砂質。径 5mm程度の礫をやや多量含む。
- R2 黄褐色土 (30R5 6) オリーブ褐色土 (25Y4 6) 粘性やや強。やや砂質。径 2~5cm程度の礫が主体。やや均質的。
- N3 黄褐色土 (25Y5 4) 5) 6) 粘性やや強。しまり強。砂質。密。部分が集積した薄層あり。
- S3 オリーブ褐色土 (25Y4 3) 3) 砂礫強。径 5mm以下の小礫やや多量含む。やや不均質。
- R3 黄褐色土 (30R3 1) オリーブ褐色土 (25Y3 3) やり強。土層含む。径 10mm程度の礫が主体。低地側の礫の径が大きく、山側が小さい。角丸い。
- S4 オリーブ褐色土 (25Y4 4) 砂礫。しまり中。やや粘性。径 5mm以下。色調やや不均質。
- S5 オリーブ褐色土 (25Y4 4) しまりやや強。径 5mm以下の小礫やや多量含む。砂・径やや大きい。
- R4 暗オリーブ褐色土 (25Y3 3) 硬質。径 1~10cmで、5cm程度の礫が主体。

### 44-40ライン土層

- 上 黒色土 (30R2 1) 粘性強。しまり中。木屑・繊維多量含む。不均質。
- 黒色土 (75R17 1) 粘性やや強。しまり中。木屑多量含む。
- 褐色土 (30R4 4) 5) 4) (B7m) しまりなし。
- 粘り非常に細かい。色調・密度に差がある。
- 黒色土 (30R2 1) 粘性強。しまり中。小礫少量含む。
- a - b 黒色土 (75R2 1) 粘性強。しまりやや強。層厚やや不均質。径 0~10mmの砂・軽石 10%程度含む。均質的。
- a 黒色土 (10R17 1) 粘性強。しまり中。小礫少量含む。径 1~5mmの軽石少量含む。B7mのブロック状に少量含まれる。
- b 黒色土 (30R2 1) 粘性強。しまり中。径 0~10mmの砂・軽石 10~20%程度含む。B7mのブロック状に少量含まれる。
- 土1 a 黒褐色土 (30R2 2) 土砂堆積。粘性やや強。しまりやや強。層厚やや不均質。径 0~10mmの砂・軽石 20%程度含む。やや不均質。
- 土1 b 暗褐色土 (30R3 3) 土砂堆積。粘性中。しまりやや強。Kog砂を多量含む。径 0~10mmの砂・軽石 10~20%以上含む。やや不均質。
- 土1 c 黄褐色土 (30R5 8) 4) 土砂堆積。粘性弱。しまりやや強。層厚不均。Kog砂質ローム主体。径 0~10mmの砂・軽石。不均質。軽石層点状に含む。
- 黒色土 (10R17 1) 粘性非常に強。しまり中。泥炭層ととどなし。均質。
- 土2 a 黒褐色土 (30R2 3) 土砂堆積。粘性中。しまりやや強。径 2~10mmの軽石やや多量含む。Kog砂少量含む。不均質。
- 土2 b 褐色土 (10R4 4) 土砂堆積。粘性中。しまり中。Kog砂少量含む。径 2~10mmの軽石やや多量含む。やや不均質。
- d 黒色土 (10R17 1) 粘性非常に強。しまりやや強。径 1mm程度の砂を含む。均質的。
- 緑褐色土 (75R3 3) 4) 粘性やや強。しまりやや強。砂質。部分集積により変色している部分あり。不均質。
- 黄褐色土 (30R5 6) しまりなし。径 0~1mm。均質的。
- \* オリーブ褐色土 (25Y4 6) しまりやや強。砂質ローム。
- オリーブ褐色土 (25Y3 3) 3) 4) (シルト質ローム) 粘性やや強。しまり中。部分集積により変色している部分あり。
- 暗オリーブ色土 (25Y3 3) 3) 2) (砂質ローム) 粘性強。しまりやや強。暗褐色土 (75R3 4) 4) 暗褐色土 (30R3 6) 径 1mm程度の小礫が主体。部分集積により変色している部分あり。
- R2 黒色土 (25Y2 1) しまりやや強。砂質。径 2~5cm程度の礫が主体。オリーブ褐色土 (25Y3 4) (シルト質ローム) と同種だが、より砂質。オリーブ褐色土 (25Y4 6) 粘性。しまり強。大型の礫を多量含む部分がある。

## (5) 遺物の分類

## 土器

分類規準は、当センター通有の大別（縄文時代五大別と続縄文・擦文時代にそれぞれ 1 群を付す）を踏襲し、主体時期は細分した。

群 縄文時代早期に属する土器群。今回の調査では出土していない。

群 縄文時代前期に属する土器群。

a 類：縄文の施された丸底・尖底を特色とするもの。春日町式など。

b 類：円筒土器下層式に相当するもの。

b - 1 類：円筒土器下層 a 式に相当するもの。なお直前段階のものも含まれている（ 章）。

b - 2 類：円筒土器下層 b 式に相当するもの。

b - 3 類：円筒土器下層 c 式に相当するもの。

b - 4 類：円筒土器下層 d 式に相当するもの。

群 縄文時代中期に属する土器群。

a 類：円筒土器上層式・サイベ沢 式・見晴町式に相当するもの。

b 類：円筒土器上層式に後続する土器群。櫻林式・大安在 B 式・ノダップ 式・煉瓦台式に相当するもの。

群 縄文時代後期に属する土器群。

a 類：初頭～前葉の土器。天祐寺式・涌元式・トリサキ式・大津 群・白坂 3 式に属するもの。

b 類：中葉の土器。ウサクマイ C 式・手稲式・鯉瀬式併行に属するもの。

c 類：後葉の土器。堂林式・「三ツ谷式」・湯の里 3 式に属するもの。今回出土していない。

群 縄文時代晩期に属する土器群。

a 類：大洞 B・B C 式に属するもの。今回の調査では出土していない。

b 類：大洞 C 1・C 2 式、聖山 式に属するもの。

c 類：大洞 A・A 式、聖山 式に属するもの。

群 続縄文時代に属する土器群。今回の調査では出土していない。

群 擦文時代に属する土器群。今回の調査では出土していない。

( 阿部 )

## 石器等

石器は剥片石器類、礫石器類に大別し、形態ごとに分類した。分類の原則と区分を以下に示す。細分記号は付していない。なお、複数の器種が複合している場合は使用痕の多寡により一方の器種にまとめている。

## 剥片石器類

石鏃：押圧剥離により両面が調整され、尖頭形を呈する 5 cm未満のもの。

ポイント・ナイフ：押圧剥離や平坦剥離によって両面が調整され、尖頭形を呈する 5 cm以上のもの。

石錐：錐状の突出部が作り出されたもの。

つまみ付ナイフ：挟り状の加工によって、端部につまみが作り出されたもの。

筒状石器：両面が調整された石器で、一端に直線状ないし弧状の刃部が形成されるもの。

スクレイパー：剥離が素材の側縁に連続的に加えられたもの。

両面調整石器：剥離が素材の両面に施されるが尖頭形でないもの。

ピエス・エスキュー：剥片もしくは礫を素材とし、対向する小剥離が素材の両端部にあるもの。

Rフレイク（二次加工ある剥片）：不定形な剥片を素材とし、縁辺の一部に二次加工が認められるもの。

剥片：石核・石器から剥離されたもので、二次的な剥離が見られないもの。

石核：石器の素材と成り得る剥片を剥離した痕跡があるもの。

原石：石器素材と成り得る礫の内、剥片の剥離が行われていないが、不明瞭なもの。

#### 礫石器類

石斧：打ち欠き・敲打・研磨により形成され、一端に刃部を作り出したもの。

たたき石：敲打痕のあるもの内、持ち運び可能なもの。

すり石：擦り痕のあるもの内、持ち運び可能なもの。

石錘：擦切技法を用いた石器製作に使用されたもので、断面がV字形の擦面をもつもの。

扁平打製石器：周囲もしくは両端部を打ち欠き、半円または楕円に整形されたもので、縁辺に擦り痕を有するもの。

扁平打製石器原材：周囲もしくは両端部を打ち欠き、半円または楕円に整形されたもので、縁辺に擦り痕が認められないもの。石錘に形状が似る。

北海道式石冠：打ち欠き・敲打により、整形されたもので、下面に擦り痕を有するもの。

砥石：凹んだ砥面をもつもの。

台石・石皿：擦り痕もしくは敲打痕があるもの内、持ち運びが困難なもの。

石製品：加工が加えられた石製の遺物の内、狩猟・採集具および加工具ではないもの。（村田）

## 5 調査結果の概要

遺跡は、海岸から2 kmほど内陸へ入った森川の右岸河畔に位置する。調査区は標高8m前後の下位の段丘と標高95mほどの上位段丘の縁辺部、及びその間の段丘崖を含む。上位の段丘は森川3遺跡が隣接し、森川の対岸には森川2遺跡、上台1遺跡、上台2遺跡が続いている。

調査は上位段丘を「台地上」、低位段丘を「低地部」、その間の段丘崖を「斜面部」と呼称して行った。調査区東側の斜面部は森川に開析され、大きく内湾した地形となっている。かつての川の攻撃面にあたる調査区北側は黒色土（層Ⅰ～層Ⅲ）が厚く堆積しており、最大で15mに達する。低地部は偏平礫の帯状の堆積が、現在の森川とほぼ平行して数条見られ、一時期河川の流路となっていたとみられる。これらの周辺では、焼土や多量の遺物が出土し、水際の活動の痕跡が顕著にみられた。

当初、調査予定面積は810㎡であったが、調査中に斜面部と森川側の低地部に包含層が良好に存在することが確認され、遺物も出土することから、斜面部の532㎡、低地部の58㎡を調査範囲に追加し、最終的な調査面積は1400㎡となった。

検出した遺構は、大形のフラスコ状ピットを含む土壌8基、柱穴状小ピット2基、石組炉2カ所、焼土5カ所、すべて縄文時代のものである。土壌のうち、MP-5～8はフラスコ状ピットで、台地上の縁辺部に位置している。最も大きいMP-7は墳底面の直径約2.2m、確認面からの深さが約2mで、覆土中位から縄文時代中期後半の土器が1個体出土した。MP-2は覆土上位に焼土があり、その上に直径1cm以下から5cmほどの小礫が1173点、円形に敷かれていた。覆土の下位は埋め戻しである。また、土壌の周囲に柱穴状の小ピットが巡っており、何らかの儀礼的な行為が行われた土壌墓の可能性がある。台地上の遺構は、隣接する森川3遺跡の遺構群と一連のものと考えられる。石組炉は低地部の黒色土中から2カ所が近接して検出された。MS-1の中には、縄文時代後期前葉のトリサキ式土器が1個体残されていた。焼土は斜面部のMF-4を除き、低地部の旧河川付近から検出

された。MF - 2からは縄文時代中期の土器に伴って、「石冠様石器」が出土している。

遺物は、24160点出土した。土器・土製品21418点、石器等2742点である。遺構に伴うものは少なく90%以上が包含層からの出土である。北東側の大きく湾曲した低地部からの出土が多い。土器は縄文時代前期～晩期のものが出土しており、前期では円筒下層式およびその直前、中期ではサイベ沢式、後期ではトリサキ式、手稲式、晩期では聖山式（大洞A式）が多い。土製品は土器片再生円盤、三角形土製品がある。石器は完形で出土するものが多くみられた。剥片石器ではスクレイパー、つまみ付ナイフが多い。礫石器はすり石の多さが特徴的で、扁平打製石器、北海道式石冠、石皿なども出土している。

(村田)

表 - 1 出土遺物一覧

遺構種別 遺構番号	MP-								MF-	MS-	遺構合計	包含層						包含層合計	合計											
	2	3	4	6	7	8	2	1				2	I-IIIa	IV	V	V砂	Va-Vc			Vd	VI									
土器	II a													19		13		32	32											
	II b-1											1	4590	1	149	1247		5988	5988											
	II b-4	29	8	1	1					1	40	21	5	2952	34	606	2	3620	3660											
	III a	10	138	5	2	50	15	129			349	9	3	1834	4	70	36	1956	2305											
	III b													201	1	4		206	206											
	IV a		1					17	39	1	58	55	70	6560	662	123	7	2	7479	7537										
	IV b											70	13	920	77	5		1085	1085											
	V c											19	6	449	99	2		575	575											
	不明	2		1							3			1				1	4											
土製品	土器片再生円盤	1									1			13	1	5	1	20	21											
	三角形土製品															1		1	1											
	土製品													4				4	4											
<b>土器等合計</b>												<b>42</b>	<b>147</b>	<b>7</b>	<b>3</b>	<b>50</b>	<b>15</b>	<b>146</b>	<b>40</b>	<b>1</b>	<b>451</b>	<b>175</b>	<b>97</b>	<b>17543</b>	<b>879</b>	<b>965</b>	<b>1305</b>	<b>3</b>	<b>20867</b>	<b>21418</b>
石器	石鏃											2		17	1		5		25	25										
	石鏃													12					12	12										
	つまみ付キナイフ													31		2	9		42	42										
	ポイントナイフ													11	1		1		13	13										
	スクレイパー											1	1	88	2	4	11		107	107										
	石斧	1				1					2			21	2		2		25	27										
	扁平打製石器	1		1							2			24		2			26	28										
	たたき石													9		2			11	11										
	くぼみ石													1					1	1										
	すり石	1									1			96	1	19			116	117										
	北海道式石冠													22		2			24	24										
	石鏃	3									3			15		2			17	20										
	砥石	1									1			8	1	1			10	11										
	台石													5					5	5										
	石皿								1		1			25		3			28	29										
	Rフレイク		2			1					3			52		2	1		55	58										
	フレイク	12				1					13	3	6	738	39	12	166		964	977										
	石核													12	1		1		14	14										
	石冠								14		14								14	14										
	石棒													1	1				2	2										
石製品 礫		1176	1						3	2	1	1183		19	2		1		22	1205										
<b>石器等合計</b>												<b>1195</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>18</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1223</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>1207</b>	<b>48</b>	<b>34</b>	<b>217</b>	<b>1519</b>	<b>2742</b>		
<b>遺物合計</b>												<b>1237</b>	<b>150</b>	<b>8</b>	<b>4</b>	<b>52</b>	<b>15</b>	<b>164</b>	<b>42</b>	<b>2</b>	<b>1674</b>	<b>181</b>	<b>104</b>	<b>18750</b>	<b>927</b>	<b>999</b>	<b>1522</b>	<b>3</b>	<b>22468</b>	<b>24180</b>

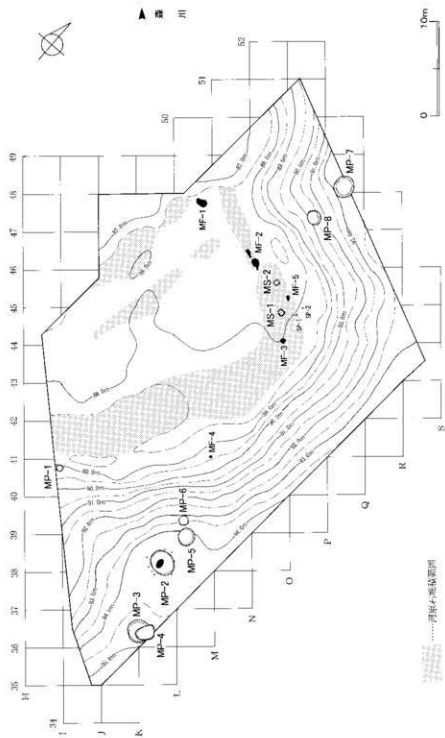


図 - 7 遺構位置図

## 遺跡の位置と周辺の遺跡

### 1 遺跡の立地と環境 (図 - 1・2)

#### 位置と地名の由来

遺跡の所在する森町は、内浦湾（噴火湾）に面する渡島半島のほぼ中央に位置し、渡島支庁管内茅部郡に属する。東側は駒ヶ岳山頂から押出沢を境に砂原町と、南側は宿野辺川を挟んで大野町、七飯町と、南西側は渡島山地を分水嶺として厚沢部町と、西は茂無部川を挟んで八雲町と接し、北は内浦湾（噴火湾）に臨んでいる。

町名にもなっている「森」は、アイヌ語の「オニウシ」（生えている・木・所・木の多く生えているところ）が和訳されたものである。森町史には「古くから、本町一帯は、実によく樹木が繁茂していたと思われる。海岸から見上げる上台方面の緑樹がうっそうとして、あたかも、樹林密生の巨大な丘とも見たであろう。」と記述されている。「森・川」を意味する「オニウシベツ」は、本来は市街の西を流れる鳥崎川をさしていたようであるが、現在では市街地付近を流れるやや小規模な河川に「森川」の名が付されている。

遺跡は、森町市街地周辺部、噴火湾の海岸から約 2.5km 内陸に入った森川の右岸河畔に位置する。調査区内は標高 8m 前後の下位の段丘と標高 95m ほどの上位の段丘の縁辺部、その間の段丘崖を含んでいる。上位の段丘に森川 3 遺跡が隣接し、森川の対岸には森川 2 遺跡、上台 1 遺跡、上台 2 遺跡が続いている。

#### 遺跡周辺の地形・環境

森町の南東に駒ヶ岳がそびえ立ち、東～北～北西に緩やかな傾斜面をなしている。山麓の台地や平地には、開析された小谷が所々に形成されている。駒ヶ岳は標高 1131m の成層火山で、山頂部の東側は馬蹄形に火口が崩壊して開いている。これは特に 1640 年の山体崩壊を伴う激しい噴火の際に形成されたもので、山麓に約 2m の火山灰（K o - d）を堆積させた。それ以前の噴火では、折戸川を堰き止め大沼などの湖沼を残すなど、有史以来大小の噴火を幾度もくり返しており、現在でも活動が見られる。これらの噴火に起因する火山灰は、道南地域の発掘調査において時期を知る「鍵層」として用いられている。森川地区では、K o - d 火山灰が 2m に達する厚さで堆積しているほか、約 6000 年前に降下した K o - g 火山灰が 20～30cm 堆積している（濁川火砕流堆積物層より上位）。

また遺跡から約 10km 北北西方向には濁川カルデラ盆地がある。濁川カルデラは約 20000～12000 年前に噴火し、火砕流台地を形成した後、火口を陥没させカルデラを生成した。その火砕流堆積物が森町内に厚く堆積している。

森川地区周辺の地形は、全体的には緩やかな傾斜をもつ台地をなしている。渡島山地から北東の内浦湾（噴火湾）に向かって傾斜する丘陵性地形の縁辺であり、また駒ヶ岳から北西に伸びる平原状の台地の縁辺部でもある。河川は後背の渡島山地を源にした小規模なものが多く、森川地区周辺には鳥崎川、森川、中川、尾白内川などの内浦湾（噴火湾）に注ぐ中小の河川がある。森川は森川山（標高 609m）を源とする延長 9.7km ほどの小河川である。山地から林間を流れ、森川 4 遺跡付近でやや緩やかになり、市街地を貫流している。森川をはじめ、これらの河川に面した河岸段丘上や海岸段丘上の平坦面には多くの遺跡が確認されている。

(阿部)



図 - 1 遺跡周辺の地形 (1)



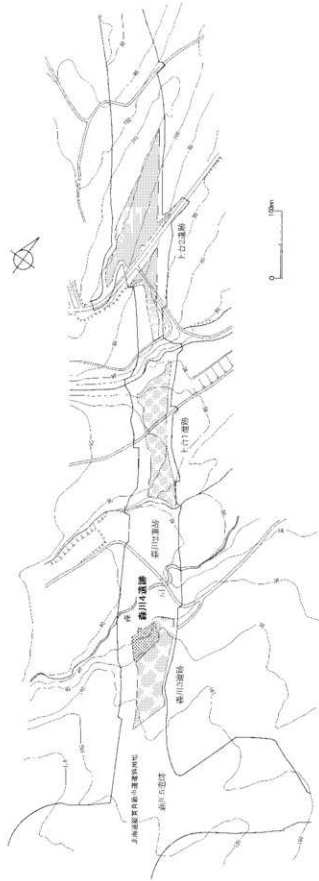


図 - 2 遺跡周辺の地形 ( 2 )

## 2 周辺の遺跡(図 - 3、表 - 1)

### 森町の遺跡

森町では、平成16年12月現在、43ヵ所の遺跡が記載されている。過去に調査が行われた主なものは、昭和2年から29年にかけて東京大学駒井和愛による尾白内貝塚の調査があり、続縄文時代恵山式の土器、石器、骨角器が出土している。尾白内貝塚は昭和5年と平成4年に町教育委員会で調査が行われている。また、昭和30年代から40年代にかけては熊野喜蔵による姫川1遺跡(旧姫川A遺跡)・姫川2遺跡、森川1遺跡などが調査され、縄文時代前期から中期が主体の遺跡であることが確認されている。昭和38年には市立函館博物館により森川貝塚の調査が行われた。そのほか、町教育委員会によって、昭和46年に姥谷遺跡、昭和49年に鳥崎遺跡、昭和5年にオニウシ遺跡、昭和59年・平成5年に御幸町遺跡などが調査され、おもに縄文時代中期から後期の様相が次第に明らかになっている。最近では北海道縦貫自動車道建設工事に伴う調査が継続して実施され、町教育委員会による鷺ノ木4遺跡・鷺ノ木5遺跡や当センターによる石倉1遺跡・濁川左岸遺跡・上台2遺跡・森川3遺跡など継続中のものも含め2遺跡が調査されている。特に平成15年から平成16年に行われた町教育委員会による鷺ノ木5遺跡の調査では、縄文時代後期前葉のストーンサークルおよび竅穴に複数の墓が検出され、注目を集めている。

遺跡の分布は、尾白内川流域と七飯町との境界である宿野辺川流域に数ヵ所の遺跡がある他は、森町市街地から茂無部川にかけての海岸段丘上と内浦湾(噴火湾)にそそぐ河川沿いに集中している。この地域の遺跡の時期は、縄文時代中期から後期のものが大半であるが、河川沿いの遺跡は、内陸部に向かって縄文時代後期を主体とするものが増加する傾向が見られる。続縄文時代の遺跡は、森町市街地の低位の海岸段丘上に多い。

### 森川4遺跡周辺の遺跡

「森川」の名を冠する遺跡について簡単に例記する。

**森川貝塚遺跡** 昭和38年に市立函館博物館により調査が行われた。貝層は二層あり、上層は続縄文時代、下層は縄文時代前期である。ホッキガイ・ホタテガイ・イガイのほか、ウニなど多種類の貝殻等が堆積していた。遺物は縄文時代前期の円筒土器下層式・続縄文時代恵山式・擦文式の土器のほか、土師器片・須恵器片、鍋・斧・釣針などの鉄器、古銭などが出土した。

**森川1遺跡** 旧森川A・C・Dの3遺跡を統合したもの。昭和37年～昭和46年の間に熊野喜蔵らにより調査された。A遺跡は縄文時代前期、C遺跡は縄文時代前期～中期、D遺跡は縄文時代中期～後期が主体である。C遺跡では、炭化したクリヤクルミの実が出土した。

**森川2遺跡** 森川4遺跡から森川をはさんだ対岸の露台地区に位置する。北海道縦貫自動車道建設工事に伴い、平成14年・平成15年に森町教育委員会により調査が行われた。縄文時代前期後葉・晩期後葉と擦文文化層があり、その層間に土石流堆積物が厚い層をなしていた。遺構は、晩期聖山式期の石組炉・集石などが検出されている。

**森川3遺跡** 森川4遺跡の南東に隣接する。平成14年～平成16年に当センターが調査を行った。平成14年の調査では、近世の畑跡が調査範囲のほぼ全面に広がり、幅1mほどの畝がおおむね同一方向に作り出されているのが確認された。遺構の主体は縄文時代前期～中期のもので、竅穴住居跡16軒、土壇8基、石組炉1ヵ所、焼土18ヵ所などが検出されている。竅穴住居跡のうち平成16年に調査された3軒は、長軸8～13mの大形で、4～8本の主柱穴をもち、周辺に幅5～8m、厚さ30～80cmの掘り揚げ土をもつものである。縄文時代前期後半に属する。

(阿部)

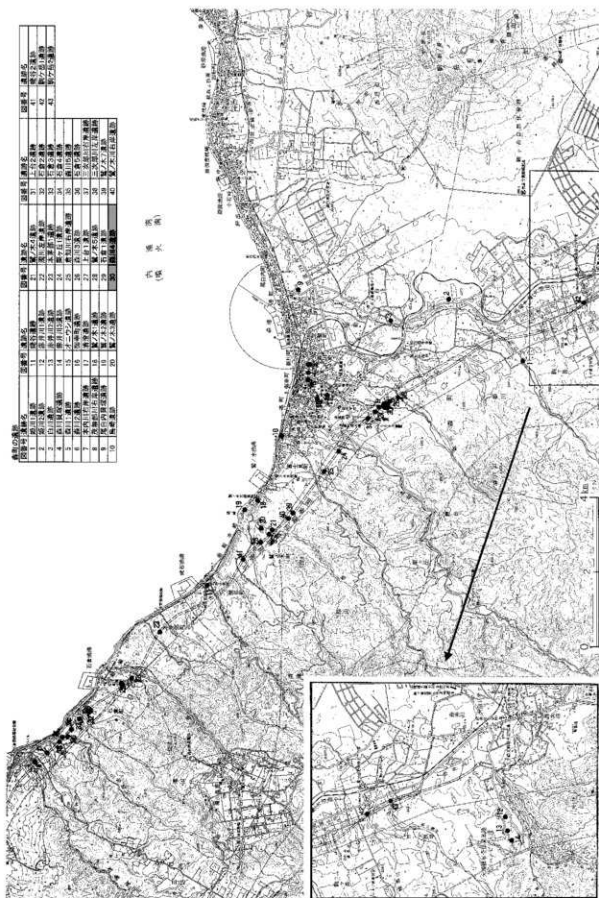


表 - 1 森町の遺跡一覧

台帳番号	名称	種別	所在地	立地	標高(m)	時期(型式地名)	備考
1	姫川1遺跡	遺物所在地	宇駒ヶ岳132-1~4	河岸段丘	167	縄文中期(内閣上層)	
2	姫川2遺跡	遺物所在地	宇駒ヶ岳17-216、-217、-6	河岸段丘	112	縄文中期(内閣上層)	
3	白川遺跡	遺物所在地	宇白川49-14	河岸段丘	48~50	縄文晩期・縄文 縄文前期、続縄文(基山)、縄文、 近世	貝塚あり
4	森川貝塚遺跡	貝塚	森川町76-79ほか	海岸段丘	13~15		旧森川口遺跡
5	森川1遺跡	遺物所在地	森川町69-2ほか	海岸段丘	15~18	縄文前(内閣下層b)・中期、続 縄文(基山)	1987「森川A遺跡」森町教委 調査川A・C・D遺跡
6	森川2遺跡	遺物所在地	宇露台34-1、35-2	台地	80~100	縄文中~晩期、縄文	2004「森川遺跡」森町教委
7	木内川右岸遺跡	遺物所在地	宇石倉町610-7・8	台地	40~60	縄文中(内閣上層b)ノダツブ I・後期(天祐寺)	2003「森町木内川右岸遺跡」 北壇調査162
8	茂原川右岸遺跡	遺物所在地	宇石倉町610-2・5	台地	40~60	縄文中~後期	
9	尾白内貝塚遺跡	貝塚	宇尾白内926、929-1ほか	海岸段丘	10~14	縄文晩期(大洞A')・続縄文(基 山)	1981尾白内、1993尾白内 2)森町教委
10	鳥崎遺跡	遺物所在地	森崎1-1、宇富士見町13ほか	海岸段丘	15~30	縄文後期	1975「鳥崎遺跡」森町教委
11	姥谷遺跡	遺物所在地	宇姥谷町146-1ほか	河岸段丘	30~32	縄文中(内閣上層)・後期	1971「森町教委発掘調査」
12	赤井川1遺跡	遺物所在地	宇赤井川229	丘陵	175~195	縄文中期(内閣上層)	旧赤井川A遺跡
13	赤井川2遺跡	遺物所在地	宇赤井川229	丘陵	230~235	縄文中期	旧赤井川B遺跡
14	赤井川3遺跡	遺物所在地	宇赤井川229	丘陵	210	縄文中期	旧赤井川C遺跡
15	オニウシ遺跡	墓塚跡	宇上台326-18	海岸段丘	25~35	縄文早(東瀬路台)~中期(内閣上 層)	1977「森町オニウシ遺跡発 掘調査報告書」
16	御幸町遺跡	遺物所在地	宇御幸町132-2、宇清道3 -1ほか	海岸段丘	8~20	縄文中期(内閣上層)	1985「御幸町」、1994「御幸町 2)森町教委
17	清澄遺跡	遺物所在地	宇清澄27、29-2	海岸段丘	33~39	縄文中期(内閣上層)	旧高校校遺跡
18	箕ノ木1遺跡	遺物所在地	宇箕ノ木145-1ほか	海岸段丘	15~20	縄文中期(内閣上層)	
19	箕ノ木2遺跡	台場跡	宇箕ノ木455ほか	海岸段丘	40	近世	
20	箕ノ木3遺跡	遺物所在地	宇箕ノ木499-2ほか	河岸段丘	40~45	縄文中期(内閣上層)、続縄文(基 山)	
21	箕ノ木4遺跡	遺物所在地	宇箕ノ木506~510	河岸台地	45~50	縄文中(内閣上層)・後(タシネトウ L)・続縄文(基山)	2001~2003 森町教委発掘 調査 2003「森町高川左岸遺跡」 B地区-1 北壇調査208
22	高川左岸遺跡	墓塚跡	宇石倉町401、446-1、448	河岸段丘	40~50	縄文前(内閣下層)・中(内閣上層)・ 後期前葉	2004「高川左岸遺跡-A地 区-1」北壇調査208 2004遺構文発掘調査
23	本茅部1遺跡	遺物所在地	宇本茅部町205、272~274、 294	海岸段丘	80~85	縄文前(内閣下層)・中(内閣上 層、見晴町)・晩期(大洞C2)	2003「森町本茅部1遺跡」 北壇調査191、2004「森町 本茅部1遺跡(2)」北壇調査 199
24	栗ヶ丘1遺跡	遺物所在地	宇栗ヶ丘38~44	河岸段丘	35~45	縄文中・後期	2004「栗ヶ丘1遺跡」森町 教委
25	倉知川右岸遺跡	墓塚跡	宇栗ヶ丘7、11-1-2	丘陵	75~80	縄文中(内閣上層)サイバ沢岡(後 期(トリサキ))	2004「森町倉知川右岸遺 跡」北壇調査196
26	森川3遺跡	墓塚跡	宇森川町317-1-7	丘陵	100	縄文前・中期、続縄文(基山)、近世	2002~2004 遺構文発掘調 査
27	上台1遺跡	遺物所在地	宇上台33-1、42-1、364	丘陵	90	縄文中期・後期	2005「森町上台1遺跡」北 壇調査217集
28	箕ノ木5遺跡	遺物所在地	宇箕ノ木503-1、495-4・5	河岸段丘	70	縄文後期	2003、2004 森町教委発掘 調査
29	石倉1遺跡	遺物所在地	宇石倉町395~397、403、 404、439	丘陵	30~40	縄文中・後期	2002~2004 遺構文発掘調 査
30	森川4遺跡	遺物所在地	宇森川町317-18	河岸段丘	90	縄文前・中・後・晩期	2005「森町森川4遺跡」北 壇調査218
31	上台2遺跡	墓塚跡	宇上台町326-5 ~緑刺崖	河岸段丘 ~緑刺崖	90~100	縄文中~後期、近世	2005「森町上台2遺跡」北 壇調査216
32	石倉2遺跡	墓塚跡	宇石倉町146、623-1・3・4、 624-1、306	河岸段丘	65~71	縄文中・晩期	2004「森町石倉2遺跡」北 壇調査197
33	石倉3遺跡	遺物所在地	宇石倉町482、483、490	河岸段丘	65~75	縄文後期(天祐寺、トリサキ)	2004「森町石倉3遺跡」・石 倉5遺跡」北壇調査205
34	石倉4遺跡	遺物所在地	宇石倉町511、520、521	河岸段丘	60	縄文後期	2005「森町三次郎川左岸遺 跡・石倉5遺跡(2)・石 倉4遺跡」北壇調査219
35	森川5遺跡	遺物所在地	宇森川町317-7ほか	丘陵	110	縄文早~後期、近世	2004 森町教委発掘調査
36	石倉5遺跡	遺物所在地	宇石倉町512、513、519	河岸段丘	55~60	縄文中期	2004「森町石倉3遺跡・石 倉5遺跡」北壇調査205 2005「森町三次郎川左岸遺 跡・石倉5遺跡(2)・石 倉4遺跡」北壇調査219
37	三次郎川右岸遺跡	遺物所在地	宇石倉町513、516	河岸段丘	40~47	縄文前・中・後期、続縄文	2003、2004 遺構文発掘調 査
38	三次郎川左岸遺跡	遺物所在地	宇石倉町610-24	河岸段丘	35~50	縄文前・中・後期、続縄文	2005「森町三次郎川左岸遺 跡・石倉5遺跡(2)・石 倉4遺跡」北壇調査219
39	箕ノ木7遺跡	遺物所在地	宇箕ノ木の木町397-1ほか	尾根	60	縄文	2004 森町教委発掘調査
40	箕ノ木川右岸遺跡	遺物所在地	宇箕ノ木の木町396	台地	60	縄文	
41	姥谷2遺跡	遺物所在地	宇姥谷町281	台地	80	縄文	
42	駒ヶ岳1遺跡	遺物所在地	宇駒ヶ岳228-10	小川右岸	185	縄文早期	2004 森町教委発掘調査
43	駒ヶ岳2遺跡	遺物所在地	宇駒ヶ岳430-5	小川左岸	177	縄文	

# 遺構と出土遺物

## 1 概要

遺構は土壌 8 基、柱穴状小ピット 2 基、石組炉 2 カ所、焼土 5 カ所が検出された。すべて縄文時代のものである。土壌のうち台地上のものは MP - 2 - 8 で、隣接する森川 3 遺跡の遺構群と一連のものである。MP - 2 は埋め戻しの覆土で、上位に焼土があり、その直上に 1 cm 以下のものから 5 cm 程度の小礫が円形に敷かれていた。土壌の周囲には柱穴状の小ピットが巡っており、何らかの儀礼的な行為が行われた土壌墓と考えられる。縄文時代前期後半のものである。MP - 3、5 - 8 はフラスコ状ピットで最も大きい MP - 7 は墳底面の直径約 2.2m、確認面からの深さ約 2 m で、縄文時代中期後半の土器が 1 個体出土している。低地部の黒色土中から石組炉が 2 カ所、近接して検出された。焼土は斜面部から 1 カ所、旧河川沿いから 4 カ所確認した。

遺物は総数 1674 点出土した。土器は 45 点、石器・礫等 1223 点である。遺構出土の主なものは、MS - 2 に縄文時代後期のトリサキ式土器が 1 個体残されていた。また、MF - 2 から 群 b 類土器とともに「石冠様石器」が出土している。 (村田)

## 2 遺構と出土遺物

### (1) 土壌

MP - 1 (図 - 1、図版 3)

位置・立地：H・I - 47・48 斜面から低位段丘面の変換点付近、標高約 89m に位置する。

規模：0.79/0.64 0.78/0.55 0.46m 長軸方向：- 平面形：ほぼ円形

確認・調査：斜面の包含層調査中、層上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。半截したところ、明瞭な底面と壁が認められたので、土壌と判断した。斜面であるため、高位段丘側は深く低地側は浅く掘り込まれている。

覆土：上位は黒色の腐植土層で、中位は周囲の土層堆積と同様に 一層が混在した土層、最下層は土砂を含む黒色土である。すべて自然堆積とみられる。

墳底・壁：墳底面は平坦で堅い。斜面側の壁は、墳底面からほぼ垂直に立ち上がって中位から緩やかに外反し、低地側の壁は 30 程度の緩やかな角度で立ち上がっている。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：縄文時代前期～後期のいずれかに属するものと思われるが、詳細は判断できない。 (阿部)

MP - 2 (図 - 1・5、図版 3・4・10・11)

位置・立地：K - 37・38 台地上の標高 94m 付近の平坦面に位置する。

規模：2.83/2.47 2.37/2.05 0.84m 長軸方向：N - 66 - W 平面形：楕円形

確認・調査：層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。長軸方向に断面観察用の壁面を設定し掘り下げたところ、明瞭な壁と底面が認められたので、土壌と判断した。土壌の周辺から柱穴状の小ピットを 7 基確認した。直立するものと斜めになるものがある。埋め戻しと考えられる覆土や焼土、遺物出土状況などから判断して、土壌墓の可能性がある。

覆土：自然堆積の 1 層下に、焼土が 1.2m 0.78m の範囲で見られる。焼土以下の 4 層～7 層は埋め戻しと考えられる。4 層～6 層は 層主体で 7 層は 層が大半を占める。壁付近は崩落土が堆積してい

る。

壇底・壁：壇底は平坦で、壁際が周溝状に浅く窪んでいる。壁は崩落が激しいが、フラスコ状を呈する。

遺物出土状況：覆土の上位にある焼土の直上に、径1 cm以下から5 cm程度の小礫1173点、重量で6.470gが0.76m～0.9mの範囲で敷き詰められていた。礫は被熱していない。

時期：遺構および遺構周辺の遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。（村田）

遺物：土器 1は群b-4類円筒土器下層d式の胴部片。燃糸文と結束（第2種）羽状縄文が施されている。内面が磨かれている。2・3は群a類に属するものと思われる。2は口唇上に縄溝圧痕が見られる。焼成は良好である。3は深鉢の大型突起部分。上端は平坦である。貫通孔の周に沿って粘土紐が貼り付けられている。（阿部）

石器 19は緑色泥岩製の石斧。全面研磨されている。16は安山岩製のすり石。偏平な礫の両面を使用している。17は安山岩製の砥石片で、敲打による調整が施されている。（村田）

### MP-3（図-2・5、図版4・10）

位置・立地：J・K-36 台地上の標高95m付近の平坦面に位置する。

規模：205/174 153/143 0.9m 長軸方向：N-50-E 平面形：隅丸方形

確認・調査：層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。調査区の境界に断面観察用の壁面を設定し掘り下げたところ、2つの重複した土壌であることがわかった。新しい土壌をMP-3、古いものをMP-4として調査を行なった。形態からフラスコ状ピットと判断した。

覆土：黒色土に砂や軽石が混入した自然堆積が主体である。壁際は層・層の崩落土がみられ、壇底付近は粘質の黒色土が堆積している。

壇底・壁：壇底はほぼ平坦で、壁際が周溝状にくぼんでいる。壁は崩落が激しく、開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土に群b-4類と群a類の土器片が散見する程度である。

時期：遺構と遺構周辺の遺物から、縄文時代前期後半から中期前半と考えられる。（村田）

遺物：土器 4は群b-4類円筒土器下層d式の胴部片。結束（第2種）羽状縄文が縦位および横位に施されている。内面が磨かれている。5-7は群a類に属する。5は口縁部につまみ状の突起がある。口唇部は貼付粘土紐により整形されている。6・7は同一個体。口縁部は強くくびれ大きく外反している。太さ5mm程度の粘土紐を口縁および口唇上に貼り付け、そこに細かく燃れた縄文原体を連続押捺している。頸部の粘土紐は8の字状に交差させている。口縁部・胴部にそれぞれ馬蹄形圧痕がみられる。7はMP-3とMP-4から出土した土器が接合したもの。（阿部）

石器 18は安山岩製の扁平打製石器。礫の両端と機能部に敲打による調整が施されている。（村田）

### MP-4（図-2・5、図版5・10・11）

位置・立地：J・K-36 台地上の標高95m付近の平坦面に位置する。

規模：(261)/(218) 235/199 0.4m 長軸方向：N-84-W 平面形：楕円形

確認・調査：層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。調査区の境界に断面観察用の壁面を設定し掘り下げたところ、2つの重複した土壌であることがわかった。新しい土壌をMP-3、古いものをMP-4として調査を行なった。

覆土：層を主体とする自然堆積である。壁際はKogが混じる褐色土が多く、遺構の掘り揚げ土が流

入したものと考えられる。

壊底・壁：壊底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。南西側の壁際にビット状のくぼみがある。  
遺物出土状況：覆土に 群b - 4類と 群a類の土器片が散見する程度である。

時期：遺構と遺構周辺の遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。 (村田)

遺物：土器 8は 群b - 4類円筒土器下層d式の胴部片。地文は多軸結条体による燃糸文。内面が磨かれている。 (阿部)

#### MP - 5 (図 - 3、図版5)

位置・立地：L・M - 39 台地上の標高94m付近の平坦面から斜面部への地形の転換点付近に位置する。

規模：18/ 169 171/ 149 074m 長軸方向：- 平面形：ほぼ円形

確認・調査：層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。半載したところ、明瞭な底面と壁が認められたので、土壌と判断した。形態からフラスコ状ビットと判断した。

覆土：層を主体とする自然堆積層で、壁際では 層へ 層の崩落土と互層を成すことが多い。

壊底・壁：壊底はほぼ平坦。壁は崩落が激しいが、オーバーハングして立ち上がっている。

遺物出土状況：出土していない。

時期：遺構周辺の遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。 (村田)

#### MP - 6 (図 - 3・5、図版6・10)

位置・立地：L - 39 段丘から下る斜面の上位、標高約931m～936mに位置する。

規模：105/ 106 103/ 092 050m 長軸方向：- 平面形：ほぼ円形

確認・調査：斜面部の遺構確認調査中、層上面で円形の黒色～暗褐色土の落ち込みを確認した。MP - 5に隣接した位置にある。半載したところ、明瞭な底面と壁が認められたので、土壌と判断した。斜面であるため、段丘側は深く低地側は浅く掘り込まれている。

覆土：上位は黒色の腐植土層を基本とし砂や軽石が混入した堆積層、下位は 一層が混在した土層、最下層は軽石を多く含む黒色土である。人為的堆積か自然堆積かは判断できない。

壊底・壁：壊底はほぼ平坦で壁は、斜面側の壁は、オーバーハングして立ち上がっており、低地側の壁はほとんどない。

遺物出土状況：覆土中から土器片3点、フレイク1点が出土した。土器片は、群b類円筒下層d式1点と 群a類2点である。

時期：出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前半に属するものと思われる。

遺物：土器 9は 群b - 4類円筒土器下層d式の胴部片。地文は多軸結条体による燃糸文。表面がやや摩滅している。また側面がやや滑らかで円形に近い五角形であることから、土器片再生円盤の可能性がある。10・11は 群a類。10は口唇上に細かい磨りの縄文原体が連続押捺されている。11は口唇部が貼付粘土細で整形され、口唇上に沈線が施されている。 (阿部)

#### MP - 7 (図 - 4・5、図版7・9・10)

位置・立地：P - 47・48 段丘縁辺部、標高92～92.5mに位置する。

規模：230/ 220 212/ 177 206m 長軸方向：N - 1 - E 平面形：楕円形

確認・調査：段丘上の遺構確認を行ったところ、層上面でほぼ円形の黒色土の落ち込みを確認した。

大型の土壌を想定して土層観察用の帯を残し、先行する溝を入れながら掘り進めた。層Ⅰ層に相当する黒色土を掘り下げたところ、さらに不均質なロームが堆積していることが分かり掘り進めた。その結果、壁がオーバーハングし、深さが2mに達する大型のフラスコ状ピットであることが確認できた。

覆土：覆土は大きく上下に分けられる。いずれの土層も自然堆積によるものと思われる。

上位（土層Ⅰ～Ⅵ）は、この遺構の埋没後に形成された腐植土を主体とし、周辺の包含層から流入した土砂による堆積を含んだ土壌との互層をなしている。下位（土層Ⅶ）は壁面上部～中部からの崩落土を主体とし、周辺の包含層から流入した土砂による堆積との互層をなしている。このうち土層Ⅷは「層Ⅰ」の黄褐色粘質ローム、土層Ⅸは「層Ⅱ」のオリーブ褐色砂質ローム、土層Ⅹは「層Ⅲ」のオリーブ灰色のやや粗い砂質ロームが崩落したものである。特に土層Ⅷはほぼ純粋な粘質ロームが厚く堆積している。なお、最下層の土層Ⅹは、ロームの流入土と推定できる土壌が鉄分などにより変色している部分がある。

壊底・壁：壊底は平坦で、緻密で堅い。壁は壊底付近でオ・バ・ハンクし、中位ではほぼ垂直、壊口部付近では緩やかに開きながら立ち上がる。段丘側が大きくオーバーハングしている。

遺物出土状況：覆土中位（土層Ⅹ・崩落土）の壁際から群a類土器1個体が、横倒しの状態で出土した。半完形であり、残りの破片の一部は周辺から出土した。また覆土上位から、石斧1点とRフレイクが1点出土した。

時期：遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期の中頃と考えられる。

遺物：土器 Ⅹは口唇上の連続刺突などから群a類としたが、器形は群b類椀林式に類似する。底部は平坦で小さく、少しくびれて立ち上がり、胴部は膨らみ口縁下で緩やかにくびれて外反する。全体的に黄褐色を呈し、小礫を多く含む。内面に縦位のケズリ調整痕が明瞭に観察される。Ⅹは群b類椀林式に属するものと思われる。斜方向に太い条線が施文されている。口唇はやや丸みをおびている。小礫を多く含む。

(阿部)

#### MP - 8 (図 - 4・5、図版7・10)

位置・立地：O - 48 段丘から下る斜面上、標高89.9m～90.5mに位置する。

規模：154/132 139/120 0.77m 長軸方向：N - 83 W 平面形：楕円形

確認・調査：斜面部の遺構確認調査中、層Ⅹ上面でおおむね円形の黒褐色～暗褐色土の落ち込みを確認した。MP - 7から約4m南側の斜面を下った位置にある。半截したところ、明瞭な底面と壁が認められたので、土壌と判断した。斜面であるため、段丘側は深く低地側は浅く掘り込まれている。

覆土：オリーブ褐色の層Ⅹの土壌が主体であるが、Kogや暗褐色の腐植土など層Ⅶが混在している。すべて自然堆積と思われる。

壊底・壁：壊底は平らであるが、段丘側で一段高くなる部分がある。斜面側の壁は、壊底面からほぼ垂直に立ち上がって中位から緩やかに外反し、低地側の壁はほとんどない。

遺物出土状況：覆土上面で群a類土器片19点がまとまって出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代中期半ばと考えられる。

遺物：土器 Ⅹは群a類見晴町式で、やや大型の深鉢口縁部。壊口部付近からややまとまって出土した。緩やかな波状口縁に突起があり、粘土紐が貼り付けられた後、粘土紐上および口唇上に縄文原体押捺が行われている。

(阿部)



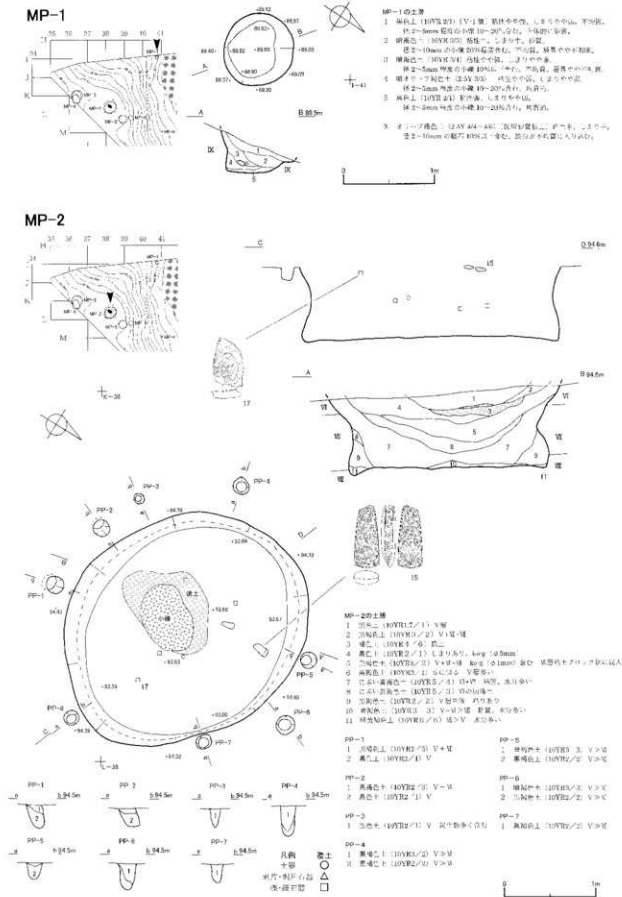
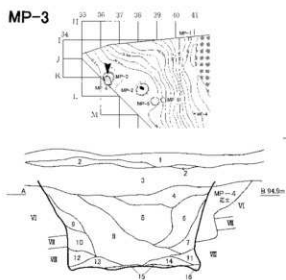


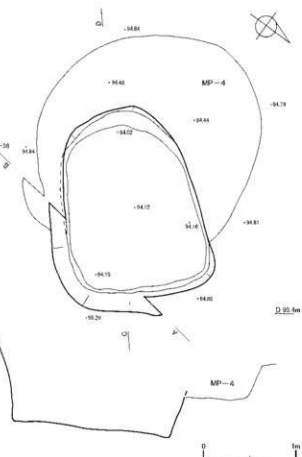
図 - 1 MP (土層) - 1・2

MP-3

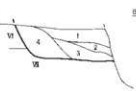
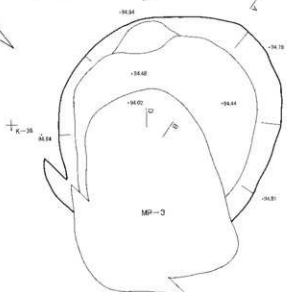


MP-3の上層

- 1 黒色土 (10YR4.7/1) Ⅱ
- 2 褐色土 (10YR4.7/5) Ⅱ 中 Ⅱ
- 3 褐色土 (10YR4.7/5) V
- 4 黒土上 (7.5YR3.7/1) V上層 Kvg (0.5mm) 粒0.0
- 5 灰色・黄褐色土 (10YR4/5) V-V Ⅱ Ⅱ
- 6 黄褐色土 (10YR4/1) V-V Ⅱ Ⅱ
- 7 赤褐色土 (10YR4/2) V-V Ⅱ Ⅱ
- 8 赤褐色土 (10YR4/2) V-V Ⅱ Ⅱ
- 9 黄褐色土 (10YR4/3) V-V Ⅱ Ⅱ
- 10 紅褐色土 (10YR4/4) V-V Ⅱ Ⅱ
- 11 褐色土 (10YR4/4) V-V Ⅱ Ⅱ
- 12 褐色土 (10YR4/4) Ⅱ
- 13 黄褐色土 (10YR4/2) V上層 (土質が細い)
- 14 褐色土 (10YR4/4) Kc-Ⅱ
- 15 黄褐色土 (10YR4.2) V上層 Ⅱ
- 16 灰色・黄褐色土 (10YR4/5) Ⅱ-V Ⅱ



MP-4

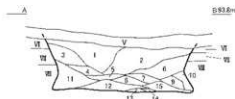
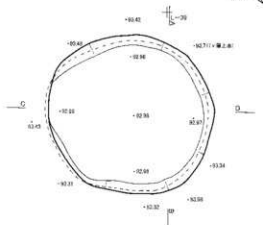


MP-4の上層

- 1 黒色土 (10YR4.7/1) V
- 2 褐色土 (10YR4/4) V (Ⅱ+Ⅲ)
- 3 黄褐色土 (10YR4/4) V-V
- 4 褐色土 (10YR4/4) Ⅱ-V

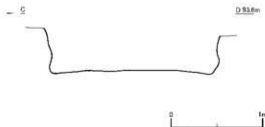
図 - 2 MP (土壌) - 3・4

MP-5

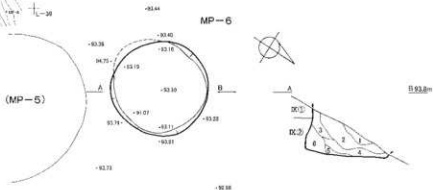
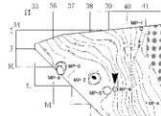


MP-5の土質

- 1 黒色土 (10YR3.5/1) V
- 2 灰色-黒褐色土 (10YR3.5/3) V+V+VII
- 3 暗褐色土 (10YR3.5/4) III+V
- 4 暗褐色土 (10YR3.5/4) III+V+VI
- 5 褐色土 (10YR3.5/5) III
- 6 褐色土 (10YR3.5/4) III 団塊
- 7 灰色-黒褐色土 (10YR3.5/3) V+V+VII
- 8 暗褐色土 (10YR3.5/3) V+V+VII
- 9 灰色-黒褐色土 (10YR3.5/3) VII 団塊
- 10 粘粘土 (10YR3.5/4) III
- 11 灰色-粘粘土 (10YR3.5/3) VII 団塊
- 12 暗褐色土 (10YR3.5/4) V+VI
- 13 黒褐色土 (10YR3.5/3) V
- 14 暗褐色土 (10YR3.5/3) III+III+III V VII
- 15 褐色土 (10YR3.5/4) III



MP-6



MP-6

MP-6の土質

- 1 粘粘土 (10YR 4/2) 粘粘土、少量の団塊、少量の鉄屑、ローム状物質が入る。
- 2 灰色土 (10YR 5/2) 粘粘土、少量の、赤鉄、少量の鉄屑、均質的。
- 3 粘粘土 (10YR 4/2) 粘粘土、少量の赤鉄、均質的。
- 4 暗褐色土 (10YR 3.5/4) 粘粘土、少量の赤鉄、粘土塊が不均質に入る。
- 5 褐色土 (10YR 3.5/5) 粘粘土、少量の、粘土塊が不均質、少量の赤鉄、少量の、粘土塊。
- 6 粘粘土 (10YR 4/2) 粘粘土、少量の赤鉄、粘土塊、均質的。

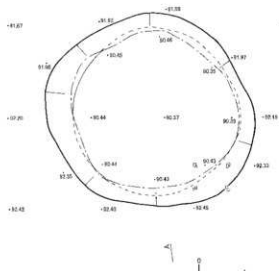
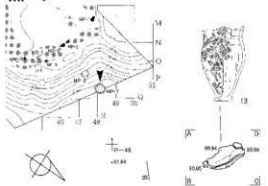
図2 褐色土 (10YR 4/2) (灰層の下部)

- 図2 粘粘土 (10YR 4/2) 粘粘土、ローム状物質の団塊、粘土塊が入る。

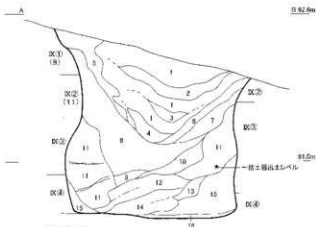
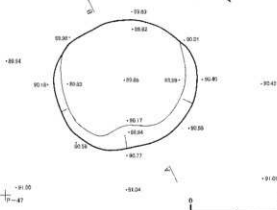
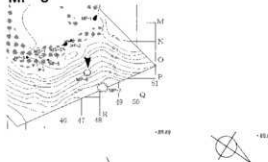


図 - 3 MP (土質) - 5・6

MP-7



MP-8



MP-7の土層

- 1 黒色土 (10YR 2/1) (V層) 粘中、しまりや中泥、全体的に粘り、厚 5mm 以下の層が 10% 程度存在、不明。
  - 2 灰色の褐色土 (10YR 4/3) 粘中、しまりや、砂質ローム多量、径 5mm 以下の骨子 10% 程度存在、不明。
  - 3 黒褐色土 (10YR 2/2) 粘中、しまり弱、砂質、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 4 灰褐色土 (10YR 4/1-3/4) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 5 褐色土 (10YR 2/3) (P層) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 6 褐色土 (10YR 3/4) 粘中、しまり弱、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 7 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/6-4/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 8 黒褐色土 (2.5Y 2/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 9 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 10 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 11 灰褐色土 (10YR 5/6-6/6) 粘中、しまり弱、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 12 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 13 褐色土 (10YR 2/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 14 褐色土 (10YR 2/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 15 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
- M1 灰褐色粘りローム、穴と穴に  
 M2 灰褐色粘りローム、穴と穴に  
 M3 砂質ロームとオリーブ褐色土の混在、穴と穴に  
 M4 穴の混在、径 5-10mm の骨



MP-8の土層

- 1 粘り褐色土 (10YR 3/3) 粘中、しまりや中、粘り。
  - 2 粘り少く穴行 (2.5Y 3/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 3 粘り少く穴行 (2.5Y 3/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 4 粘り少く穴行 (2.5Y 3/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
  - 5 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/3) 粘中、しまりや中、粘り、粘り少く穴行、穴的、粘り。
- K1g 灰 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/3)  
 K1 褐色土 (10YR 4/3) 粘り中  
 K2 オリーブ褐色土 (2.5Y 4/3) 粘り中

図 - 4 MP(土層) - 7・8

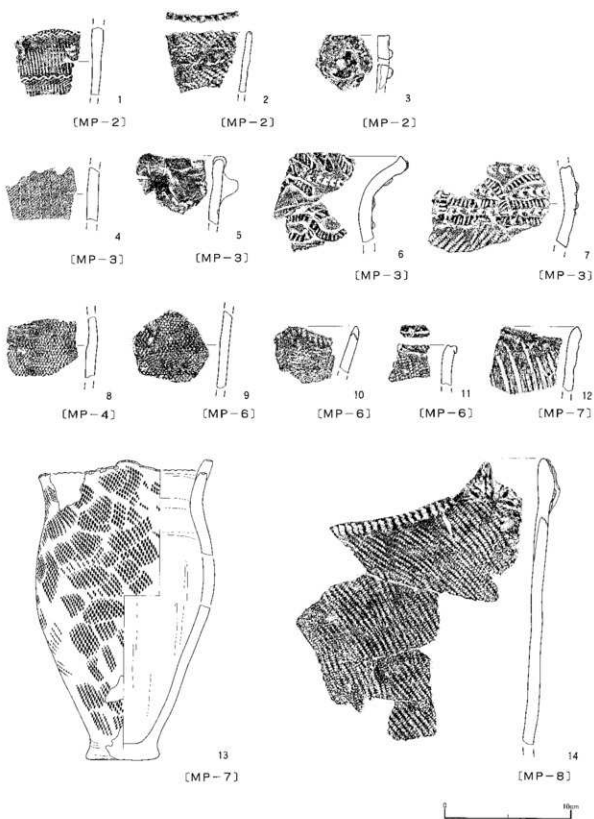


図 - 5 MP (土壇) 出土の土器

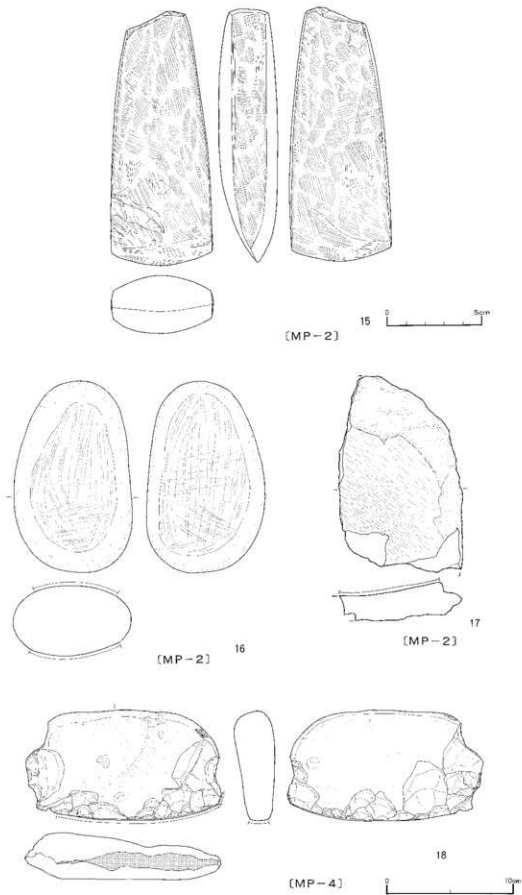


図 - 6 MP (土壌) 出土の石器

## (2) 柱穴状小ピット

## SP-1 (図-7、図版7)

位置・立地：O-44 旧河川の攻撃面付近、標高約88.5mに位置する。

規模：0.20 0.17 0.25m 平面形：ほぼ円形

確認・調査：44-45ラインのトレンチ調査中、b層から細く落ち込む黒色土を確認した。根穴なども想定したが、完掘の結果明瞭な円柱状の掘り込みが確認され、柱穴状ピットとした。MS-1やSP-2との関連がある可能性がある。

覆土：b層であり、自然堆積である。径10cmを超える自然礫が2点含まれている。

遺物出土状況：人工遺物は出土していない。

時期：遺構周辺の遺物や確認面から、縄文時代後期前葉と考えられる。

(阿部)

## SP-2 (図-7、図版7)

位置・立地：O-44 旧河川の攻撃面付近、標高約88.5mに位置する。

規模：0.16 0.16 0.26m 平面形：円形

確認・調査：層の掘り下げ中、土砂堆積層の上面で小型の円形の黒色土を確認した。半截したところ、明瞭な円柱状の掘り込みが確認され、柱穴状ピットとした。MS-1やSP-1との関連がある可能性がある。

覆土：b層を主体とし、軽石やロームなどが少量混在する。自然堆積である。

遺物出土状況：出土していない。

時期：遺構周辺の出土遺物や確認面から、縄文時代後期前葉と考えられる。

(阿部)

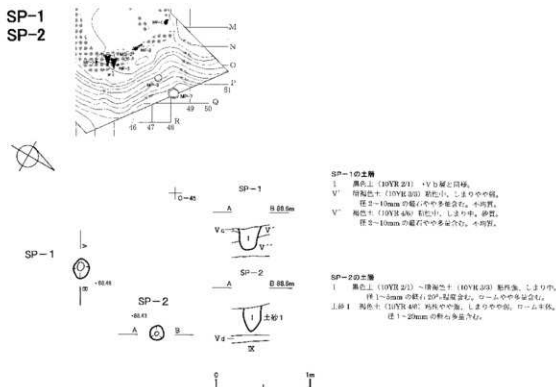


図-7 SP (柱穴状小ピット) - 1・2

### (3) 石組炉

#### MS - 1 (図 - 8、図版7・9)

位置・立地：N - 44 旧河川の攻撃面付近、標高約88.3mに位置する。

規模：071 068 026m 長軸方向：N - 14 E 平面形：おおむね方形

確認・調査：44-45ラインのトレンチ調査で、b層からc層にかけての断面に大型の礫が2点みられた。その後、周辺包含層調査で層を掘り下げたところ、大型の礫が方形に組み合わせられた配石遺構を検出した。その構造や、炭化物や焼土粒が検出されたことから、石組炉と判断した。

石組炉を構成する礫は大小7点あり、石材はすべて安山岩である。個々の大きさは15～45cmで、最大45 23 16cm、重量17.8kgの礫が用いられている。礫の角は丸みを帯びているものが多く、表面もおおむね平滑である。一部やや赤みがみられ表面がややざらついている礫があり、被熱したとみられる。また、石組炉外の北側から植物の茎とみられる炭化材が1.3mほどの範囲で残存しており、焼土粒の落ち込みもみられた。MS - 2・MF - 5・SP - 1・2と関連する可能性がある。

覆土：石組炉内の土壌は、周辺のb層と比較してやや明るい色調で、焼土粒とみられる明度の高い粒子がブロック状に混入している。

遺物出土状況：石組炉の中から、群a類トリサキ式土器1個体分が倒立に近い横倒しの状態で出土した。胴部の一部は石組炉を構成する礫に接している。

時期：出土遺物から、縄文時代後期前葉のものと思われる。

遺物：土器 1は群a類トリサキ式の大型深鉢。上半は石組炉内に倒立するような状態でまとまって出土し、下半は周辺包含層から破片で出土したものである。底面は平坦で緩やかに立ち上がり、胴部はふくらみもち、頸部は弱くくびれ、口縁部は外反する。無文地で、基本的に2本一組の沈線がえがかれている。口縁部は8の字状の粘土紐により6単位に区画され、その間を横位の長楕円文が3段ずつえがかれ、蛇行沈線が垂下している。胴部上半は、方形の区画内にX字状・V字状の文様が配置されている。胴下半は無文で、調整がていねいに行われている。内面頸部は横位のケズリ調整により弱い段をなしている。口唇上は平坦にナデている。

(阿部)

#### MS - 2 (図 - 8、図版7・10)

位置・立地：N - 45 旧河川の攻撃面付近、標高約88.1mに位置する。

規模：065 060 020m 長軸方向：N - 23 E 平面形：おおむね方形

確認・調査：包含層調査で層を掘り下げたところ、大型の礫が方形に組み合わせられた石組炉を検出した。調査の過程で、一部の礫は包含層に含まれる礫とみなして抜き取り、痕跡だけを残したのがある。石組炉を構成する礫は大小12点あり、MS - 1よりは小型の礫が多く用いられている。石材はすべて安山岩である。個々の大きさは5～30cmで、最大30 15 10cm、重量約8kgの礫が用いられている。礫の角は丸みを帯びているものが多く、表面もおおむね平滑である。一部やや赤みがみられ表面がややざらついている礫があり、被熱したとみられる。

覆土：石組炉内の土壌は、周辺のb層と同様である。

遺物出土状況：群a類の土器片が2点出土している。また、石組炉から約1m東から30cmほどの大きさの台石が1点出土しており、関連がある可能性がある。

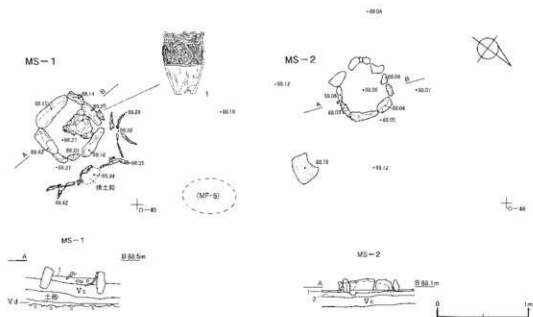
時期：遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉のものと思われる。

遺物：土器 2は群a類で、底部に近い胴部片。LR縄文に黒色物質が付着している。焼成は良好である。

(阿部)



MS-1  
MS-2



MS-1の土層

- 1 赤褐色～暗褐色 (F.2) 厚2.2～3.2 粘性や中強、しごりや中弱、  
厚1～5cmの層を約20%程度含む、ブロック状の塊土粒を不規則に含む。

MS-2の土層

- 1 赤色 (30YR 3.5/2) 粘性强、しごり中
- 2 赤褐色～暗褐色 (7.5YR 2/2～3/2) 粘性強、しごり中  
厚1～5cmの層の中多量含む、均質的。

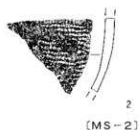
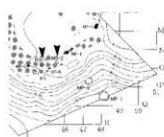
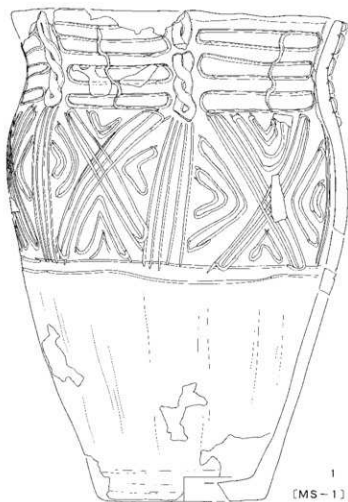


図 - 8 MS (石組炉) - 1・2と出土遺物

#### (4) 焼土

MF - 1 (図 - 9、図版 8)

位置・立地：L - 47 低地部の標高 87m 付近に位置する。

規模：123 082 005m

平面形：不整形

確認・調査：層上面で赤褐色土の帯状の落ち込みを確認した。半截してレンズ状の赤褐色の断面を確認したので、焼土と認定した。

遺物出土状況：出土していない。

時期：遺構周辺の出土遺物や確認面の位置から、縄文時代晩期のものと思われる。(村田)

MF - 2 (図 - 9・10 図版 8・9・11)

位置・立地：M・N - 45 低地部の標高 87m 付近の旧河川沿いに位置する。

規模：224 079 009m

平面形：不整形

確認・調査：層調査中、赤褐色土の帯状の落ち込みを確認した。半截してレンズ状の赤褐色の断面を確認したので、焼土と認定した。大小 2 つの落ち込みからなる。

遺物出土状況：2 つの焼土の間から、群 a 類の土器 1 個体と「石冠様石器」が破片の状態出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半の時期である。(村田)

遺物：土器 1 は群 a 類サイベ沢式(古段階)の大型深鉢。底面は平坦でやや強く張り出す。胴部のふくらみはやや弱く、口縁部は緩やかに外反する。結束羽状縄文がほぼ全面に施文され、やや細かい貼付粘土紐で縦横の帯状文や弧線文で文様を構成している。口縁部は 4 単位の台形様の大型突起が設けられており、中央の貫通孔の周りには細い粘土紐で円文や弧線文の装飾が加えられている。突起部以外の口唇上には縄文原体の連続押捺が行われている。胎土に小礫を多く含む。内面上半は調整がていねいである。2 は群 a 類で、底部に近い胴部片。L R 縄文に黒色物質が付着している。焼成は良好である。(阿部)

石製品 3 は全面に研磨が施された石製品で、形状はアイロンに似る。14 点が接合した。細くすばまった先端部がくぼみ、そこから研磨による 2 本の沈線が巡っている。全体の 3 分の 1 程が被熱し赤色化しているが、赤色化した部分は表面付近に限られているため、完形かそれに近い形で被熱したと考えられる。(村田)

MF - 3 (図 - 9、図版 8)

位置・立地：N - 44 低地部の標高 89m 付近の旧河川際に位置する。

規模：047 043 004m

平面形：ほぼ円形

確認・調査：層調査中、赤褐色土の円形の落ち込みを確認した。半截してレンズ状の赤褐色の断面を確認したので、焼土と認定した。

遺物出土状況：出土していない。

時期：遺構周辺の出土遺物や確認面の位置から、縄文時代前期のものと思われる。(村田)

MF - 4 (図 - 9、図版 8)

位置・立地：L - 41 斜面部の下方、標高 89.5m 付近に位置する。

規模：047 04 004m

平面形：ほぼ円形

確認・調査：層調査中、赤褐色土の円形の落ち込みを確認した。半載してレンズ状の赤褐色の断面を確認したので、焼土と認定した。

遺物出土状況：出土していない。

時期：遺構周辺の出土遺物や確認面の位置から、縄文時代後期前半のものと思われる。（村田）

### MF-5（図-9、図版8）

位置・立地：N・O-45

旧河川の攻撃面付近、標高約88.4mに位置する。

規模：0.57 0.38 0.06m

平面形：楕円形

確認・調査：層の掘り下げ中、黒褐色のb層とc層の境界付近に暗褐色土の落ち込みを確認した。半載したところ、さらに赤みを帯びた断面がみられ、焼土と認定した。その境界はやや不明瞭であるが、弱い波状をなしている。MS-1・2と関連する可能性がある。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺出土の土器や確認面から、縄文時代後期前半に属するものと思われる。（阿部）

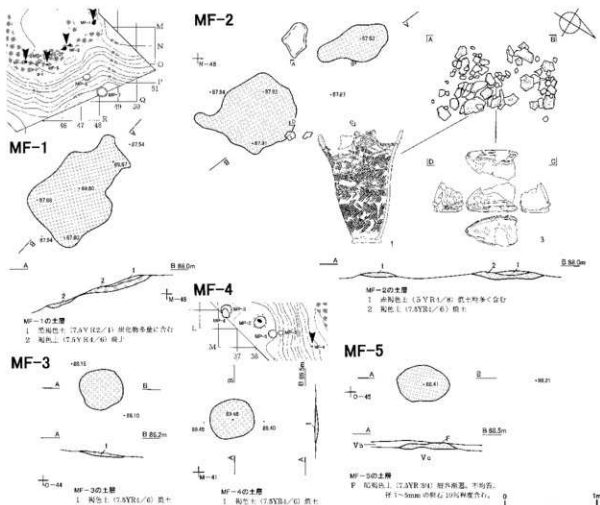


図-9 MF(焼土)-1~5

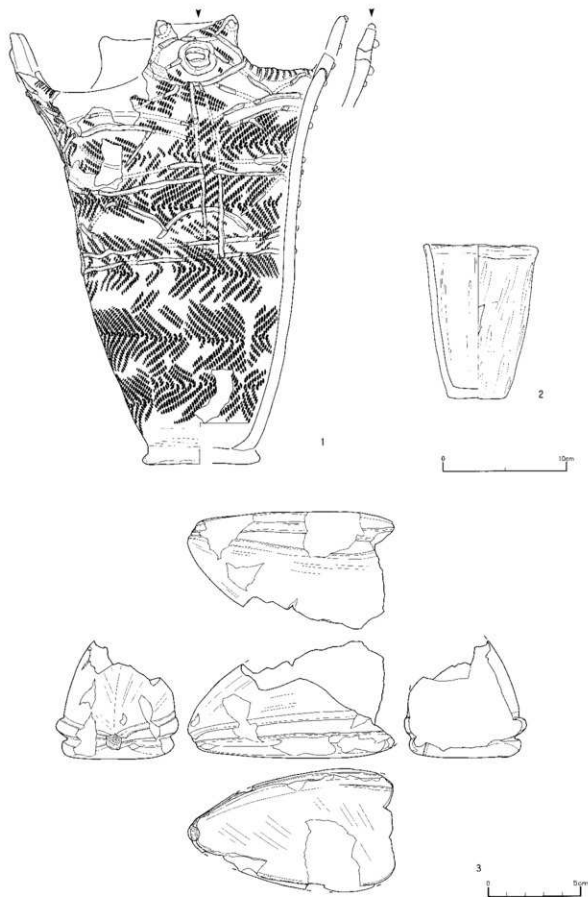


図 - 10 MF (焼土) - 2の出土遺物

表 - 1 遺構規模一覧

遺構名	位置	規模 (m)				平面形	長軸方向	時期	備考		
		長軸		短軸						深さ	
		確認	推定	確認	推定						
MP-1	H-1	47-48	0.79	0.64	0.78	0.55	0.46	ほぼ円形	縄文時代前期～中期		
MP-2	K	37-38	2.63	2.47	2.37	2.05	0.84	楕円形	N-66* -W	縄文時代前期	土壌墓
MP-3	J-K	36	2.05	1.74	1.53	1.43	0.9	楕円形	N-50* -E	縄文時代前期	フラスコ状ピット
MP-4	J-K	36	(2.61)	(2.18)	2.35	1.99	0.4	楕円形	N-84* -W	縄文時代前期	
MP-5	L-M	39	1.8	1.69	1.71	1.49	0.74	ほぼ円形		縄文時代前期～中期	フラスコ状ピット
MP-6	L	39	1.05	1.06	1.03	0.92	0.5	ほぼ円形		縄文時代前期～中期	
MP-7	P	47-48	2.30	2.20	2.12	1.77	2.06	楕円形	N-1* -E	縄文時代中期	フラスコ状ピット
MP-8	O	48	1.94	1.32	1.39	1.2	0.77	楕円形	N-63* -E	縄文時代中期	
SP-1	O	44	0.2		0.17		0.25	ほぼ円形		縄文時代後期前葉	
SP-2	O	44	0.16		0.16		0.26	円形		縄文時代後期前葉	
MS-1	N	44	0.71		0.68		0.25	円形	N-14* -E	縄文時代後期前葉	
MS-2	N	45	0.65		0.60		0.2	ほぼ円形	N-23* -E	縄文時代後期前葉	トリスキ式土器
MF-1	L	47	1.23		0.82		0.05	不整形		縄文時代後期	
MF-2	M-N	46	2.24		0.79		0.09	不整形		縄文時代中期	「石冠椀石器」
MF-3	N	44	0.47		0.43		0.04	ほぼ円形		縄文時代前期	
MF-4	L	41	0.47		0.4		0.04	ほぼ円形		縄文時代後期前葉	
MF-5	N-O	45	0.57		0.38		0.06	楕円形		縄文時代後期前葉	

表 - 2 遺構出土掲載土器一覧

採回番号	掲載番号	写真図版	遺構/ (発掘区)	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等/ 地文等/ 特徴	整理番号
ⅢⅤ-5	1	図版10	MP-2	覆土2	25	2	Ⅱb-4	深鉢	口縁	結束(第2種)羽状縄文・柵系文	M-52
ⅢⅤ-5	2	図版10	MP-2	覆土1	19	1	Ⅲa	深鉢	胴	LR縄文・口唇上縄縷状文	M-51
ⅢⅤ-5	3	図版10	MP-2	覆土2	26	1	Ⅲa	深鉢	口縁突起	陸帯・縄文	M-53
ⅢⅤ-5	4	図版10	MP-3	覆土1	7	1	Ⅱb-4	深鉢	胴	結束(第2種)羽状縄文	M-54
ⅢⅤ-5	5	図版10	MP-3	覆土2	11	1	Ⅲa	深鉢	口縁	突起・縄文	M-55
ⅢⅤ-5	6	図版10	MP-3	覆土1	9・10	1	Ⅲa	深鉢	口縁	陸帯上縄文任儀・連続馬蹄形任儀・LR縄文	M-101①
ⅢⅤ-5	7	図版10	MP-3	覆土1	9	1	Ⅲa	深鉢	胴	陸帯上縄文任儀・連続馬蹄形任儀・LR縄文	M-101②
			MP-4	覆土1	4	1					
ⅢⅤ-5	8	図版10	MP-4	覆土1	2	1	Ⅱb-4	深鉢	胴	柵系文(多輪給糸体)	M-56
ⅢⅤ-5	9	図版10	MP-6	覆土3	3	1	Ⅱb-4	深鉢	胴	柵系文(多輪給糸体)	M-59
ⅢⅤ-5	10	図版10	MP-6	覆土2	2	1	Ⅲa	深鉢	口縁	縄文任儀	M-57
ⅢⅤ-5	11	図版10	MP-6	覆土2	2	1	Ⅲa	深鉢	口縁	口唇上沈縷・RL縄文	M-58
ⅢⅤ-5	12	図版10	MP-7	覆土1	2	1	Ⅲb	深鉢	口縁	太い縄縷状沈縷	M-60
ⅢⅤ-5	13	図版9	MP-7	覆土1	10・3	28	Ⅲa	深鉢	口～底	RL縄文・口唇上刻み/ 口径13.7cm、底径5.9cm、器高23.7cm	復元率約90% M-1
ⅢⅤ-5	14	図版10	MP-8	覆土1	4	11	Ⅲa	深鉢	口～底	8の字状貼付文・楕円文・蛇行沈縷・杵状文・X字状文・V字状文 口径26.9cm、底径12.5cm、器高39.6cm	復元率約70% M-4
ⅢⅤ-8	1	図版9	MS-1 (N-44)	V	37-38	60	IVa	深鉢	口～底	LR縄文	M-97
ⅢⅤ-10	1	図版9	MF-2 (M-46)	V	13・14・ 33-35	93	Ⅲa	深鉢	口～底	貼付帯・結束羽状縄文/ 波状口縁+大型突起 口径27.2cm、底径9.4cm、器高36.2cm 復元率約85%	M-2
ⅢⅤ-10	2	図版9	MF-2		1	7	IVa	深鉢	口～底	無文/ 平縁・平底 口径9.2cm、底径4.7cm、器高12.4cm 復元率約40%	M-3

表 - 3 遺構出土掲載石器一覧

図番号	掲載番号	器種名	遺構名	遺物番号	出土層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	図版番号	備考
ⅢⅤ-6	15	石斧	MP-2	11	覆土1	13.5	5.4	3.1	394.0	緑色泥岩	図版11	
ⅢⅤ-6	16	すり石	MP-2	16	覆土1	15.2	9.4	5.5	1185.0	安山岩	図版11	
ⅢⅤ-6	17	砥石	MP-2	3	覆土1	(15.6)	(9.8)	(2.6)	(534.0)	安山岩	図版11	
ⅢⅤ-6	18	扁平打製石器	MP-4	5	覆土1	8.7	15.5	3.6	600.0	安山岩	図版11	
ⅢⅤ-10	3	石冠椀石器	MF-2	6	焼土	6.5	6.8	11.1	330.2	凝灰岩	図版11	被熱あり、14点検査



## 包含層出土の遺物

### 1 概要

出土した遺物は、土器・土製品 20 96点、石器等 1 519点である。遺物の大半は、低地部の 層からの出土である。分布は旧河道の攻撃面にあたる、調査区北側から東側にかけて密である。

土器は、群から群のものが出土している。内訳は、群 a 類が最も多く（37%）次いで群 b - 1 類（29%）、群 b - 4 類（17%）、群 a 類（9%）、群 b 類（5%）の順である。

分布は大まかに、群が調査区北側から東側にかけて、群は北側と南側、群は中央付近に、群は中央から西側にかけて濃くなる。このことは、台地上の森川 3 遺跡から流れ込んだ遺物も相当数あるが、森川の流路の変遷にともなって、分布域が移動したものと推察される。

石器は、剥片類、礫等を除いた石器のうち、剥片石器が 199点出土し 43% を占める。スクレイパー、つまみ付きナイフが多い。礫石器は 57% で、特にすり石は 116点出土しており、礫石器の 44% にあたる。

（村田）

### 2 包含層出土の遺物

#### （1）土器・土製品（図 - 1-17 図版 12-25）

##### 1）土器出土分布状況（図 - 1・2）

包含層から 20 96点の土器が出土した。層別では、層から 9点、層から 17 543点、「砂」層から 879点、層下位および c 層から 965点、d 層から 1 305点、攪乱層から 178点が出土している。分類別では、群 a 類～群 b - 1 類が 6 020点、群 b - 4 類が 3 620点、群 a 類が 1 956点、群 b 類が 206点、群 a 類が 7 479点、群 b 類が 1 085点、群 c 類が 575点である。群 a 類～群 b - 1 類は円筒土器下層 a 式あるいはその直前型式に属し、本遺跡の最も特徴的な土器型式のひとつである。群 a 類は大部分がサイベ沢式に含まれるものとみられる。群 a 類はトリサキ式および大津群土器がほとんどである。群 b 類は手稲式に相当するもののほか、鉾淵式に併行するものがややまとまって出土している。群は聖山式がほとんどで、一部聖山式に近いものがみられる。

分類ごとに平面分布の濃淡をみると、群 b - 1 類は調査区南東方向の斜面際にほとんどが集中している。群 b - 4 類は森川 3 遺跡側の斜面際からやや低地側に張り出して帯状に濃密な部分がある。また森川 3 遺跡側の高位段丘上にも分布している。群 a 類は点数がそれほど多くないものの、群 b - 4 類とほぼ同様の分布を示す。群 b 類は点数が少なく、散漫な分布である。群 a 類は低位段丘～森川河川敷側に極端な濃度差をもたずに分布している。また森川 3 遺跡側の高位段丘上にも少数分布している。群 b 類は数が多くないが、低位段丘上に部分的にまとまりをもって分布している。

群 c 類も同様に、低位段丘上～森川河川敷に局所的に分布する。

これらの分布は、森川河川敷や河岸段丘の形成過程といった自然の営みと、高位段丘上の森川 3 遺跡と低位の森川 4 遺跡での人々の活動が如実に現れているものと思われる。

（阿部）

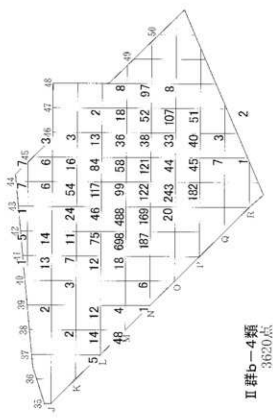
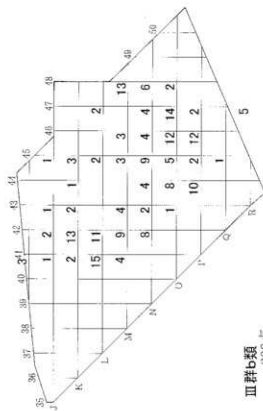
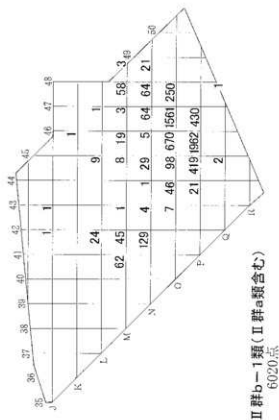
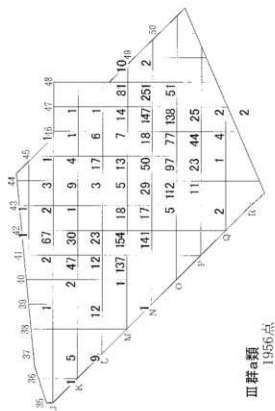


図 - 1 包含層出土器分布図(1)





2) 土器 (図 3-16 図版 12-26)

群 a 類 - 群 b - 1 類に属するもの (1-32)

1-32は、円筒土器下層 a 式あるいはその直前に位置する。便宜上、尖底をもつ 1-d は 群 a 類としたが、胎土・文様とも 群 b - 1 類と酷似するものがある。7-32は 群 b - 1 類とした。前半に複節縄文以外の特徴があるものを掲載し、後半は複節縄文のみ、および底部を掲載した。

また 2-32は、胎土・色調の特徴として、以下のように大きく分けられる。

A : 繊維を多量含み、もろい。全体的に淡い黄褐色を呈する

(2-7・10・12・13・16・17・22・24・27・28・31)

B : 小礫・砂粒を多く含み、ややざらついている。全体的に暗赤褐色を呈する

(8・9・11・14・15・18-21・23・26・29・32)

1-d は春日町式の流れをくむものと考えられる。特に 1 は底部先端が張り出し、他と比較して胎土にあまり繊維を含まず、焼成は良好である。内面調整がやや丁寧である。地文は複節縄文だが節が細かく単節のように観察される部分がある。2-d は繊維を多量に含み、外面は摩滅気味で内面は凹凸が多い。地文はすべて L R L 複節縄文である。2 は円錐形の底部だが、ややつぶれた形状である。3・5 は底部先端部が欠損している。内面は黒色である。4 は円錐形に近く整っている。6 は底部に極小の平坦部をもつものとみられる。

7・8 は複節縄文を全面に施文後、捩糸文が重ねられたもの。7 は縦位に 2 カ所対になるよう施文している。8 は口縁部の一部に斜方向に施している。7・8 も口縁はきわめて緩やかな波状をなしている。口縁部に炭化物が付着している。内面は凹凸がやや多い。

9・10・13 は複節縄文に綾結文がみられるもの。9 は口縁・胴部に、10 は口縁部が不明だが、胴部中央と底部付近、13 は底部付近に綾結文がみられる。9 は器壁が厚く、小礫を多く含む。内面調整はあまり行われていない。10 は内面のケズリ調整が残っている。やや上げ底気味で、底面は丁寧になでられている。13 はやや上げ底気味の底部からやや強く外傾して立ち上がる。内面調整は丁寧でない。

11・12・14・19 は 群 a 類に属するものかもしれない。11・12 は複節縄文に横位の捩糸文が密に施されている。12・14・19 は半載した茎状の施文具により連続刺突されている。14・19 は同一個体で、連続刺突が多段にわたっている。口縁部はほぼ平縁でわずかに外反する。弱い上げ底にも複節縄文が施されている。胴下部に補修孔が 2 組あけられている。内面は黒色を呈し、調整はあまり丁寧でない。

16・17 は結束縄文を地文とするもの。16 が R L、17 が L R L である。おおむね平縁で、わずかに外反する。内面は凹凸があるが調整はやや丁寧である。補修孔が 16 は 1 組、17 は 2 組ある。

18・20-30・32 は複節 L R L 縄文のみが施文されたもの。ただし 27 は内外面に弱い条痕が数条施されている。19・31 は R L 縄文のみが施文されたもの。これらを口縁部-胴部まで復元できたもの (18-23)、胴部-底部まで復元できたもの (24-32) の順に掲載した。

18-23 は極めて緩やかな波状口縁もしくはほぼ平縁で、わずかに外反する。胴部の器壁は厚い。内面の凹凸は多いが、調整はやや丁寧に行われている。18・20 は胴部がわずかに膨らむ。19・22・23 は底部が小さくすばむ。21 は焼成良好で大型土器片が破損せず出土したものの。口縁部の湾曲がかなりゆるやかで、大型の深鉢になるものとみられる。22 の口縁部は摩滅が激しく、太い繊維痕がある。

24-32 は上げ底気味の底部が多いが、平底 (24・27・32)、凸形の底 (28) もみられる。24・27 以外は底面にも地文が施されている。立ち上がりはやや急なものが多いが、25・31・32 などやや緩やか外傾するものがある。内面は凹凸があるものが多いが、25・26・30 は調整がやや丁寧である。逆に 31 は繊維痕が大きく目立つ。27 は小型深鉢で、やや焼成良好である。

群 b - 4 類に属するもの ( 33-51 )

33-5は円筒土器下層 d 式に属するとしてが、一部に円筒土器下層 c 式に近いものがある ( 49・51 )。深鉢以外には胴部にくびれをもつ鉢が 1 点出土している ( 50 )。深鉢の器形は基本的に長胴の円筒形であるが、バケツ形 ( 48 など ) や胴部が膨らむもの ( 4 など ) も若干みられる。地文は燃糸文が多く、網目状・木目状・スタレ状など多様な文様が見られる。

内面調整・色調について、以下のように分けられる。

A : 繊維痕や砂粒が目立つなど調整が丁寧でなく、全体的に黒褐色を呈する。( 33-35 )

B : 調整がやや弱く、繊維痕や砂粒がみられる。黒褐色-茶褐色。( 36-38・42・49・51 )

C : 丁寧にミガキ (あるいはナデ) 調整が行われているもの。茶褐色の薄層を形成している。

( 37・39-41・43-48・50 )

33-35は口縁部の文様帯に網目状燃糸文、胴部の地文に燃糸文が施文されている。33はタガ状の隆帯が貼り付けられている。34は隆帯の代わりに縄文原体を挿しその間を山形沈線で充填している。

35は口縁部の文様帯に浅く太い縦位の沈線が施されている。

36-44について、36・38・39・44は口縁部および弱い隆帯上に縄文挿し、胴部に燃糸文が施文されている。37は口縁部にスタレ状燃糸文が施され、口唇下および隆帯上に縄文挿しが行われている。38・44は密に施文された燃糸文に結束 (第2種) 羽状縄文が多段にわたって施されている。39・40は同一個体。多軸結条体の地文である。内面調整は丁寧だがひび割れが多く、接合破片の色調は不同である。40はグリッドほど離れた土器破片が接合している。41は木目状燃糸文の地文。焼成良好。42は上げ底の底面に L R 縄文が施されている。小礫が目立つが、内面はミガキ調整が行われている。43は網目状燃糸文が縦位に施文されている。底面は平滑である。

45-48について、45は器高約 40cm の長胴の深鉢だが、内面調整が底部まで丁寧に行われている。外面はやや磨滅している。口縁部下の隆帯やくびれはない。口縁部は結条体圧痕が 4 段にわたっている。胴部は横位の貝殻条文が全面に施文され、縦位に燃糸文、そして横位に 7 段以上にわたって幅の狭い結束 (第2種) 羽状縄文が施されている。46は外面上部がやや磨滅しているが、縄文圧痕や結束羽状縄文が見られる。底面は平滑である。47は口縁部がやや外反する。横位に平行に縄文原体挿しが行われている。胴部は多軸結条体様に複節縄文が回転施文されている。底面は平滑である。H ラインから M ラインまで 7 グリッド以上にわたって破片が散在していたものである。48は平坦な底面にも L R 縄文が施されている。内面にケズリ調整痕が残っている。

49・51は波状口縁の波頂部を起点として縄文原体挿しにより区画文が形成されている。51は区画内に鎖状の文様が見られる。50は口縁部がやや内傾し胴部で強くくびれ、底部側は丸みを帯びる鉢。横走沈線で区画され、隆帯上は連続刺突、口縁部および胴部は貝殻腹線文が施されている。口縁部に縦位に貼り付けられた把手の痕跡が見られる。

群 a 類に属するもの ( 52-69 )

52-56は円筒土器上層 b 式、58-62はサイベ沢 式の古い段階、57・63-69はサイベ沢 式の新しい段階-見晴町式に属するものと思われる。

52-56について、52は太い貼付粘土紐上に細かい節の原体挿しが連続して行われている。また粘土紐の直下にも横位の原体圧痕が見られる。貼付隆帯間は馬蹄形圧痕が連続している。内面調整はややていねいである。53は小型深鉢。波状口縁の波頂部下に貫通孔があり、そこにアスファルトとみられる黒色物質が付着している。口唇部は貼付粘土により整形している。口唇下に細かい節の縄文原体に

よる連続馬蹄形圧痕があり、その下に薄い貼付隆帯がある。胴部は結束羽状縄文が施され、口縁部との境界が明瞭になっている。54は大型深鉢の大きく外反する突起。貼付隆帯上のほか突起部各所に細かい節の縄文圧痕がある。55の文様は縦位の隆帯、横位の弱い隆帯・連続した馬蹄形圧痕・絡糸体圧痕などにより構成されている。全体的に灰黒褐色を呈し、外面の磨滅が目立つ。5dはくびれ部に隆帯が貼り付けられ、その下に絡糸体圧痕が補強するように施文されている。

57はやや太い把手上および口唇上に縄文原体圧痕がある。太い沈線で弧線文がえがかれている。

58～62について、台形状またはそれに近い形の突起がある。貼付隆帯の幅は59 58 60と狭くなっている。58は突起の内外面に粘土紐が貼り付けられた後にLR縄文が施文されている。把手状の縦位の粘土紐には両側から貫通させようとした孔の跡がみられる。59は大型突起に円形の貫通孔がある。口唇下数mlは無紋で、その下から結束羽状縄文が施されている。上部は磨滅している。全体的に黄褐色～灰黄褐色を呈している。6dは2本一組の細い貼付粘土紐で弧線文や縦横の区画文をなしているものが多い。胴部はふくらみ、綾絡文が明瞭である。61・62は同一個体で、小型の深鉢。器壁が薄く、焼成良好である。台形状の突起に円形の貫通孔がきれいにあげられている。口唇上は節の細かい縄文原体で深く押捺されている。底部および底面は丁寧に調整されている。

63～69のうち、64・6dはサイベ沢式の新しい段階、63・67・69は見晴町式に属するものと思われる。63は突起の波頂部がとがり、貼り付けられた粘土紐上に縄文原体が押捺されている。69は波頂部がわずかに平坦で、貼り付けられた粘土紐上および口唇上にもRL回転縄文が施文されている。内面および底面の調整は丁寧である。64は胴部がややふくらんでいる。2本の結節のある地文が胴下部まで施文されている。6dは4単位の台形状の大型突起をもつ。口唇下に縄文圧痕が施されている。底面は平坦である。全体的に明褐色を呈している。67は口唇上に原体圧痕がある。胴部は3本一組の横走沈線と一部弧線文が施されている。焼成良好で、やや砂粒を多く含む重量感がある。68はやや器壁が厚く明黄褐色を呈する。平坦な口唇上に円形刺突列があり、群b類に属するものかもしれない。69は口唇が外側に切りだし、波状口縁の波頂部がとがる。全体的に黒褐色を呈する。

#### 群b類に属するもの(70～75)

74・79はノダップ式、70～73は煉瓦台式に属するものと思われる。

70～73は折り返し口縁に近い薄い隆帯上に連続刺突が施されている。刺突は横位に短沈線状に施されているものが多い。70～73は口縁部がほぼ直立し、角形口唇になっている。7dは胎土に砂粒を多く含む。7dの連続刺突は斜位の短沈線状になっている。器壁が薄くやや硬質である。72・73は灰黄褐色を呈し、細かい砂粒が多くカサついている。内面は凹凸があるが、調整はやや丁寧である。

74は口唇下と胴部上位に連続刺突があり、その間の一部に楕円形にすり消した範囲がある。黒褐色を呈する。79は薄い貼付粘土上に円形刺突列が施されている。炭化物が付着している。

#### 群a類に属するもの(76～109)

76～8dは群a類に属するものうち、縄文のみが施文されたものなどを掲載した。81～98はトリサキ式、99～109は大津群～白坂3式に属するとみられる。

76～8dについて、7dは折り返し口縁上は横位に、以下は縦位にLR縄文が施文されている。焼成はやや良好で、暗赤褐色を呈する。天祐寺式と思われる。77は底部がすばまる小型の深鉢。細かい節の縄文が密に施されている。78は4単位の波状口縁をもち、胴部が口径よりも膨らみ、底部付近ですばまる(底部は図より径が小さくなる可能性がある)。口唇・内面とも調整が丁寧で、底面は平滑であ

る。79は78と同様の器形だが、波頂部にくぼみを設けており、底部はやや上げ底になっている。内面調整は上半が横位、下半が縦位のケズリ痕が明瞭である。外面下半および底面は丁寧にナデられている。器壁が厚く砂粒を多く含み、重量感がある。80は4単位の波状口縁下に3〜4本の横走沈線がめぐり、胴部は基本的に無文だが、一部に縄文が施文されている。補修孔が穿孔途中になっている。全体的に灰黄褐色を呈し、砂粒を多く含む。78〜80は器形などの特徴から、トリサキ式とみられる。

81〜90について、81〜83・85〜87・90は折り返し口縁が明瞭に観察される。特に81・82・87は2段にわたっている。また、90〜95には8の字にひねられた粘土紐が口縁波頂部下に縦位に貼り付けられている。81〜89・91〜93・95・96は無文地に沈線で文様がえがかれている。外面、特に沈線付近に炭化物が付着しているものが多い(83・88・92・93・97など)。

81は折り返し口縁上に連続して指頭押捺が行われている。82・84・85は非常に細い沈線による施文。83・86・87はやや太く浅い横走沈線・蛇行沈線・弧線などが組み合わさった文様が見られるが、やや不規則である。平縁が多い中で、86は波状口縁をなしている。88・89は基本的に3本一組のやや太く深い沈線で杵状文を形成している。89は縦位の区画が紡錘文になっている。90〜95は口縁部と胴部の文様帯の区分が明瞭である。90は折り返し口縁が薄く幅広である。文様は半截竹管状の施文具で蛇行沈線(流水文)などがえがかれている。全体的にやや赤みがかった褐色を呈している。地文のRL縄文は弱い押捺である。91・93は単線で蛇行沈線(流水文)がえがかれている。94は6単位の突起を持つ大型深鉢。器高約43cmを測る。底面は平坦である。口唇部の粘土を内面側に折り返ししている。地文は無節のようにも見えるが、繊維の束の荒い単節縄文が用いられているようである。蛇行沈線がえがかれているが、それに沿った細沈線もみられる。95・96は同一個体と思われる。8の字状の貼付粘土紐が剥落している。口縁部は横走沈線に蛇行沈線、胴部は斜行沈線に蛇行沈線が組み合わされている。乱れた渦文(円文)は粘土紐の下に位置するものと思われる。98はやや小型の壺。頸部で強くくびれ、口縁部は大きく短く外反する。口唇下および肩部に細かく連続刺突が施されている。地文は弱い押捺で、乱れた渦文がえがかれている。黒褐色を呈し、内面は凹凸が目立つ。

99〜109について、大部分が大津群に属する。無文地に帯状の区画文を仮に配し、その中に縄文などで充填した後に太い沈線区画文を施文し、はみ出した部分をすり消す手法をとっているものが多い。帯状区画文を充填する地文は縄文(99・100・102〜104・107・109)・櫛描文(101・105・106)・刺突文(108)がある。平縁(102〜104)もみられるが、多くは平縁に緩やかな山形の突起がある。

99は口縁波頂部の内外面に粘土紐が貼り付けられ、LR縄文が施されている。その下にカニのはさみ状沈線が施文されている。100は弧線と鋸歯状沈線による帯状文間に連続して円形刺突が施されている。101は大型深鉢の口縁部。明黄褐色を呈する。口縁部も櫛歯状工具により施文されている。102〜104・109は縦位の短い鋸歯状沈線(縦W)が連続して施されている。102はバケツ形を呈する小型深鉢。口縁部は無文で、胴部に幾何学的な帯状文が配されている。103は頸部がくびれ、弱い段をもち無文帯を設けている。口縁部と胴部上半は地文が全面に施文され、胴下部は地文を区画内に充填する手法をとっている。104は器壁の厚い大型深鉢。砂粒を多く含み重量感がある。太い沈線によりカニのはさみ状帯状文などが配されている。105・106は頸部のくびれが強いやや小型の深鉢。黒褐色を呈し、器壁がやや薄く硬質である。全体的に丁寧に調整されている。105は4単位の波頂部に内外面に粘土紐が貼り付けられている。106〜108は平行する帯状文間を曲線帯状文が連絡する文様構成をとる。4単位のゆるやかな波頂部をもつ。107は帯状文を構成する沈線があまりにないに施されていない。108は内外面とも調整が丁寧である。109は平行する帯状文間の幅がやや不均一である。胎土に砂粒が多い。内面はケズリ痕が明瞭である。

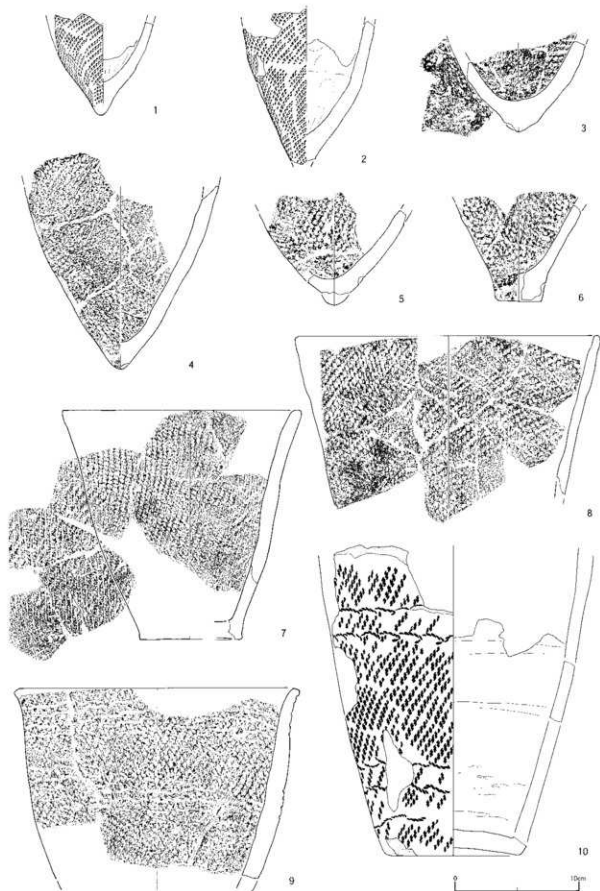


図 - 3 群a類、群b-1類(1)

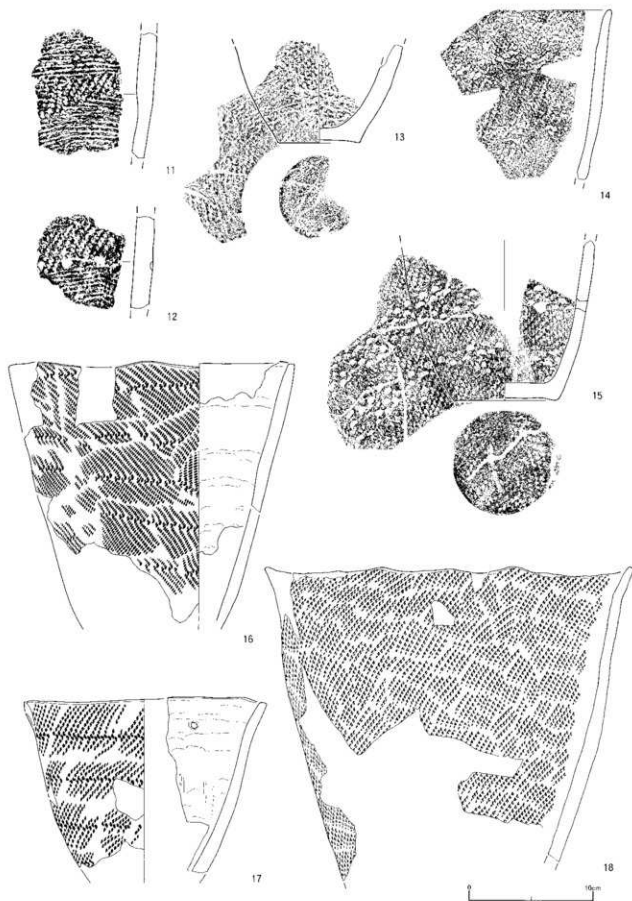


図 - 4 群b - 1類(2)

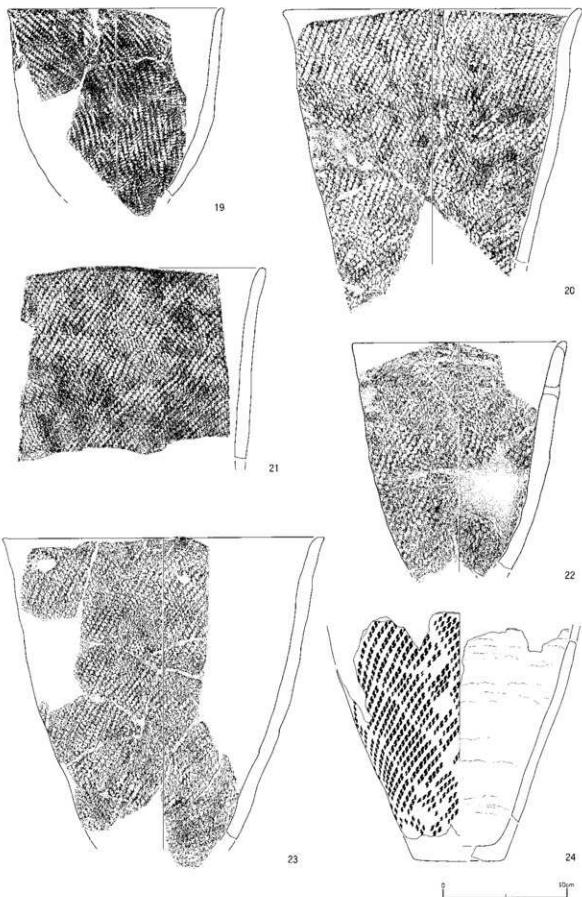


図 - 5 群b - 1類(3)



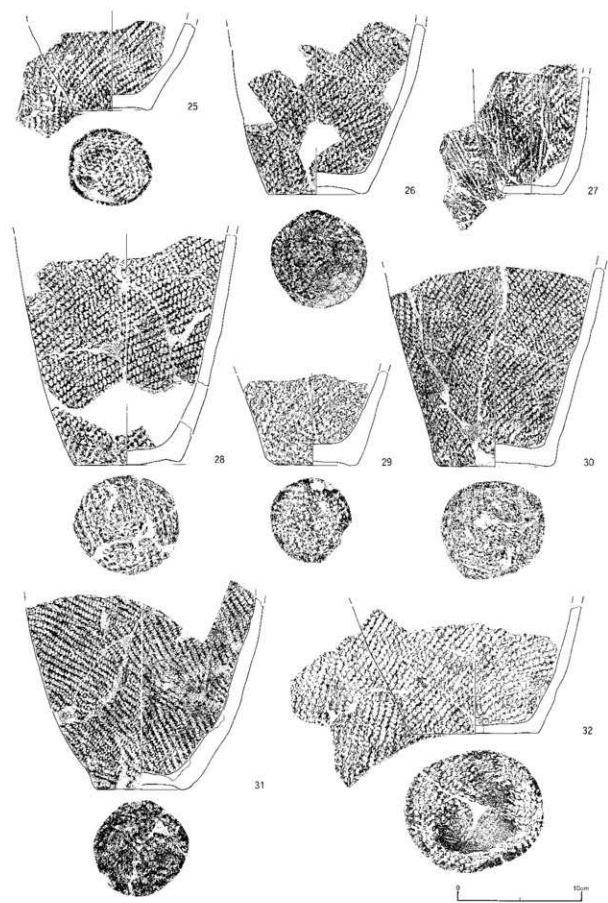


図 - 6 群b - 1類(4)

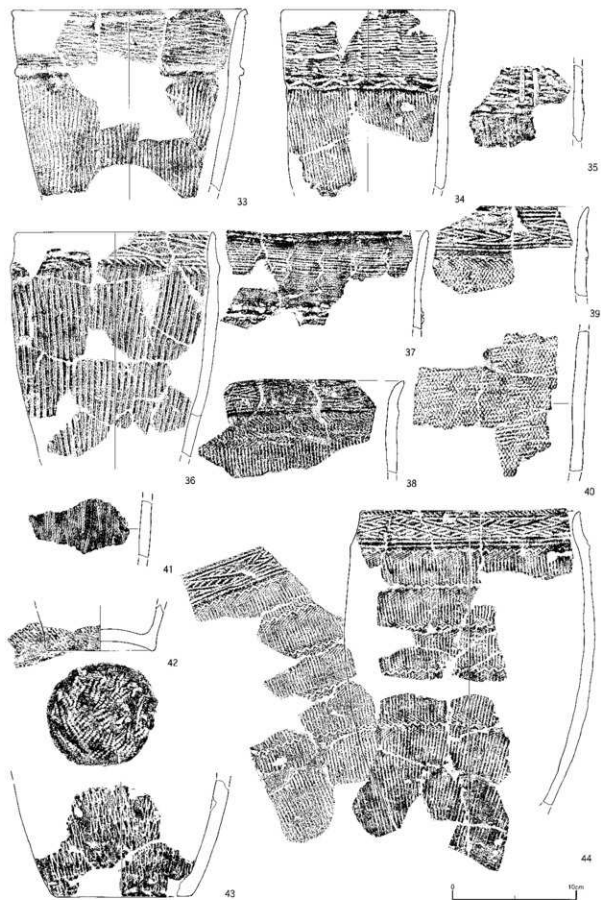


図 - 7 群b - 4類(1)



図 - 8 群b - 4類(2)

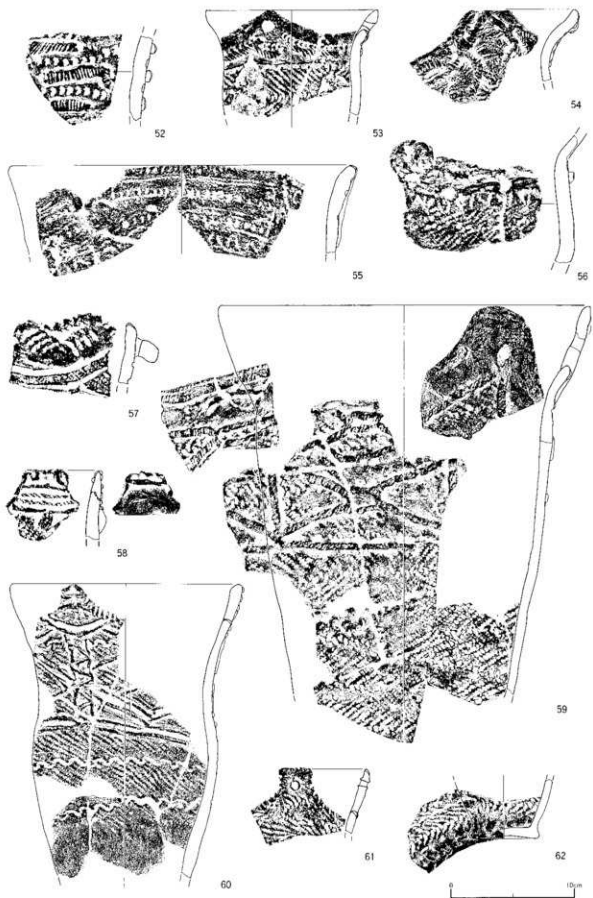


図 - 9 群a類(1)

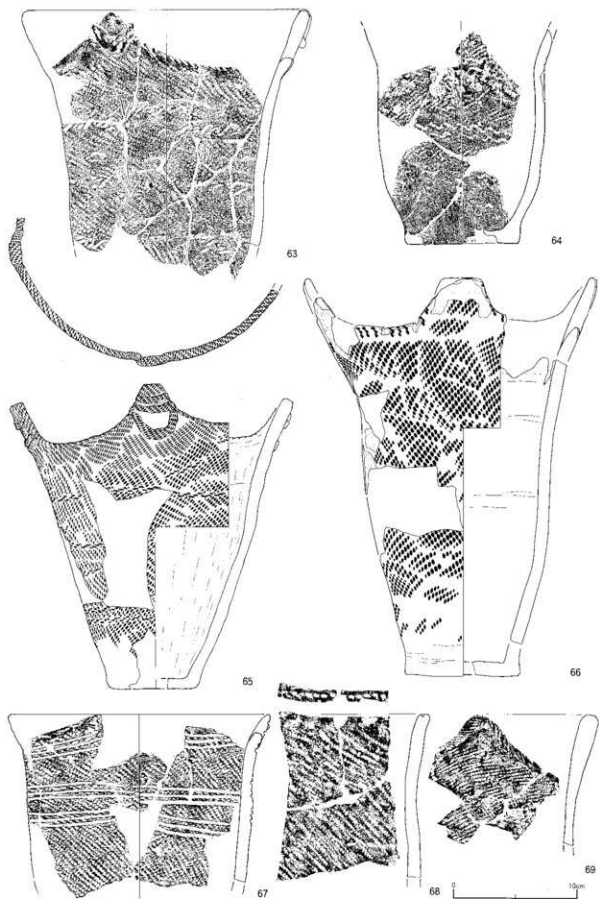


図 - 10 群a類(2)

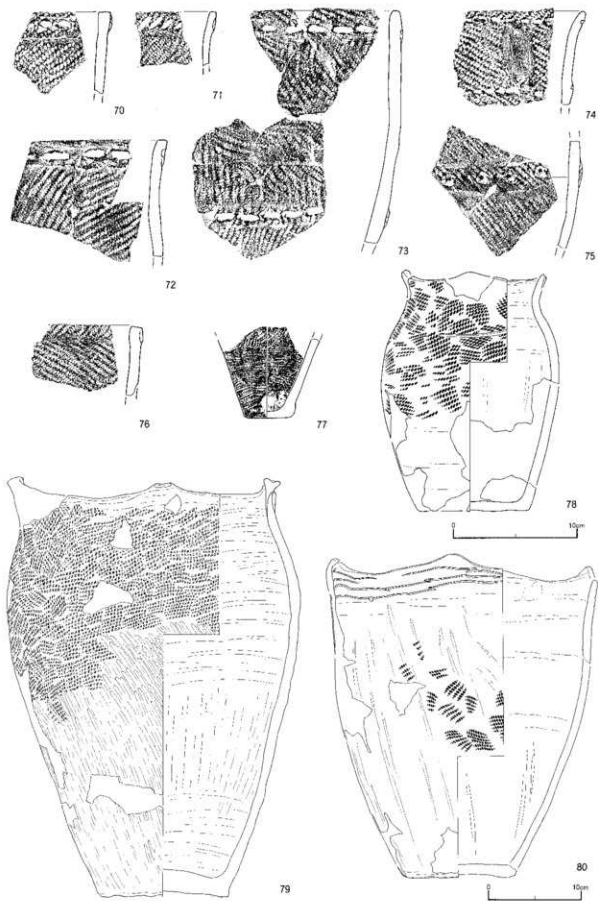


図 - 11 群b類、群a類(1)

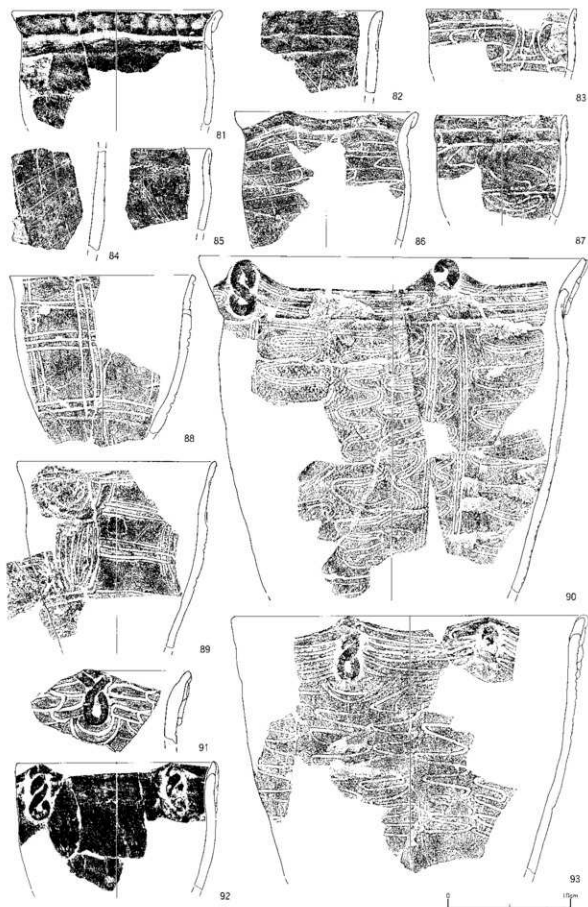


図 - 12 群a類(2)

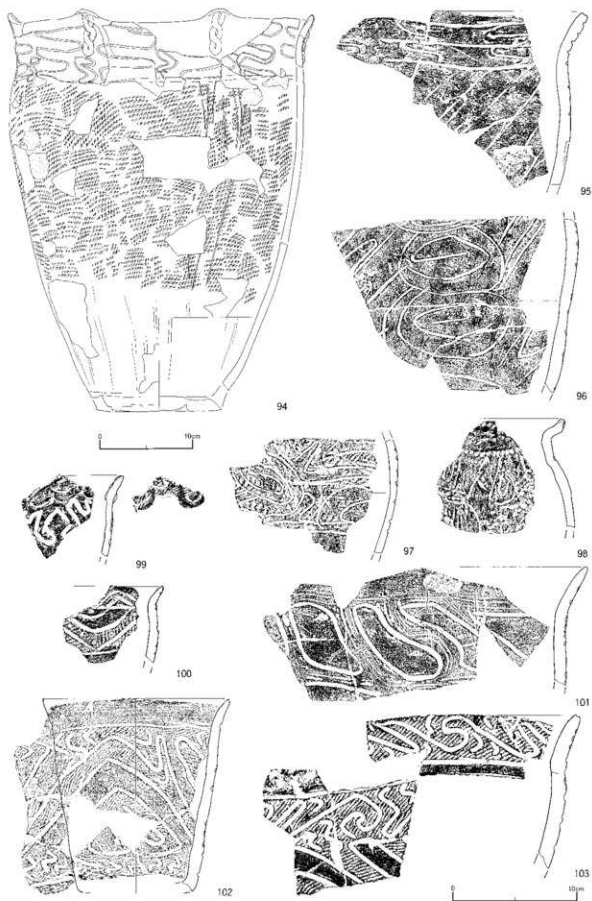


図 - 13 群a類(3)



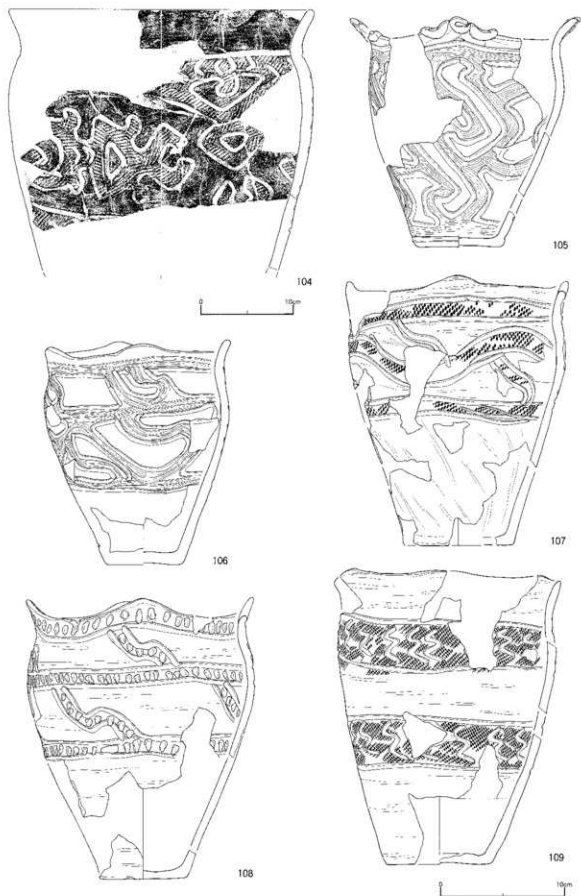


図 - 14 群a類(4)

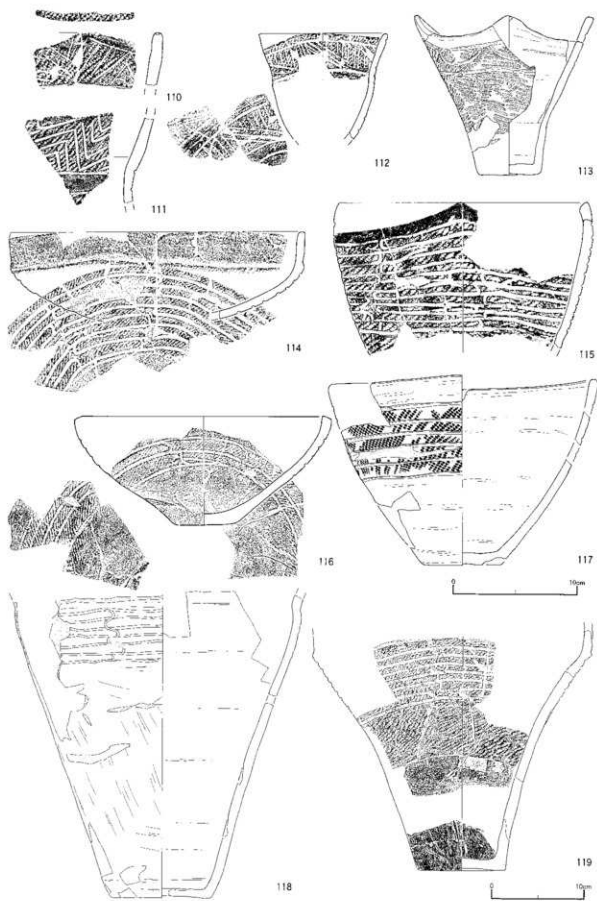


図 - 15 群b類(1)

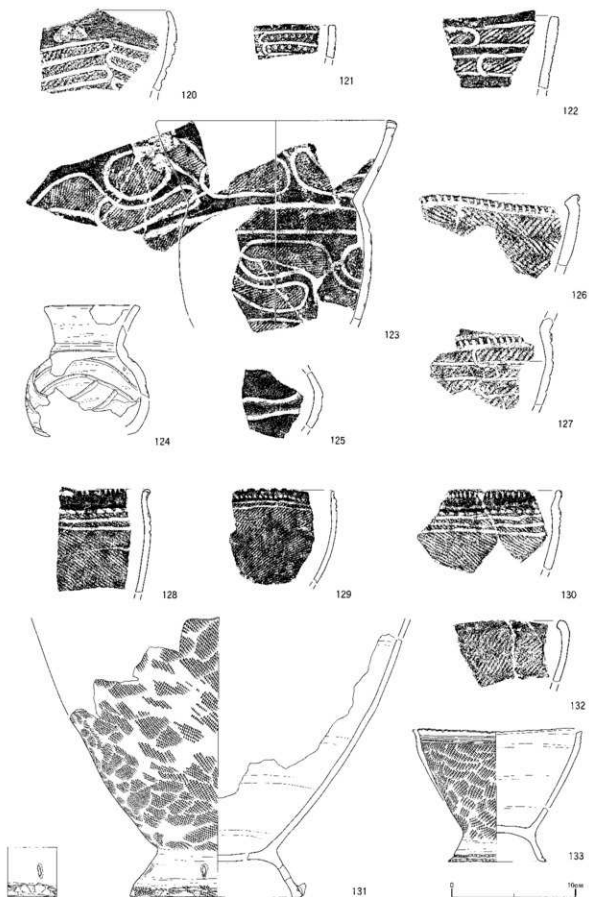


図 - 16 群b類(2) 群

群b類に属するもの(110-127)

110-112は群b-類ウサクマイC式相当、113-122は群b-2類手稲式、123-127は群b-3類甍測式併行に属する。

110-112はL R縄文の地文を施文後、口縁部および胴部に横走沈線で幅広の区画帯を設け、鋸歯沈線を密に施している。110は角形の口唇上にもL R縄文が施されている。補修孔予定の孔が未貫通である。111は器壁がやや厚く、沈線も太い。明黄褐色を呈し、器面はややざらつきがある。112は器壁が薄い。地文は細かい節のL R縄文が用いられている。内面調整はややていねいである。

113-122は、口唇下が無文部で、多段の横走沈線と連絡する弧線文が施されている、典型的な手稲式のものが多い。口唇部付近は丁寧に磨かれ、全体的に調整が丁寧である。浅鉢(114・116)は暗赤褐色を呈し、ややもろい。118は2本の横走沈線に1本の連続する弧線文が施されたもの。器形などから手稲式と判断した。118は地文が無文で、トリサキ式に近い。119は縦位の直線も施されている。120は横走沈線と弧線文で横U字文をなしている。121は極細のL R縄文を地文とし、横走沈線間に連続円形刺突が施されている。122は横走沈線間に磨り消しの無文帯を設けている。

123-127について、123は強い胴部くびれの下に帯状文を配し、口縁部・胴部に曲線区画文をえがいている。124・125は無文の壺で、入り組み帯状文などの区画外を窪ませて文様を浮か立させている。外面は磨かれているが内面は輪積み痕が残るなど凹凸が多い。126・127は同一個体。肥厚する切り出し形口唇で、胴部くびれの段が明瞭である。口唇下およびくびれ部に刻み列をもつ。小礫を多く含み、胎土が粗で、接合した土器以外の残片が多量にある。

群c類に属するもの(128-133)

128-133は聖山式に属するものと思われる。128-130は口唇に細かい刻みがあり、わずかに窪んだ無文部を設け細かい連続刺突列を施す。2ないし3本の平行沈線は、わずかに押し引いた跡が残る。細かい鉾物を多く含んでいる。132は口縁が内傾し肥厚する。131・133は器壁が薄く、丁寧に調整されている台付鉢。131は台部に6カ所のすかし孔があり、B状に近い突起がめぐっている。133は口唇が弱く刻まれ、台部に細かい刺突(刻み)列が巡らされている。

### 3)土製品(図 - 17 図版27)

土器片再生円盤(134-148)

134-138は群b-類、137-146・148は群b-4類、147は群a類の土器片を円形に加工し、周縁を磨いている。特に137-140・142・145・148は丁寧に磨かれている。139・140・143は六角形に加工して円形に近づけようとした跡が見られる。表面は摩滅しているものが多い。中央には貫通孔があげられているものがほとんどであるが、137・139・144は貫通しておらず、147はまったくあげられていない。136・144は周辺にも穿孔途中の孔がある。

群b-4類のものは、多軸結糸体による撚糸文が残るものが多い(137・139・143・148)。  
三角形土製品(149・150)

群a類の土器片を三角形に加工し、周縁を丁寧に磨いている。表面に帯状文が残っている。  
鐸形土製品(151)

ミニチュアの鐸形土製品。器壁が非常に薄く、もろい。内部は空洞である。頂部は指でつまんだ跡がある。無文で、指紋がやや多く残っている。

(阿部)

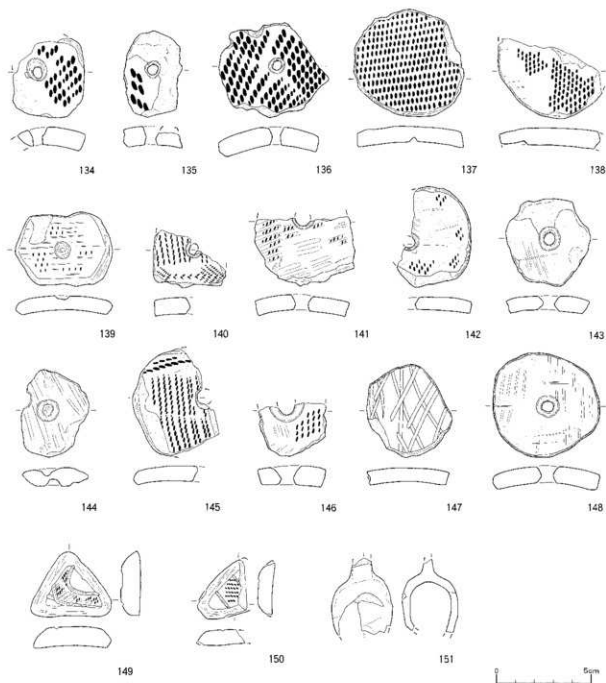


図 - 17 土製品

(2) 石器(図 - 18-31 図版 27-34)

石鏃(図 - 20-1-18)

25点出土した。大半が 層出土であるが、5点が c層から出土している。分布は調査区北側の旧河道付近が密である。

1-9は平面形が三角形で、基部が凹基のもの。10・11は平面形が三角形で、基部が平基のもの。縁辺が外湾する。12は木葉形のもので、最大幅は中央よりやや基部側に位置する。基部にアスファルトの付着がある。13-18は有茎のもの。13は片側のみに明瞭なかえしがある。4・5・18は黒曜石製である。

ポイント・ナイフ(図 - 20-19-27)

13点出土した。分布は、調査区北側から北西側にかけて多く、完形の出土が目立つ。

19は有茎がかえしが明瞭なもの。20-27は木葉形を呈するもの。20・21は片面加工のもので、刃部の一部に両面加工が施されている。22・23は基部が平坦なもの。24-27は細長い形態のもので、28は素材となる剥片を、剥離した際の打面が残る。

石錐(図 - 21-28-36)

12点出土した。すべて 層からの出土である。分布は、調査区北側から中央付近にかけて多い。

28は石鏃の転用である。29は棒状のもの。30-32は薄い剥片を素材としたもの。33は刺突錐である。34-36はやや厚い剥片を素材としている。

つまみ付ナイフ(図 - 21-37-47)

42点出土した。分布は、調査区北側の旧河道と中央付近の2つのまとまりが見られる。

37-39・42・43は内湾する刃部をもつもの。40・44は両側縁に刃部をもつもの。44のつまみ部はアスファルトが付着している。45・46は木葉形を呈する。49は両面加工で黒曜石製である。37・42・43の尖頭部は錐状の加工が施されている。39は尖頭部に棒状の剥離が見られ、彫器として使われた可能性がある。47は横長のもの。

スクレイパー(図 - 22-48-59)

10点出土した。そのうち、88点が 層から、森川の河川堆積物である 砂層から2点、c層から1点出土している。

48は木葉形を呈するもの。49はエンドスクレイパー。50は筥状を呈するもの。51-53は刃部が内湾するもの。54は端部に急角度の加工が施されている。58尖頭部をもつもの。すべて真岩製である。

石核(図 - 22-60)

14点出土した。分布は、北側から西側にかけて多くなる。

60は打面を変えながら、剥離されたもの。一部に原石面を残す。

石斧(図 - 23-61-70)

25点出土した。調査区北側に多く見られるが、低地部のほぼ全域から出土している。

全面が研磨された。67・70を除き、ほかは打ち欠きによる調整を施し、刃部、側縁などを研磨して製作されたものである。65・70は数条の彫りの深い擦痕が見られる。66が片岩製、69・70が砂岩製のほかは緑色泥岩製である。

たたき石(図 - 24-71-73)

1点出土した。調査区の中央付近の多い。71・72は礫の両端に敲打痕が見られる。72は打ち欠きによる調整が施されている。73は棒状礫の側面を敲打したもの。

すり石(図 - 24-74-図 - 26-96)

116点出土した。礫石器の中では最も多い。分布は、調査区北側の旧河道周辺に密である。

74・79は軽石製で、片面のみ使用している。76～79は偏平礫を用い両面を使用したもの。80～96は88を除き、断面三角形の礫の稜にすり面があるもの。84・92・93・96は敲打痕をもつ。94～96は小形のもので、調整加工が見られず、素材をそのまま利用している。

扁平打製石器（図 - 27- 97～図 - 28- 112）

偏平礫を用い、周縁もしくは片面・両面の全面を半円状に打ち欠いて整形したもののほかに、周縁の打ち欠きが全周せず、長軸両端のみのもも本類に含めた。

26点出土した。分布は調査区中央付近に多い。104は敲打痕をもつ。105・106は打ち欠きによる周縁の調整と敲打による機能部の調整が施されたもので、使われていないもの。

北海道式石冠（図 - 29- 113～図 - 30- 125）

24点出土した。分布は、川原石が堆積した、旧河道沿いに多くみられる。破損して出土する例が多い。114は三角形の礫を素材としている。116は敲打により把握部の頂部に、礫の長軸に沿って溝を作出している。121～129は一部に原石面を残すが、全面を敲打により整形しているもの。やや大形のものが多い。

石鏟（図 - 31- 126～128）

石鏟は、原材となる礫も含めて24点出土した。分布は、中央付近に多い。

すべて断面が細いV字型を呈する礫を用いて、その縁辺を機能部としている。機能部および礫の周辺に打ち欠きによる調整が施されている。126・127は同一石材である。

砥石（図 - 31- 129～131）

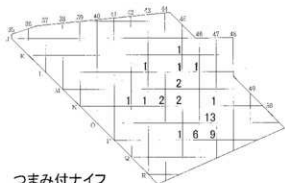
10点出土した。分布は、調査区北側と中央付近に限られる。

129・130は大形の偏平な自然礫をそのまま使用している。131は板状礫を素材としている。

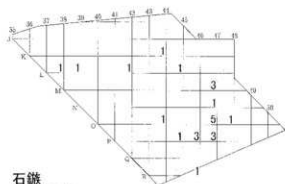
（村田）



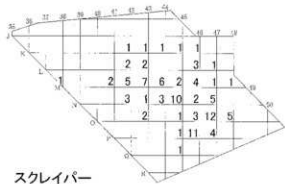
石器・石製品・礫計  
1519点



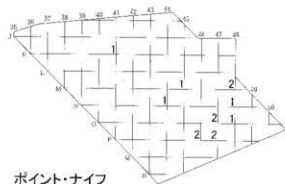
つまみ付ナイフ  
42点



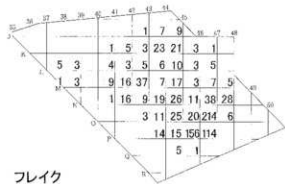
石鏃  
25点



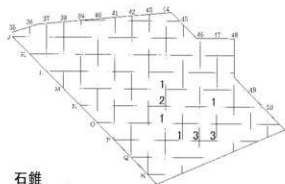
スクレイパー  
107点



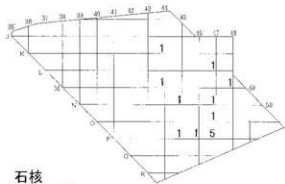
ポイント・ナイフ  
13点



フレイク  
964点



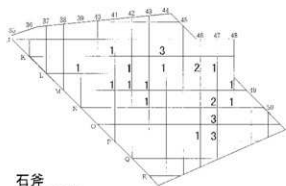
石鏃  
12点



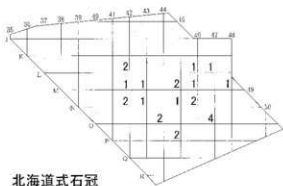
石核  
14点

図 - 18 包含層出土石器分布図(1)





石斧  
25点



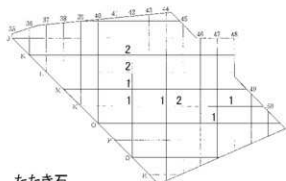
北海道式石冠  
24点



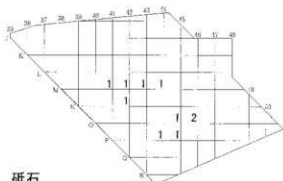
扁平打製石器  
26点



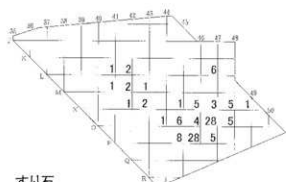
石斧・石鋸原材  
24点



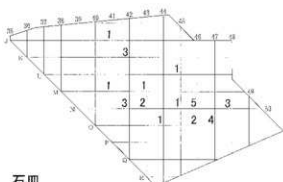
たたき石  
11点



砥石  
10点



すり石  
116点



石皿  
28点

図 - 19 包含層出土石器分布図(2)

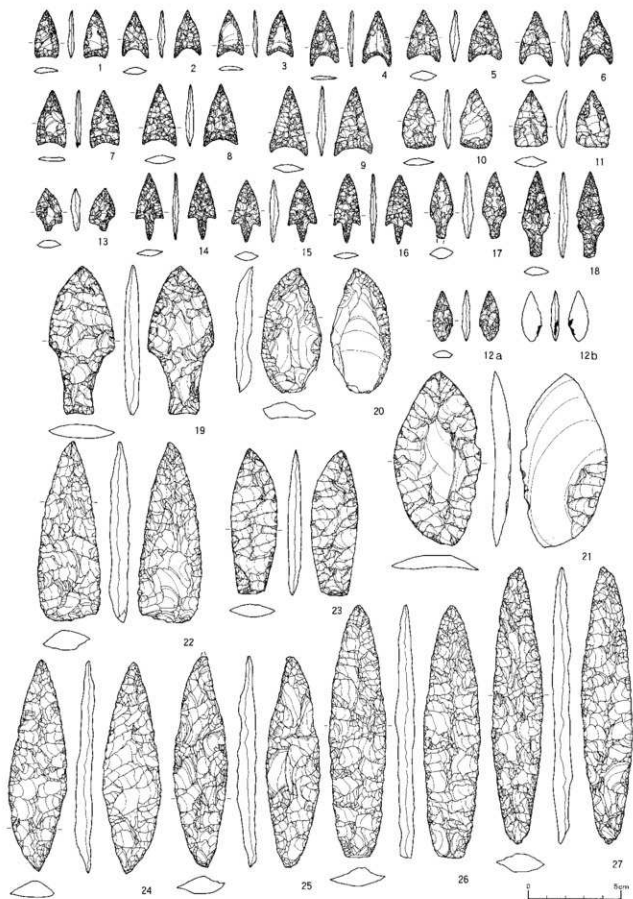


図 - 20 石鏃、ポイント・ナイフ

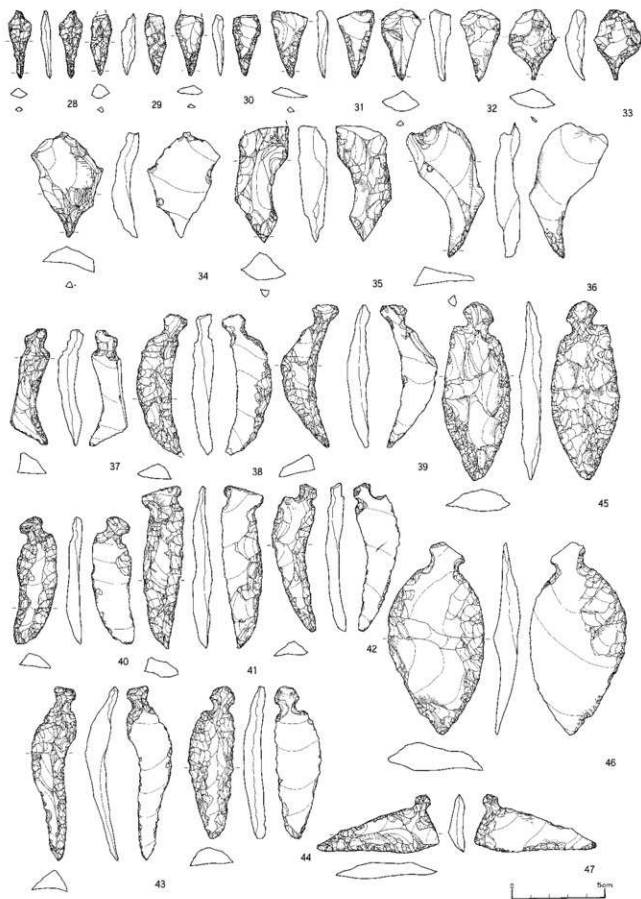


図 - 21 石錐、つまみ付ナイフ

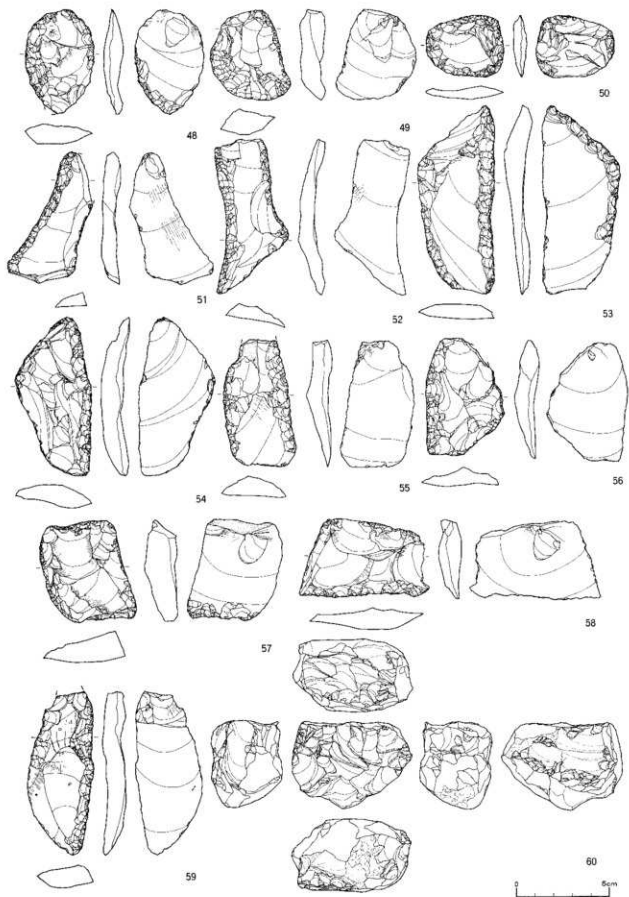


図 - 22 スクレイパー、石核

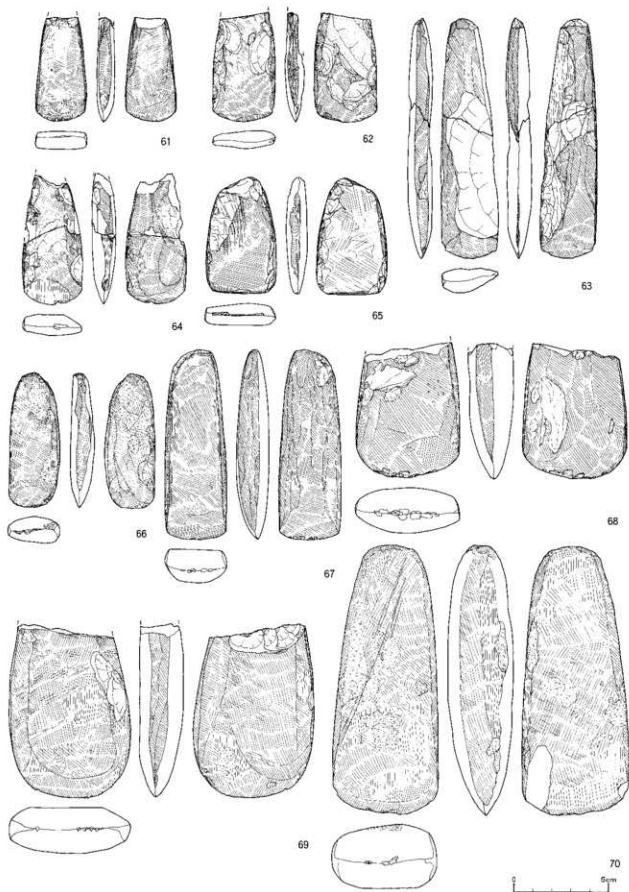


図 - 23 石斧

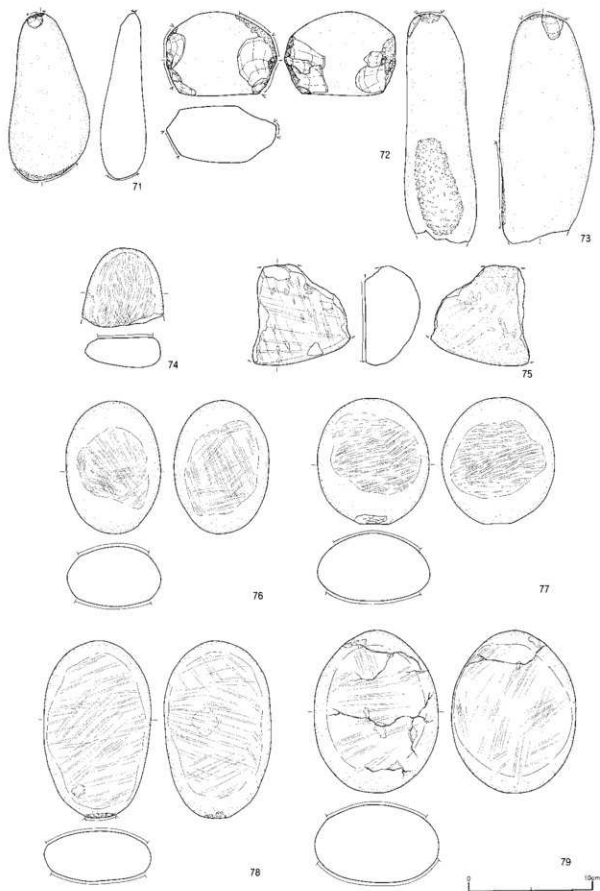


図 - 24 たたき石、すり石(1)

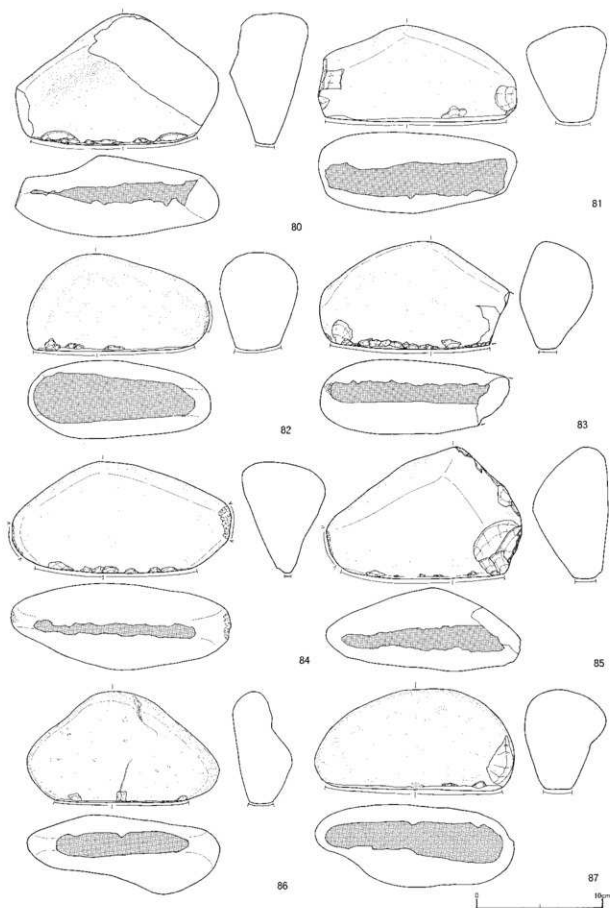


図 - 25 すり石 ( 2 )

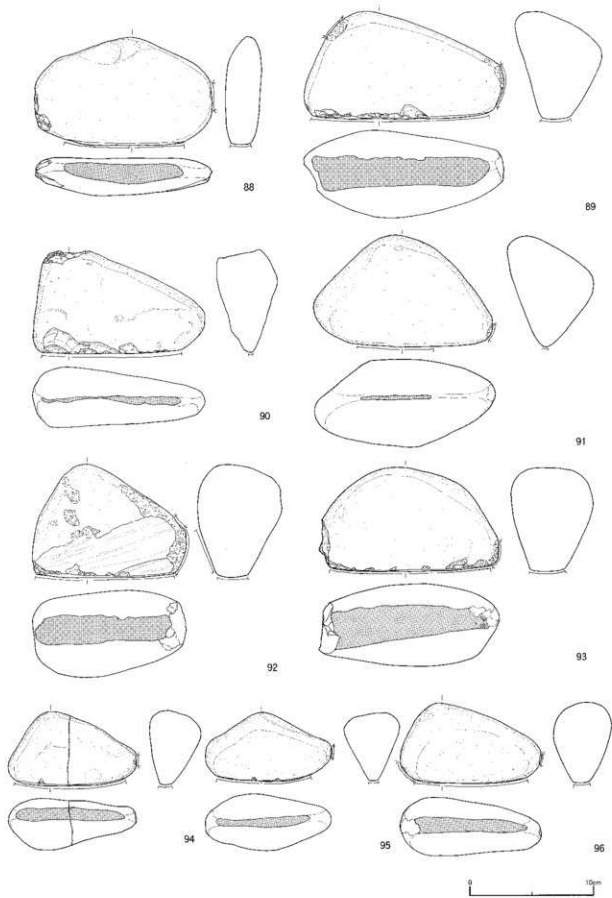


図 - 26 すり石 ( 3 )



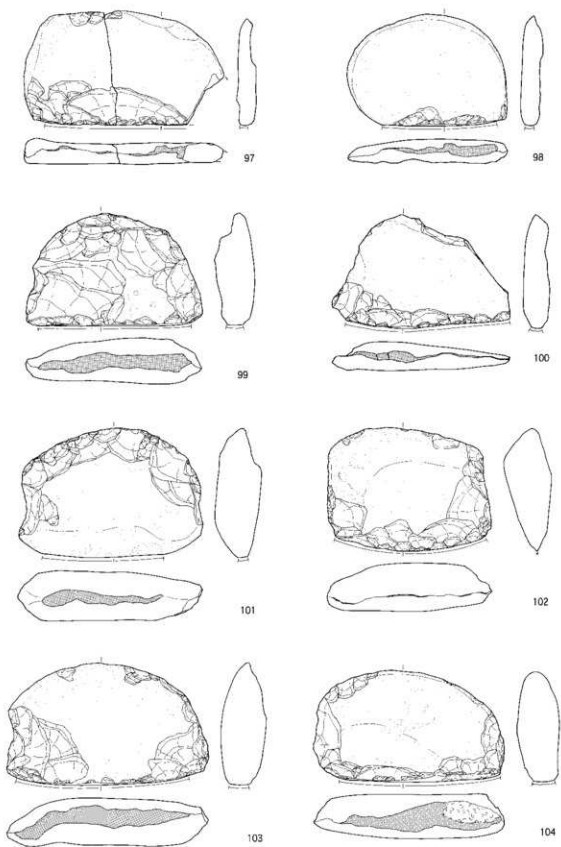


図 - 27 扁平打製石器(1)

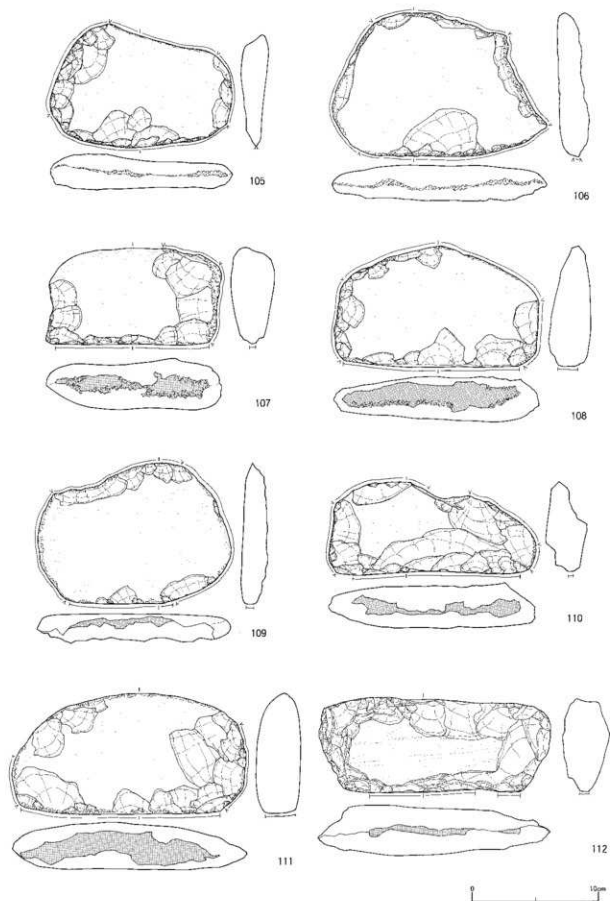


図 - 28 扁平打製石器(2)

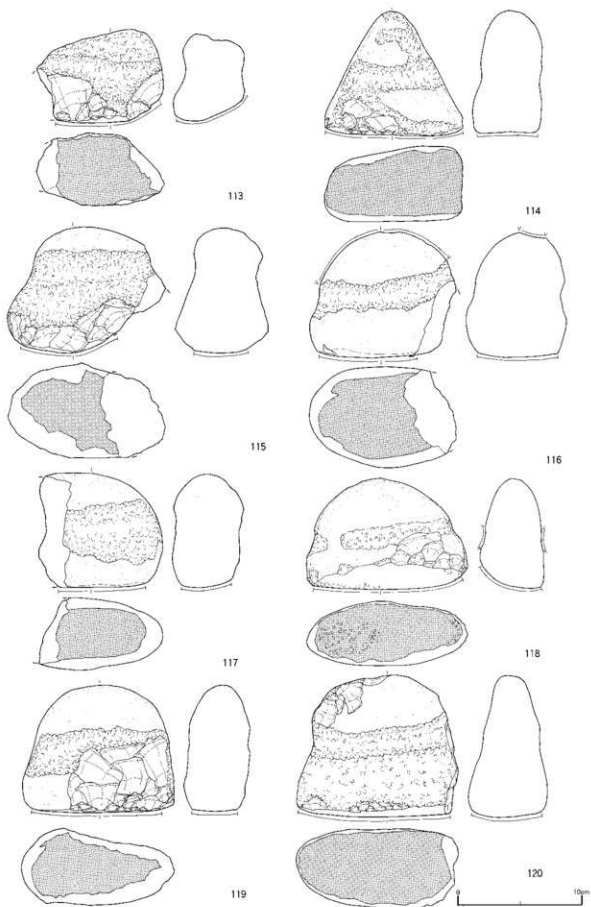


図 - 29 北海道式石冠 ( 1 )

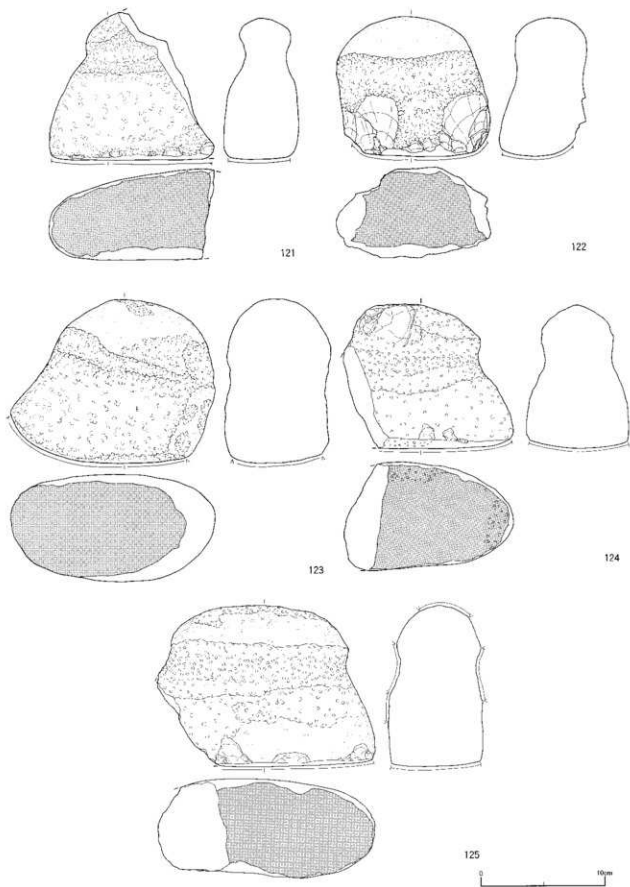


図 - 30 北海道式石冠(2)

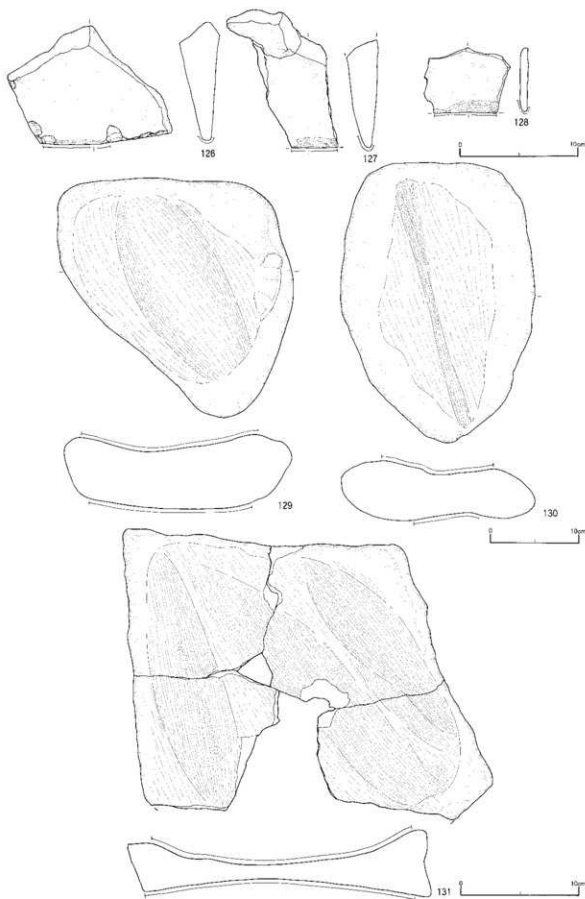


図 - 31 石鋸、砥石

表 - 1 包含層出土掘削土器一覧(1)

探洞番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等；地文等/特徴	整理番号
図IV-3	1	図版12	N-46	Vd	45-46	2	IIa	深鉢	底	複節LRL縄文/尖底 残存径8.3cm、残存高8.2cm	M-29
図IV-3	2	図版12	O-44	Vd	25	9	IIa	深鉢	底	複節LRL縄文/尖底 残存径10.6cm、残存高12.5cm	M-30
図IV-3	3	図版12	O-45	V	128	3	IIa	深鉢	底	複節LRL縄文/尖底	M-120
図IV-3	4	図版12	O-45	V	50-65・66	4	IIa	深鉢	胴～底	複節LRL縄文/尖底	M-122
図IV-3	5	図版12	N-45	V	32-42	2	IIa	深鉢	底	複節LRL縄文/尖底	M-119
図IV-3	6	図版12	O-44	V	45	4	IIa	深鉢	底	複節LRL縄文/尖底気味の底部	M-121
図IV-3	7	図版12	O-46	V	17-18・50-59 ・60-61・85	14	IIb-1	深鉢	口～底	複節LRL縄文+捺糸文/ きわめて緩やかな波状口縁	M-104
図IV-3	8	図版12	O-45	V	17-59・60-61 ・93-94・127	11	IIb-1	深鉢	口～胴	複節LRL縄文+捺糸文 きわめて緩やかな波状口縁	M-127
図IV-3	9	図版12	N-46	V	28-49	3	IIb-1	深鉢	口～胴	複節LRL縄文・捺糸文	M-105
図IV-3	10	図版12	O-45	V	76-77・78・ 89-90	11	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文・捺糸文/口縁 底径10.9cm、残存高25.1cm	M-27
図IV-4	11	図版13	O-46	V	11	1	IIb-1	深鉢	胴	複節LRL縄文+捺糸文	M-64
図IV-4	12	図版13	N-46	Vd	26	1	IIb-1	深鉢	胴	連続刺突；複節LRL縄文+捺糸文	M-63
図IV-4	13	図版13	O-45	V	95	4	IIb-1	深鉢	胴～底	結節・複節LRL縄文/弱い上げ底	M-116
図IV-4	14	図版13	O-45	V	20	3	IIb-1	深鉢	口～胴	連続刺突文・複節LRL縄文	M-114-①
図IV-4	15	図版13	O-45	V	88-90・91-95	9	IIb-1	深鉢	口～胴	連続刺突文・複節LRL縄文/弱い上げ底	M-114-②
図IV-4	16	図版13	N-46	V	16-29・34-36 ・37-39・48	16	IIb-1	深鉢	口～胴	結束RL縄文/きわめて緩やかな波状口縁 口径23.0cm、残存高21.1cm	M-25
図IV-4	17	図版13	N-46	V	25-26・27・ 29-36	18	IIb-1	深鉢	口～胴	結束LRL縄文/補修孔あり/平縁 口径19.6cm、残存高14.8cm	M-26
図IV-4	18	図版13	N-45	V	31-40・39	42	IIb-1	深鉢	口～胴	複節LRL縄文/きわめて緩やかな波状口縁 口径29.8cm、残存高25.4cm	M-24
図IV-5	19	図版14	O-45	V	65-87・88	5	IIb-1	深鉢	口～胴	RL縄文	M-124
図IV-5	20	図版14	N-46	Vd	33-34・37・ 48-49	8	IIb-1	深鉢	口～胴	複節LRL縄文/平縁	M-126
図IV-5	21	図版14	N-46	V	97	1	IIb-1	深鉢	口～胴	複節LRL縄文	M-61
図IV-5	22	図版14	O-45	V	16-38・65	3	IIb-1	深鉢	口～胴	複節LRL縄文/補修孔あり きわめて緩やかな波状口縁	M-131
図IV-5	23	図版14	O-45	V	1-49・50-64 ・65	10	IIb-1	深鉢	口～胴	複節LRL縄文/補修孔あり	M-129
図IV-5	24	図版14	O-44	V	15	1	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文/平底	M-23
図IV-6	25	図版15	N-44	Vd	29	2	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/上げ底 底径7.1cm、残存高20.1cm	M-117
図IV-6	26	図版15	N-45	V	31-32	3	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/上げ底	M-108
図IV-6	27	図版15	O-45	Vd	67	1	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文・捺糸文/平底	M-118
図IV-6	28	図版15	N-45	V	28-48・49	5	IIb-1	小型深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/上げ底 底径7.1cm、残存高20.1cm	M-107
図IV-6	29	図版15	O-45	Vd	67	2	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文・捺糸文/平底	M-118
図IV-6	30	図版15	O-45	V	16-49・50-121	7	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/上げ底	M-123
図IV-6	31	図版15	O-45	V	59-65	4	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/上げ底	M-123
図IV-6	32	図版15	O-45	V	77	3	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/上げ底	M-110
図IV-6	33	図版15	O-46	V	11	2	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/平底	M-109
図IV-6	34	図版15	N-46	Vd	28-49	14	IIb-1	深鉢	胴～底	RL縄文(底面含む)/上げ底	M-109
図IV-6	35	図版15	O-44	V	15	8	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/平底	M-115
図IV-6	36	図版15	O-44	Vd	25	1	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/平底	M-115
図IV-6	37	図版15	O-44	V下	21-32	3	IIb-1	深鉢	胴～底	複節LRL縄文(底面含む)/平底	M-115
図IV-7	38	図版16	N-46	V	44-46	5	IIb-4	深鉢	口～胴	網目状捺糸文+捺糸文・縄文瓦葺/ 夕方状の隆帯・平縁	M-138
図IV-7	39	図版16	O-44	V	11-22	3	IIb-4	深鉢	口～胴	網目状捺糸文+捺糸文・縄文瓦葺/ 夕方状の隆帯・平縁	M-138
図IV-7	40	図版16	O-45	V	40	5	IIb-4	深鉢	口～胴	網目状捺糸文+捺糸文・縄文瓦葺/ 夕方状の隆帯・平縁	M-138
図IV-7	41	図版16	N-46	V	31-44・46	6	IIb-4	深鉢	口～胴	網目状捺糸文+捺糸文・縄文瓦葺/ 山形沈線/平縁	M-137
図IV-7	42	図版16	O-46	V	5-16・21-22 ・67	8	IIb-4	深鉢	口～胴	網目状捺糸文+捺糸文・縄文瓦葺/ 山形沈線/平縁	M-137

表 - 1 包含層出土掲載土器一覧(2)

採回番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等/地文等/特徴	整理番号
図IV-7	35	図版16	O-45	V	34	1	II b-4	深鉢	胴	縦位の沈線・網目状捺糸文・捺糸文	M-67
図IV-7	36	図版16	L-41	V	4・11・28・39 +52	28	II b-4	深鉢	口～胴	捺糸文・捺糸文 /隆帯・平縁	M-133
			L-41	V c	40	5					
図IV-7	37	図版16	N-42	V	15・38	4	II b-4	深鉢	口縁	スダレ状捺糸文・縄文瓦直/隆帯・平縁	M-139①
			N-43	V	32	1					
図IV-7	38	図版16	J-43	V	25	1	II b-4	深鉢	口～胴	捺糸文・縄文瓦直・結束(第2種)羽状縄文 /平縁	M-141
			K-43	V	10・12	3					
図IV-7	39	図版16	M-41	V	29	2	II b-4	深鉢	口縁	捺糸文・縄文瓦直・捺糸文(多軸絡条体) ・結束(第2種)羽状縄文	M-142①
			M-42	V	14	1					
図IV-7	40	図版16	L-43	V	3	1	II b-4	深鉢	胴	捺糸文(多軸絡条体)	M-142②
			L-45	V	4	2					
			L-46	V	22	1					
			M-41	V c	27	1					
図IV-7	41	図版16	K-37	V	8	1	II b-4	深鉢	胴	木目状捺糸文	M-68
図IV-7	42	図版16	N-46	V	44	2	II b-4	深鉢	口～胴	捺糸文・LR縄文(底面)/上げ底	M-139②
図IV-7	43	図版16	K-41	V	24	1	II b-4	深鉢	口～胴	網目状捺糸文/平底	M-140
			L-41	V c	40	1					
			M-41	V c	53	1					
図IV-7	44	図版16	L-37	V	3	30	II b-4	深鉢	口～胴	捺糸文・縄文瓦直・結束(第2種)羽状縄文 /補修孔あり・平縁	M-134
図IV-8	45	図版17	L-41	V c	9・32・40・41	49	II b-4	深鉢	口～底	条帯・結束(第2種)羽状縄文・捺糸文・ 絡条体瓦直/平縁・平底 口径22.4cm、底径11.7cm、器高39.1cm 還元率約85%	M-5
			L-41	V	10・11・18・20 +24・28・39・ 43・52	36					
			M-43	V	3	1					
図IV-8	46	図版17	N-43	V	25	45	II b-4	深鉢	口～底	縄文瓦直・結束(第2種)羽状縄文・捺糸文 /平縁・平底 口径16.5cm、底径9.0cm、器高21.0cm 還元率約75%	M-6
図IV-8	47	図版17	H-41	V	3	1	II b-4	深鉢	口～底	縄文瓦直・複筋LR縄文 /平縁・平底	M-136
			J-43	V 砂	10	1					
			L-42	V	1・22・31・43	18					
			L-43	V	3・5	4					
			M-41	V	42	2					
			M-42	V	18	1					
			M-46	V	17・36	3					
図IV-8	48	図版17	M-47	V	8・17・29・30 +37・38	37	II b-4	深鉢	口～底	LR縄文(底面含む) /平縁・平底	M-132
図IV-8	49	図版17	L-41	V	18	1	II b-4	深鉢	口縁	縄文瓦直/波状口縁	M-66
図IV-8	50	図版17	M-44	V	33	1	II b-4	鉢	口～胴	沈線・連続刺突/貝殻縞縄文・縄文瓦直 /口縁下くびれ強	M-144
図IV-8	51	図版17	L-42	V	1・19・22	30	II b-4	深鉢	口～胴	縄文瓦直・RL縄文/波状口縁	M-135
図IV-9	52	図版18	K-41	V	3	1	III a	深鉢	胴	貼付隆帯・縄文瓦直・連続馬蹄形瓦直	M-74
図IV-9	53	図版18	L-41	V c	17・33	2	III a	小型深鉢	口～胴	連続馬蹄形瓦直・結束羽状縄文	M-153
図IV-9	54	図版18	L-47	V	18・21	2	III a	深鉢	口縁	貼付隆帯・縄文瓦直	M-72
図IV-9	55	図版18	M-41	V	16・25・50	5	III a	深鉢	口縁	貼付隆帯・縄文瓦直・連続馬蹄形瓦直	M-146
図IV-9	56	図版18	M-41	V	55	2	III a	深鉢	胴	貼付隆帯・縄文瓦直; LR縄文	M-62
図IV-9	57	図版18	L-41	V	66	1	III a	深鉢	口縁	貼付隆帯・縄文瓦直; 沈線; RL縄文	M-70
図IV-9	58	図版18	N-46	V	97	1	III a	深鉢	口縁	貼付隆帯; LR縄文	M-71
図IV-9	59	図版18	L-47	V	11・18・21・22	19	III a	深鉢	口～胴	貫通孔・貼付隆帯・結束羽状縄文 波状口縁+大型突起	M-145
			L-48	V	2	1					
			M-43	V	8・9・10	4					
			N-42	V	15	1					
図IV-9	60	図版18	J-41	V	8	1	III a	深鉢	口～胴	貼付隆帯・縄文瓦直; 結節縄文 波状口縁+突起	M-149
図IV-9	61	図版18	N-43	V	35	2	III a	小型深鉢	口縁	貫通孔・結束羽状縄文	M-155①
図IV-9	62	図版18	N-45	V	44	2	III a	小型深鉢	底	結束羽状縄文/上げ底気味	M-155②
図IV-10	63	図版19	L-40	V	7	30	III a	深鉢	口～胴	貼付隆帯・縄文瓦直; 結節縄文	M-150
図IV-10	64	図版19	I-41	V	8	8	III a	深鉢	胴～底	結節LR縄文/平底	M-148
図IV-10	65	図版19	L-40	V	3・7	2	III a	深鉢	口～胴	貼付隆帯; 結節RL縄文 /波状口縁+突起・平底	M-22
			L-41	V	12・13・14・21	27					

表 - 1 包含層出土掲載土器一覧(3)

挿入番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等/地文等/特徴	整理番号		
IV-10	66	図版19	L-41	Vc	・29・51・54・ 56・57・64	20	IIIa	深鉢	口～胴	口径23.0cm、底径6.9cm、器高24.5cm 復元率約70%	M-7		
					N-43	V				11・29・42・44		48	
					N-43	Vc				35		1	
					N-44	V				3・5・6・37		8	
					N-46	V				98		1	
					M-43	V				9		1	
IV-10	67	図版19	M-46	V	18	1	IIIa	深鉢	口～胴	平行沈線;RL縄文 /緩やかな波状口縁	M-151		
					N-46	V				17・92・97		8	
					N-47	V				8		1	
IV-10	68	図版19	I-41	V	5	1	IIIa	深鉢	口～胴	口唇上連続刺突;RL縄文	M-154		
					K-38	V				4		2	
IV-10	69	図版19	L-40	V	3	5	IIIa	深鉢	口縁	RL縄文/波状口縁	M-152		
IV-11	70	図版20	L-47	V	6	1	IIIb	深鉢	口縁	連続刺突;LR縄文/折り返し口縁	M-77		
IV-11	71	図版20	N-46	V	96	1	IIIb	深鉢	口縁	連続刺突;LR縄文/折り返し口縁	M-76		
IV-11	72	図版20	N-45	V	44	1	IIIb	深鉢	口縁	連続刺突;LR縄文/折り返し口縁・平縁	M-156②		
					N-46	V				17		1	
					O-46	V				32		1	
IV-11	73	図版20	M-41	V	43	1	IIIb	深鉢	口～胴	連続刺突;LR縄文・RL縄文 /折り返し口縁・平縁	M-156①		
					N-46	V				77		8	
					O-45	V				31・38・41		4	
IV-11	74	図版20	J-44	V	10	3	IIIb	深鉢	口縁	連続刺突;LR縄文	M-75		
IV-11	75	図版20	N-45	V	11	1	IIIb	深鉢	胴	貼付帯・連続円形刺突;RL縄文	M-89		
					N-47	V				12		1	
IV-11	76	図版20	M-42	V	32	1	IVa	深鉢	口縁	LR縄文/折り返し口縁	M-79		
IV-11	77	図版20	N-43	V	11・42	2	IVa	小型深鉢	底	LR縄文/平底	M-166		
IV-11	78	図版20	K-44	V	11・22・23・24	35	IVa	深鉢	口～底	LR縄文/波状口縁・平底 口径11.7cm、底径9.3cm、器高19.2cm 復元率約60%	M-11		
IV-11	79	図版20	J-40	V	13	82	IVa	深鉢	口～底	LR縄文/波状口縁+突起・平底 口径29.8cm、底径13.7cm、器高44.6cm 復元率約80%	M-10		
IV-11	80	図版20	N-42	V	8	1	IVa	深鉢	口～底	平行沈線;RL縄文/波状口縁・平底 口径29.2cm、底径12.1cm、器高34.8cm 復元率約75%	M-13		
					N-43	V				6・11・45・46		84	
IV-12	81	図版21	L-41	V	12・27・60	4	IVa	深鉢	口～胴	連続指頭圧痕/折り返し口縁・平縁	M-168		
					L-41	Vc				35		1	
IV-12	82	図版21	O-44	V	28	1	IVa	深鉢	口～胴	鋸歯状沈線/折り返し口縁	M-80		
IV-12	83	図版21	L-46	V	12・24	3	IVa	小型深鉢	口～胴	曲沈線/折り返し口縁・平縁	M-173		
IV-12	84	図版21	K-42	V	18	1	IVa	深鉢	胴	格子目状沈線	M-88		
IV-12	85	図版21	J-44	V	19	1	IVa	深鉢	口縁	横走沈線・曲沈線/折り返し口縁	M-86		
IV-12	86	図版21	M-46	V	2・3・4・10	11	IVa	深鉢	口～胴	横走沈線・蛇行沈線/折り返し口縁	M-170		
IV-12	87	図版21	J-43	V	29	1	IVa	小型深鉢	口～胴	横走沈線・曲沈線/折り返し口縁・平縁	M-169		
					J-43	V砂				16・17・18		3	
					M-41	V				26		1	
					N-42	V				8・9		6	
					H-43	V				7		1	
IV-12	89	図版21	I-43	V砂	8	5	IVa	深鉢	口～胴	杵状文・紡錘文・弧線文	M-165		
					J-43	V砂						16・17・18・19	5
					J-43	V						29	4
					L-41	V						22・26	2
					J-41	V						1・21・22	12
IV-12	90	図版21	J-43	V砂	17	1	IVa	深鉢	口～胴	8の字状貼付帯・横走沈線・縦位の沈線 ・蛇行沈線;RL縄文 /折り返し口縁・平縁+突起	M-159		
					K-41	V				5・6・33		10	
					O-45	V				30		1	
IV-12	91	図版21	O-45	V	30	1	IVa	深鉢	口縁	8の字状貼付帯・横走沈線・蛇行沈線	M-84		
IV-12	92	図版21	I-43	V砂	10	8	IVa	深鉢	口～胴	8の字状貼付帯/平縁+突起	M-162		
IV-12	93	図版21	J-43	V	29	3	IVa	深鉢	口～胴	8の字状貼付帯・横走沈線・蛇行沈線 /波状口縁	M-171		
					K-43	V				13・14		25	
					M-46	V				32		1	
IV-13	94	図版22	K-41	V	1・2・5・6・13	92	IVa	深鉢	口～底	8の字状貼付帯・横走沈線・蛇行沈線	M-14		



表 - 1 包含層出土掲載土器一覧(4)

採回番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等；地文等/特徴	整理番号
					-14・25・33					縦位の沈線:LR縄文/平線+突起 口径32.8cm、底径13.4cm、器高42.9cm 復元率約75%	
図IV-13	95	図版22	J-43	V	29	1	IVa	深鉢	口～胴	縦位の沈線・蛇行沈線・斜行沈線 /緩やかな波状口縁	M-172
			J-43	V	砂	16・17・18	4				
			N-43	V	11	1					
図IV-13	96	図版22	N-44	V	11	1	IVa	深鉢	胴	曲沈線(渦文)・蛇行沈線・斜行沈線	M-158
			O-44	V	28	2					
図IV-13	97	図版22	M-46	V	32・34	2	IVa	深鉢	口～胴	曲沈線・横走沈線:LR縄文	M-167
			M-47	V	15	1					
図IV-13	98	図版22	M-42	V	32	1	IVa	壺	口～胴	連続刺突・曲沈線・縄文	M-81
図IV-13	99	図版22	M-43	V	1	1	IVa	深鉢	口縁	貼付帯・カニはさみ状の沈線:LR縄文	M-83
図IV-13	100	図版22	O-44	V	48	1	IVa	深鉢	口縁	横走沈線・帯状文・連続円形刺突:LR縄文	M-85
図IV-13	101	図版22	N-42	V	9・13・14	4	IVa	深鉢	口縁	帯状区面文・捺指文	M-163
図IV-13	102	図版22	J-45	IV	5	4	IVa	深鉢	口～胴	帯状区面文・縦位の窟歯状沈線 :RL縄文・磨消/平線	M-160
			K-45	V	1・5	8					
図IV-13	103	図版22	L-43	V	2	1	IVa	深鉢	口～胴	帯状区面文・カニはさみ状の沈線・ 縦位の窟歯状沈線・平行沈線 :RL縄文・磨消/平線	M-161
			L-44	V	2330	4					
			M-44	V	32	2					
図IV-14	104	図版23	J-43	V	20・29	2	IVa	深鉢	口～胴	カニはさみ状の帯状区面文 /平線	M-157
			K-43	V	14	1					
			M-42	V	13・32・34	5					
			M-43	V	4・18	3					
			M-47	V	39	1					
			N-42	V	9・14	2					
			N-45	V	8	1					
図IV-14	105	図版23	J-41	V	1	1	IVa	深鉢	口～底	貼付帯・鍵の手状の区面沈線文: 捺指文/緩やかな波状口縁・平底 口径18.6cm、底径6.7cm、器高18.6cm 復元率約65%	M-18
			J-43	V	29	1					
			K-41	V	6	1					
			K-43	V	14	1					
			L-41	V	22・26・57・68	6					
			L-42	V	25・44	2					
			M-41	V	52・56・57	10					
			M-42	V	13・33	3					
図IV-14	106	図版23	L-45	V	3・7	26	IVa	深鉢	口～底	帯状区面文(平行・曲線):捺指文 口径15.0cm、底径6.2cm、器高18.1cm 復元率約90%	M-12
図IV-14	107	図版23	L-41	V	22・26・53・57 ・62・68	29	IVa	深鉢	口～底	帯状区面文(平行・曲線):LR縄文 口径14.0cm、底径6.6cm、器高21.7cm 復元率約70%	M-15
			L-41	V	35	1					
図IV-14	108	図版23	K-41	V	6	1	IVa	深鉢	口～底	帯状区面文(平行・曲線):連続刺突 /波状口縁・平底 口径18.4cm、底径6.9cm、器高22.6cm 復元率約70%	M-16
			L-41	V	16・22・26・53・ 57・60・62・68	37					
			L-42	V	20・34	2					
図IV-14	109	図版23	M-42	V	32・33・34・39	36	IVa	深鉢	口～底	帯状文・縦位の窟歯状沈線:LR縄文 口径18.3cm、底径8.4cm、器高23.7cm 復元率約75%	M-17
			M-43	V	1・2・3・4	14					
図IV-15	110	図版24	M-42	V	10・34	2	IVb-1	深鉢	口縁	横走沈線・窟歯状沈線:LR縄文	M-82
図IV-15	111	図版24	K-38	V	3	1	IVb-1	深鉢	胴	横走沈線・窟歯状沈線:LR縄文	M-87
図IV-15	112	図版24	M-46	V	5	7	IVb-1	小型深鉢	口～胴	横走沈線・窟歯状沈線:LR縄文 /平線	M-174
			N-46	V	3	1					
図IV-15	113	図版24	M-41	V	68・76	11	IVb-2	深鉢	口～底	横走沈線・弧線文:LR縄文/波状口縁 口径14.5cm、底径4.9cm、器高12.8cm 復元率約70%	M-28
図IV-15	114	図版24	L-47	V	16・17・20	42	IVb-2	鉢	口～底	横走沈線・横U字状沈線:RL縄文	M-178
図IV-15	115	図版24	L-43	V	6	3	IVb-2	深鉢	口～胴	横走沈線・横U字状沈線:LR縄文 /緩やかな波状口縁	M-179
			M-42	V	7・12	4					
			N-43	V	1	1					
図IV-15	116	図版24	M-41	V	45・51	2	IVb-2	鉢	口～底	横走沈線・U字状沈線:RL縄文 /平底	M-177
			M-42	V	7・8・11・12・ 17・27・32	16					
図IV-15	117	図版24	L-47	V	8・13	4	IVb-2	深鉢	口～底	横走沈線:LR縄文	M-19

表 - 1 包含層出土掲載土器一覧(5)

挿図番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	点数	分類	器種	部位	文様等；地文等／特徴	整理番号	
図IV-15	118	図版24	M-45	V	11・12・13・32	31	IVb-2	深鉢	胴～底	口径22.0cm、底径6.2cm、器高15.3cm 復元率約85%	M-20	
			K-41	V	1・2・5・6・13・14・22・25・33	67						
図IV-15	119	図版24	K-43	V	1・2	19	IVb-2	深鉢	胴～底	横走沈線・横U字状沈線・縦位の沈線；LR縄文／平底	M-103	
			K-44	V	20	1						
			L-43	V	1・2・6	14						
			L-44	V	16	1						
図IV-16	120	図版25	P-46	V	2	1	IVb-2	鉢	口縁	横走沈線・横U字状沈線；RL縄文	M-78	
図IV-16	121	図版25	I-44	V	下	10	1	IVb-2	小型深鉢	口縁	横走沈線・横U字状沈線・連続刺突；LR縄文	M-91
図IV-16	122	図版25	J-43	V	43	1	IVb-2	深鉢	口縁	横走沈線・横U字状沈線；RL縄文	M-90	
図IV-16	123	図版25	O-43	V	3	4	IVb-3	深鉢	口～胴	帯状文(平行・曲線)；RL縄文	M-175	
			O-44	V	7	10						
			O-44	V	下	33						3
図IV-16	124	図版25	K-42	V	8・16	14	IVb-3	壺	口～胴	入組線文／頸部くびれ強・平縁 口径7.7cm、残存高10.5cm 復元率約60%	M-21	
図IV-16	125	図版25	L-41	V	2	1	IVb-3	壺	胴	随刻文	M-92	
図IV-16	126	図版25	M-41	V	41・51・54	3	IVb-3	深鉢	口縁	刻み列；羽状縄文／切出形口唇	M-180①	
図IV-16	127	図版25	M-41	V	5・45	2	IVb-3	深鉢	口縁	刻み列・横走沈線・蛇行沈線；LR縄文	M-180②	
			M-42	V	7	1						
			J-44	V	砂	9						3
図IV-16	128	図版25	J-44	V	砂	9	3	Vc	鉢	口縁	口唇刻み・横走沈線・連続刺突；LR縄文	M-95
図IV-16	129	図版25	L-42	V	24	1	Vc	鉢	口縁	横走沈線・連続刺突；LR縄文	M-93	
図IV-16	130	図版25	I-44	(トンチ)	3	1	Vc	鉢	口縁	口唇刻み・平行沈線・連続刺突；RL縄文	M-94	
			J-44	V	砂	9						1
図IV-16	131	図版25	J-40	V	5・7・9	55	Vc	台付深鉢	胴～底	突起；RL縄文／すかし 底径14.1cm、残存高22.6cm 復元率約30%	M-8	
図IV-16	132	図版25	I-43	(トンチ)	1	2	Vc	鉢	口縁	LR縄文	M-96	
図IV-16	133	図版25	L-44	V	15・29・36	3	Vc	台付鉢	口～底	刻み・平行沈線；LR縄文 口径13.7cm、底径7.9cm、器高10.8cm 復元率約30%	M-9	

表 - 2 包含層出土掲載土製品一覧

挿図番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物No.	点数	分類	時期	大きさ(cm)			重さ(g)	整理番号	
									長径	短径	厚さ			
図IV-17	134	図版26	N-45	V	18	1	土器片再生円盤	縄文前期	4.2	(3.8)	0.9	12.1	M-31	
図IV-17	135	図版26	O-44	V	17	1	土器片再生円盤	縄文前期	4.6	(3.1)	1.0	10.0	M-32	
図IV-17	136	図版26	N-46	Vd	27	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.8	(5.0)	1.1	25.8	M-33	
図IV-17	137	図版26	H-43	V	砂	8	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.8	5.7	0.8	34.0	M-34
図IV-17	138	図版26	K-41	Vc	44	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.5	(4.2)	0.9	22.7	M-35	
図IV-17	139	図版26	K-43	V	18	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.1	(3.9)	0.8	7.9	M-36	
図IV-17	140	図版26	K-42	Vc	12	1	土器片再生円盤	縄文前期	3.8	(3.0)	0.9	18.7	M-37	
図IV-17	141	図版26	K-45	V	7	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.3	(3.6)	0.8	14.4	M-38	
図IV-17	142	図版26	L-41	Vc	15	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.3	(3.9)	0.7	11.7	M-39	
図IV-17	146	図版26	L-41	V	19	1	土器片再生円盤	縄文前期	4.6	4.5	0.8	15.1	M-40	
図IV-17	144	図版26	L-44	V	4	1	土器片再生円盤	縄文前期	4.7	(3.6)	1.0	9.3	M-41	
図IV-17	145	図版26	L-45	V	12	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.7	(4.5)	0.8	17.7	M-42	
図IV-17	146	図版26	M-41	V	48	1	土器片再生円盤	縄文前期	3.6	(2.8)	1.1	8.4	M-43	
図IV-17	147	図版26	N-42	V	12	1	土器片再生円盤	縄文後期	4.9	4.5	0.8	20.1	M-44	
図IV-17	148	図版26	N-43	Vc	34	1	土器片再生円盤	縄文前期	5.6	5.5	0.9	22.5	M-45	
図IV-17	149	図版26	L-41	Vc	37	1	三角形土製品	縄文後期	4.2	3.4	1.1	13.6	M-46	
図IV-17	150	図版26	N-44	V	5	1	三角形土製品	縄文後期	3.2	(2.6)	0.9	7.3	M-47	
図IV-17	151	図版26	M-46	V		2	ミニチュア	縄文後期	3.2	3.0	4.0	13.8	M-48	

表 - 3 包含層出土掘載石器一覧(1)

図番号	掲載番号	器種名	調査区	遺物番号	出土層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	図版番号	備考
図IV-20	1	石鍬	O-45	45	V層	2.6	1.3	0.4	0.9	頁岩	図版26	
図IV-20	2	石鍬	N-46	135	V層	2.6	1.4	0.4	0.9	メノウ	図版26	
図IV-20	3	石鍬	O-46	1	V層	2.5	1.5	0.3	0.6	頁岩	図版26	
図IV-20	4	石鍬	O-44	3	V層下	3.0	1.6	0.3	0.9	obs.	図版26	
図IV-20	5	石鍬	O-45	112	V層	2.8	1.9	0.5	2.0	obs.	図版26	
図IV-20	6	石鍬	N-46	136	Vd層	3.0	1.8	0.5	1.5	メノウ	図版26	
図IV-20	7	石鍬	N-47	19	V層	3.1	1.6	0.3	1.3	頁岩	図版26	
図IV-20	8	石鍬	N-46	63	Vd層	3.4	1.9	0.5	1.9	メノウ	図版26	
図IV-20	9	石鍬	Q-45	1	I層	3.8	2.1	0.5	2.1	頁岩	図版26	
図IV-20	10	石鍬	O-46	48	V層	3.2	2.7	0.4	2.1	頁岩	図版26	
図IV-20	11	石鍬	O-45	52	V層	3.1	1.8	0.5	2.0	頁岩	図版26	
図IV-20	12	石鍬	K-41	19	V層	2.7	1.1	0.5	1.2	メノウ	図版26	
図IV-20	13	石鍬	N-43	36	V層	2.3	1.4	0.5	1.4	頁岩	図版26	
図IV-20	14	石鍬	L-46	3	V層	3.7	1.5	0.4	1.1	頁岩	図版26	
図IV-20	15	石鍬	L-46	16	V層	3.4	1.6	0.5	1.5	頁岩	図版26	
図IV-20	16	石鍬	L-46	25	V層	3.8	1.5	0.4	1.2	頁岩	図版26	
図IV-20	17	石鍬	J-43	2	V層砂	3.6	1.3	0.6	2.0	鉄石英	図版26	
図IV-20	18	石鍬	M-41	19	V層	4.7	1.5	0.5	2.5	obs.	図版26	
図IV-20	19	ポイント・ナイフ	N-46	55	V層	8.1	3.5	0.8	21.1	頁岩	図版26	
図IV-20	20	ポイント・ナイフ	L-44	19	V層	6.8	3.3	0.8	19.5	頁岩	図版26	
図IV-20	21	ポイント・ナイフ	L-47	25	V層	9.2	3.0	12.0	28.2	頁岩	図版26	
図IV-20	22	ポイント・ナイフ	N-46	61	Vd層	9.7	3.4	10.5	37.0	頁岩	図版26	
図IV-20	23	ポイント・ナイフ	N-47	18	V層	7.9	2.5	0.7	15.0	頁岩	図版26	
図IV-20	24	ポイント・ナイフ	O-46	9	V層	11.5	3.2	0.9	28.6	頁岩	図版26	
図IV-20	25	ポイント・ナイフ	O-45	104	V層	11.4	3.0	1.0	34.0	頁岩	図版26	
図IV-20	26	ポイント・ナイフ	O-46	8	V層	13.7	3.1	10.5	39.3	頁岩	図版26	
図IV-20	27	ポイント・ナイフ	M-43	23	Vc層	15.0	2.8	1.0	44.0	頁岩	図版26	
図IV-21	28	石鏟	M-46	26	V層	3.7	1.0	0.5	1.6	頁岩	図版27	
図IV-21	29	石鏟	M-43	31	V層	3.3	1.2	0.8	2.7	メノウ	図版27	
図IV-21	30	石鏟	O-45	113	V層	3.3	1.6	0.6	2.0	頁岩	図版27	
図IV-21	31	石鏟	O-46	70	V層	3.7	2.0	0.6	2.5	メノウ	図版27	
図IV-21	32	石鏟	O-44	30	V層	3.9	2.1	1.1	5.7	頁岩	図版27	
図IV-21	33	石鏟	N-43	7	V層	4.8	24.8	1.1	7.0	頁岩	図版27	
図IV-21	34	石鏟	O-49	49	V層	5.7	3.9		18.1	メノウ	図版27	
図IV-21	35	石鏟	O-46	59	V層	6.3	3.0	1.6	21.6	頁岩	図版27	
図IV-21	36	石鏟	M-43	15	V層	7.3	4.3		18.0	頁岩	図版27	
図IV-21	37	つまみ付ナイフ	N-46	80	V層	6.3	2.0		10.2	頁岩	図版27	
図IV-21	38	つまみ付ナイフ	O-45	148	V層	7.6	2.7	1.2	13.1	頁岩	図版27	
図IV-21	39	つまみ付ナイフ	N-46	140	Vd層	7.7	3.1	1.2	12.2	頁岩	図版27	
図IV-21	40	つまみ付ナイフ	O-45	72	V層	6.9	2.5	0.8	9.6	頁岩	図版27	
図IV-21	41	つまみ付ナイフ	O-46	10	V層	8.8	2.4	1.1	16.5	頁岩	図版27	
図IV-21	42	つまみ付ナイフ	N-46	138	Vd層	8.0	2.5		9.8	頁岩	図版27	
図IV-21	43	つまみ付ナイフ	N-46	68	Vd層	9.4	2.4		15.0	頁岩	図版27	
図IV-21	44	つまみ付ナイフ	M-46	37	V層	8.2	2.5		19.6	頁岩	図版27	
図IV-21	45	つまみ付ナイフ	J-44	1	V層	9.7	3.7	1.2	32.5	obs.	図版27	
図IV-21	46	つまみ付ナイフ	O-44	51	V層	10.4	5.2		52.0	頁岩	図版27	
図IV-21	47	つまみ付ナイフ	K-44	16	V層	3.2	6.6		10.0	頁岩	図版27	
図IV-22	48	スクレイパー	J-43	31	V層	5.7	3.7	1.1	18.3	頁岩	図版28	
図IV-22	49	スクレイパー	O-45	101	V層	4.9	4.3	1.4	26.3	頁岩	図版28	
図IV-22	50	スクレイパー	N-46	57	Vd層	3.3	4.2	0.7	10.5	頁岩	図版28	
図IV-22	51	スクレイパー	L-42	15	V層	7.1	4.6	1.0	19.4	頁岩	図版28	
図IV-22	52	スクレイパー	L-43	10	V層	8.4	4.1		22.2	頁岩	図版28	
図IV-22	53	スクレイパー	L-37	1	V層	10.2	4.1	1.1	41.6	頁岩	図版28	
図IV-22	54	スクレイパー	J-42	11	V層砂	9.6	4.1	1.2	37.6	頁岩	図版28	
図IV-22	55	スクレイパー	L-43	10	V層	6.9	4.0		29.1	頁岩	図版28	
図IV-22	56	スクレイパー	L-42	15	V層	6.4	4.3		27.7	頁岩	図版28	
図IV-22	57	スクレイパー	K-45	6	V層	5.5	5.2	1.8	48.0	頁岩	図版28	
図IV-22	58	スクレイパー	K-41	17	V層	4.3	7.1	1.2	32.7	頁岩	図版28	
図IV-22	59	スクレイパー	L-41	75	V層	8.9	3.5		37.7	頁岩	図版28	
図IV-22	60	石核	N-46	67	Vd層	4.7	6.5	3.8	144.6	頁岩	図版28	
図IV-23	61	石斧	L-42	13	V層	5.5	2.7	0.9	25.7	緑色泥岩	図版29	
図IV-23	62	石斧	O-45	44	V層	5.8	3.3	0.9	24.8	緑色泥岩	図版29	
図IV-23	63	石斧	M-46	40	V層	12.7	3.0	1.2	70.4	緑色泥岩	図版29	2点接合
図IV-23	64	石斧	J-43	3-37	V層砂	6.9	3.2	1.2	41.5	緑色泥岩	図版29	2点接合
図IV-23	65	石斧	O-46	42	V層	6.1	3.7	1.1	41.6	緑色泥岩	図版29	
図IV-23	66	石斧	K-43	17	V層	7.1	2.7	1.3	44.0	片岩	図版29	
図IV-23	67	石斧	K-45	15	V層	10.0	3.3	1.7	102.0	緑色泥岩	図版29	
図IV-23	68	石斧	M-47	26	V層	7.2	5.5	2.4	150.6	緑色泥岩	図版29	

表 - 3 包含層出土掲載石器一覧(2)

図番号	掲載番号	器種名	調査区	遺物番号	出土層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	図版番号	備考
図IV-23	69	石斧	N-46	64	Vd層	9.2	6.5	2.2	227.3	砂岩	図版29	
図IV-23	70	石斧	J-40	1	V層	14.2	5.8	3.3	412.0	砂岩	図版29	
図IV-24	71	たたき石	M-41	61	V層	13.5	6.6	3.7	406.0	安山岩	図版29	
図IV-24	72	たたき石	M-47	19	V層	6.9	9.0	4.6	439.0	砂岩	図版29	
図IV-24	73	たたき石	K-41	30	V層	(15.1)	6.2	4.6	(1910.0)	安山岩	図版29	
図IV-24	74	すり石	K-41	40	V層	6.4	6.6	2.5	66.0	軽石	図版29	
図IV-24	75	すり石	K-41	27	V層	7.7	7.9	4.4	119.9	軽石	図版29	
図IV-24	76	すり石	L-41	48	V層	10.7	7.7	4.9	458.0	安山岩	図版29	
図IV-24	77	すり石	L-42	12	V層	10.2	9.1	5.5	728.0	安山岩	図版29	
図IV-24	78	すり石	M-42	41	V層	14.3	8.6	4.1	680.0	安山岩	図版29	
図IV-24	79	すり石	M-44	22	V層	13.1	10.1	6.3	1100.0	安山岩	図版29	
図IV-25	80	すり石	N-45	24	V層	10.4	16.2	6.2	1150.0	安山岩	図版30	
図IV-25	81	すり石	N-46	134	V層	7.7	15.8	6.4	980.0	安山岩	図版30	
図IV-25	82	すり石	K-46	14	V層	7.2	14.5	6.2	1025.0	安山岩	図版30	
図IV-25	83	すり石	O-45	6	V層	8.5	15.0	6.0	940.0	安山岩	図版30	
図IV-25	84	すり石	K-46	17	V層	8.9	17.4	6.9	1095.0	安山岩	図版30	
図IV-26	85	すり石	O-45	143	V層	10.5	15.5	6.4	1075.0	安山岩	図版30	
図IV-26	86	すり石	N-46	21	V層	8.8	15.3	5.7	770.0	安山岩	図版30	
図IV-26	87	すり石	M-47	22	V層	8.1	15.9	6.5	1050.0	安山岩	図版30	
図IV-26	88	すり石	K-40	6	V層	8.7	14.4	3.0	582.0	安山岩	図版30	
図IV-26	89	すり石	N-46	50	Vd層	9.7	16.2	7.0	1100.0	安山岩	図版30	
図IV-26	90	すり石	N-45	30	V層	8.3	13.9	4.9	642.0	安山岩	図版30	
図IV-26	91	すり石	N-46	73	Vd層	9.0	14.4	7.0	954.0	安山岩	図版30	
図IV-26	92	すり石	O-45	2	V層	9.1	12.4	6.8	950.0	安山岩	図版30	
図IV-26	93	すり石	N-46	102	V層	8.5	14.5	7.7	1100.0	安山岩	図版30	
図IV-26	94	すり石	O-45	75-138	Vd層	6.0	10.4	4.2	262.1	安山岩	図版30	2点接合
図IV-26	95	すり石	N-46	131	V層	5.5	10.2	4.5	276.0	安山岩	図版30	
図IV-26	96	すり石	N-46	125	V層	6.6	11.4	4.7	430.0	安山岩	図版30	
図IV-27	97	扁平打製石器	N-46	104	V層	9.1	15.8	2.1	284.0	安山岩	図版31	2点接合O45-96
図IV-27	98	扁平打製石器	N-46	81	V層	8.8	12.7	1.9	278.1	安山岩	図版31	
図IV-27	99	扁平打製石器	N-43	19	Vc層	8.9	13.9	3.6	516.0	安山岩	図版31	
図IV-27	100	扁平打製石器	N-43	39	V層	8.0	14.1	2.3	305.0	安山岩	図版31	
図IV-27	101	扁平打製石器	M-47	20	V層	10.2	14.5	4.0	778.0	安山岩	図版31	
図IV-27	102	扁平打製石器	L-40	24	V層	9.8	13.0	3.8	556.0	安山岩	図版31	
図IV-27	103	扁平打製石器	M-41	64	V層	9.7	16.0	3.7	724.0	安山岩	図版31	
図IV-27	104	扁平打製石器	L-40	25	V層	8.8	15.1	3.5	702.0	安山岩	図版31	
図IV-28	105	扁平打製石器	J-41	10	V層	9.7	14.5	2.8	432.0	安山岩	図版31	
図IV-28	106	扁平打製石器	J-41	12	V層	11.3	17.1	2.8	602.0	安山岩	図版31	
図IV-28	107	扁平打製石器	K-41	35	V層	7.7	13.9	4.0	632.0	安山岩	図版31	
図IV-28	108	扁平打製石器	K-41	36	V層	9.6	16.3	3.6	720.0	安山岩	図版31	
図IV-28	109	扁平打製石器	K-41	37	V層	11.0	14.9	2.5	532.0	安山岩	図版31	
図IV-28	110	扁平打製石器	L-40	18	V層	7.4	16.5	3.4	490.0	安山岩	図版31	
図IV-28	111	扁平打製石器	L-40	21	V層	9.6	18.6	3.7	802.0	安山岩	図版31	
図IV-28	112	扁平打製石器	O-45	132	V層	7.5	18.4	3.9	722.0	安山岩	図版31	
図IV-29	113	北海道式石冠	M-41	60	V層	7.5	(10.3)	5.8	(526.0)	安山岩	図版32	
図IV-29	114	北海道式石冠	L-47	28	V層	10.1	11.2	6.1	848.0	砂岩	図版32	
図IV-29	115	北海道式石冠	L-44	11	V層	10.2	(12.9)	7.7	(1080.0)	砂岩	図版32	
図IV-29	116	北海道式石冠	K-41	34	V層	10.2	(11.9)	8.1	(1190.0)	安山岩	図版32	
図IV-29	117	北海道式石冠	K-41	28	V層	9.3	(10.0)	(5.9)	(744.0)	安山岩	図版32	
図IV-29	118	北海道式石冠	O-44	54	V層	8.9	13.0	5.1	754.0	安山岩	図版32	
図IV-29	119	北海道式石冠	K-45	19	V層	10.3	12.4	6.0	1040.0	安山岩	図版32	
図IV-29	120	北海道式石冠	L-45	14	V層	11.4	(13.1)	6.5	(1290.0)	安山岩	図版32	
図IV-30	121	北海道式石冠	K-46	12	V層	(11.9)	(13.3)	7.3	(1395.0)	安山岩	図版32	
図IV-30	122	北海道式石冠	M-44	5	V層	11.4	12.5	7.2	1380.0	砂岩	図版32	
図IV-30	123	北海道式石冠	L-44	42	V層	13.2	16.6	8.6	2400.0	安山岩	図版32	
図IV-30	124	北海道式石冠	N-46	103	V層	11.6	(13.8)	8.7	(1505.0)	安山岩	図版32	
図IV-30	125	北海道式石冠	N-43	50	V層	13.0	17.7	7.8	2440.0	安山岩	図版32	
図IV-31	126	石鏝	J-42	14	V層	(10.1)	(13.9)	(3.0)	(417.0)	安山岩	図版33	
図IV-31	127	石鏝	O-L-43	8	V層	(11.8)	(9.5)	(2.7)	(278.0)	安山岩	図版33	2点接合O43-14 L43-8
図IV-31	128	石鏝	N-46	52	V層	(5.6)	(7.3)	(0.7)	(55.8)	安山岩	図版33	
図IV-31	128	砥石	L-43	21	V層	27.3	27.0	7.8	9000.0	安山岩	図版33	
図IV-31	130	砥石	L-42	42	V層	31.9	22.0	6.7	6200.0	安山岩	図版33	
図IV-31	131	砥石	N-44	34	Vd層	24.7	31.7	5.7	(4250.0)	安山岩	図版33	4点接合N45 55.043 6.044 52

# 自然科学的分析

## 森川4遺跡から出土した種実遺体について

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

森川4遺跡は北海道茅部郡森町に所在する。森川の右岸河畔に位置し、縄文時代前期から晩期の土坑、石組炉、焼土などの遺構や土器や石器などの遺物が検出されている。

今回の分析調査では、両遺跡の各遺構から採取された種実の同定を行い、当時の植物利用に関する情報を得る。

### 1 試料

試料は、焼土や石組炉などから採取された種実遺体4点約70粒(森41689)が、試料番号別の袋に入っている。試料の詳細は結果と併せて記す。

### 2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出した。種実の形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか2000)等と比較して種類を同定し、個数を求めた。分析後の植物遺体等は、種類毎にビンに詰め、乾燥剤を入れ保存する。

### 3 結果

種実遺体同定の結果、木本4種類(コナラ属、クリ、ブドウ属、ブドウ科)の種実と、種類不明の堅果類(クリの破片と思われる)や種実が同定された(表2)。種実は全試料が炭化しており、遺存状態は悪い。種実の他に、木の芽や5mm角以下の炭化材や、不明炭化物(種類、部位の特定が困難な炭化物を示す)などが検出された。以下に、同定された種実の形態的特徴を、木本、不明種実の順に記す。

#### 木本

#### ・コナラ属(*Quercus*) ブナ科

果実基部の着点部分が検出された。炭化しており黒色を呈す。完形ならば楕円体。着点部分は円形で維管束の穴が輪状に並ぶ。

#### ・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

子葉の破片が検出された。炭化しており黒色を呈す。完形ならば三角状広卵形、一側面は偏平で対面はわずかに丸みがある。破片の大きさ10mm程度。子葉は硬く緻密で、表面には内果皮(渋皮)の圧痕の縦筋が走る。また、2枚からなる子葉の合わせ目の線に沿って半分に割れている個体が見られる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上には僅かに窪み、頂部には小さな孔(主根)がある。

#### ・ブドウ属(*Vitis*) ブドウ科

種子が検出された。炭化しており黒色を呈す。広倒卵形、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。長さ3.5mm、径3mm程度。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は櫛状で薄く硬い。なお、同定の根拠となる背面が欠損した破損個体を、ブドウ科(*Vitaceae*)にとどめた。

## 不明種実

森48森49から、不明種実の破片が検出された。完形ならば半長楕円形か。やや偏平で半分に分かれている。破片の大きさ3mm程度。皮は薄く硬く、表面には微細な網目模様が縦列する。両試料は、キハダ (*PheIbdendron amn rense* Ruprechtミカン科キハダ属)の核の可能性がある。

表 - 1 森川4遺跡出土種実遺体同定結果

試料番号	遺構	層位	採取範囲	同定資料	備考	分類群	木本			不明堅果類	不明種実	不明炭化物	木の芽	炭化材
							コナラ属	クリ	ブドウ属					
							部	子	種					
							炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	
森4-1	MF-1			27		1	-	2	1	2	-	19	2	-
森4-6	MS-1			38	石組炉	-	7	-	-	22	-	7	-	2
森4-8	MS-2			1	石組炉	-	-	-	-	1	-	-	-	-
森4-9	(K-44)	V	土器内	1		-	-	-	-	1	-	-	-	-

## 4 考察

森川4遺跡の各遺構からは、落葉広葉樹のコナラ属、クリ、ブドウ属が検出された。二次林要素のコナラ属、クリや、つる性木本のブドウ属は、伐採地や崩壊地などに先駆的に侵入する樹木で、現在の本遺跡周辺の森林にも普通にみられる種類である(宮脇 1987)。これらの樹木は、当時本遺跡周辺に存在した森林のエッジ(縁)環境などに生育していたものに由来すると思われる。

堅果類のコナラ属、クリは、コナラ属は一部を除きあく抜きを必要とするが、食用・長期間の保存が可能で収量が多いことから、当時の本遺跡周辺の森林から持ち込まれ、植物質食糧として利用されていたことが推定される。ブドウ属は果実が多汁で生食が可能である。これらの有用植物が、各遺構から検出された状況を考慮すると、遺跡近辺から持ち込まれ、利用されていたことが推定される。また、炭化していることから、火熱を受けたものと思われる。

北海道の縄文時代遺跡から出土した種実では、クリは前期以降から報告されている。コナラ属はミズナラやコナラ、カシワが報告されている。その他に、早期から晩期にわたってオニグルミの報告事例が多く、トチノキ、ハシバミ、ヒシ、キハダ、ブドウ属、マタバヒ属、ミズキ属なども報告されている。本遺跡周辺では、八雲町の前期のコタン温泉遺跡、後期の浜松2遺跡、浜松5遺跡からクリが報告されており、特に後期の浜松2遺跡、浜松5遺跡からは多量検出されている(山田・柴内 1997埋蔵文化財研究会 2001)。当社がこれまで実施した道内の遺跡の種実分析では、縄文時代からはオニグルミが検出されることが多く、道南ではクリが得られている(バリノ・サーヴェイ株式会社 未公表資料)。

## 引用文献

青葉 高 1991野菜の日本史 八坂書房 317p

埋蔵文化財研究会 2001埋蔵文化財データベース 第5回埋蔵文化財研究会 環境と人間社会 - 適応、開発から共生へ - 発表要旨集

宮脇 昭編 1987日本植生史 北海道 至文堂 563p

山田 悟郎・柴内 佐知子 1997北海道の縄文時代遺跡から出土した堅果類・クリについて - 北海道 開拓記念館研究紀要 28 17 30

吉崎 昌一 1992古代雑穀の検出 考古学ジャーナル 355 2 14

## 付 フローテーションによる微細遺物の採取

## 試料

遺構の覆土、焼土、石組炉や包含層出土土器内部の土壌9サンプル、重量約55kg 体積約82ℓを採取した。採取位置は、焼土(「森4-1-4」)、遺構覆土中の焼土(「森4-5」)、石組炉(「森4-6-8」)、包含層出土土器内部の土壌(「森4-9」)である。

## 作業と経過

現地にて土壌乾燥を行った後、重量・堆積を計測し、フローテーションマシンを用いて残渣・浮遊物を回収した。発掘調査終了後、室内にて、土器・フレイクなどの微細な人口遺物や炭化物・骨片などの微細な自然遺物の分別回収を肉眼および顕微鏡下で行った。

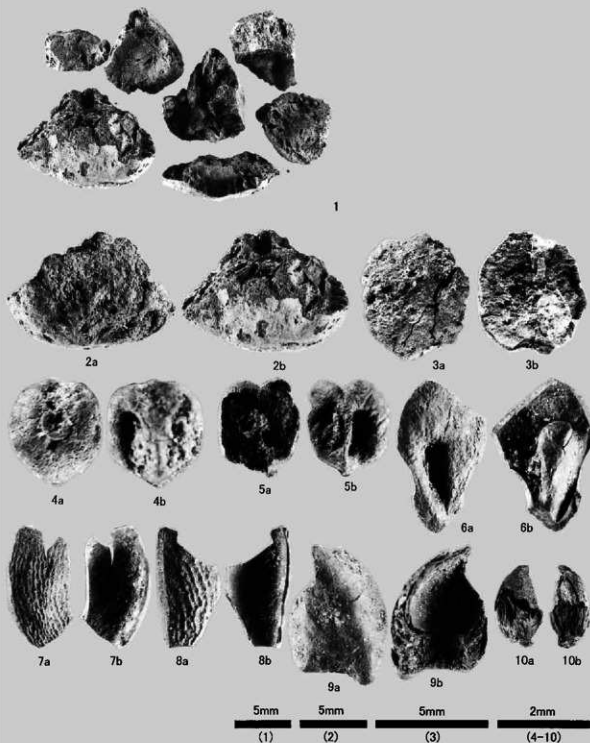
## 結果

土器の薄片、炭化物が回収できた。土器はMF-1とMS-1から多く検出した。炭化物は全サンプルから回収された。そのうち炭化種子の可能性のあるものは4サンプルから検出された。焼土MF-1(森4-1)、石組炉MS-1(森4-6)、MS-2(森4-8)、包含層出土土器内(森4-9)である。(阿部・村田)

表 - 2 フローテーション結果一覧

試料番号	森4-1	森4-2	森4-3	森4-4	森4-5	森4-6	森4-7	森4-8	森4-9	合計
遺構・発掘区	MF-1	MF-2	MF-3	MF-4	MP-2	MS-1	MS-1	MS-2	(K-44)	
層位					焼土		焼土		V	
採取範囲							炉内		土器内	
乾燥重量 (g)	24430	3830	1620	1400	5700	10550	2830	3580	1100	55040
体積 (ℓ)	42.6	5.5	2.0	2.3	7.1	12.7	3.5	4.9	1.2	81.8
残渣重量 (g)	331.7	27.8	77.7	140.4	465.0	516.8	166.1	163.6	7.9	1897.0
浮遊物 (g)	66.2	1.5	0.3	0.1	8.3	11.8	8.0	0.5	0.3	97.0
土器 (g)	30.8	6.4		0.8	0.3	3.6	0.8	9.7	1.9	54.3
フレイク (g)										
骨片 (g)	0.0			0.0	0.0	0.2	0.0			0.2
炭化物 (g)	51.65	0.15	0.08	0.81	0.86	5.65	8.62	0.34	0.04	68.20
種子 (粒)	27					38		1	1	67
主な植物遺存体	コナラ属 ブドウ属					クリ 不明堅果		不明種実	不明種実	
備考										

図版1 森川4遺跡出土種実遺体



1. クリ子葉(森4-6)
3. コナラ属 果実(森4-1)
5. ブドウ属 種子(森4-1)
7. 不明種実(森4-8)
9. 木の芽(森4-1)

2. クリ子葉(森4-6)
4. ブドウ属 種子(森4-1)
6. ブドウ科 種子(森4-1)
8. 不明種実(森4-9)
10. 木の芽(森4-1)



# 成果と課題

## 1 遺跡について

### 遺構について

検出した遺構は、すべて縄文時代のもので、土壇 8 基、柱穴状小ピット 2 基、石組炉 2 カ所、焼土 5 カ所である。土壇のうち MP - 1 以外は台地上または台地の縁辺部に位置している。これらは隣接する森川 3 遺跡の遺構群と一連のものと考えられる。

石組炉と柱穴状小ピットは、調査区北側の低地部、b 層中から近接して検出された。焼土の MF - 5 を含め、それぞれ関連した遺構と考えられる。MS - 1 には、縄文時代後期前葉のトリサキ式土器が 1 個体残されていた。

焼土は、前期から晩期の各時期に属するものが検出された。MF - 2 からは群 a 類土器にともなう、被熱した「石冠様石器」が出土している。

### 遺物について

遺物は、24160 点出土した。そのうち土器・土製品は 21418 点である。縄文時代前期から晩期のものがあり、最も多いのは、群 a 類の 7479 点、次いで群 b - 1 類の 5988 点、群 b - 4 類の 3620 点である。分布は、群 b - 1 類は低地部の北側に多く、森川 3 遺跡の平成 14 年度調査区で、この時期の土壇群が調査されている。群 b - 4 類は低地部の東側に多く、台地上の平成 16 年度の調査では、この時期の大形の竪穴住居跡が 3 軒調査されている。また、おおまかに時期が新しくなるに従って、分布が西側に広がる傾向がある。このことは河道の変遷に伴い、川沿いで活動の場が移動したためと考えられる。

石器は、2742 点出土した。剥片類を除いた 472 点の中で、すり石が 117 点と最も多く、水際で植物質食料の粉碎・製粉などをおこなっていたことが推察される。

### 土層について

主な遺物包含層である層は、河川の影響による二次堆積物や斜面の崩落土や流入土により、細分できる部分がある。おおまかに a 層、b 上層、b 下層、c 層、d 層の 5 つに分けることができた。d 層からは群 a 類・群 b - 1 類土器が出土し、焼土が 1 カ所検出された。崩落土をばさんで c 層からは、群 b - 4 類土器が主に出土する。また、崩落土中からも群 b - 4 類土器が多く出土することから、この崩落土は台地上で見つかった大形の竪穴住居跡と関連する可能性がある。

b 下層からは群の土器が主に出土する。b 上層からは焼土、群 a 類土器が残された石組炉、柱穴状の小ピットが検出されている。砂層をばさみ a 層・砂層からは群 c 類土器が多くみられるようになる。

これら、遺物の分布、川原石の堆積状況、層位ごとの土器の出土傾向などを模式的にあらわしたものが図 - 1 である。左側は包含層出土の土器分布図で、出土数の多い上位 5 つの調査区と川原石の堆積範囲を網掛けで示した。右側は主な出土層位と土壇の堆積に伴い、河川が現在の森川方向へ移動した様子を表している。

遺物量の多寡はあるが、各時期に水際での活動の痕跡が見られる。また、台地上の森川 3 遺跡で遺物が多く出土する時期は、その下方にあたる森川 4 遺跡でもその時期の遺物の出土数が増えることから、両遺跡の強い関連が窺える。

(村田)

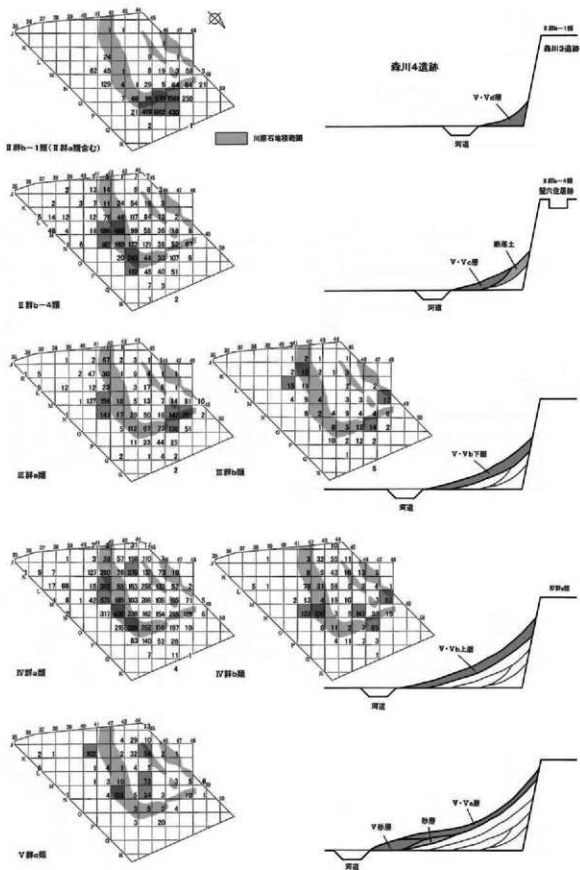


図 - 1 遺物の分布と土層

## 2. 縄文時代前期の土器について

森川4遺跡からは、縄文時代前期円筒土器下層a式およびd式が多く出土した。そのうち後者は典型的なものが多いが、前者は其中でも古い段階、あるいはさらに前段階に属すると考えられるものが多い。ここでは、円筒土器下層a式とその直前段階に相当する土器について触れたい。

### 1) 森川4遺跡における該期の土器の特徴

群a類および群b-1類に分類した土器の主な特徴は以下のとおりであった。

器形：いわゆるバケツ形、円筒形は少なく、口縁がやや反し胴部がわずかにふくらみ底部がややすばまるものが多い。尖底あるいはそれに近い底部が6個体含まれている。口縁は4単位のきわめて緩やかな波状口縁が多い。胴部から口唇部に向かって器壁がやや薄くなり、口唇部は丸みを帯びる。また口縁下に明瞭な隆帯がみられるものはない。

文様：地文は単節縄文はわずかで、複節の斜行縄文が多量にある。燃糸文や糸痕文、竹管状施文具による刺突がわずかにみられる。それ以外の文様はない。

胎土：章にも記載したが、A. 繊維を多量に含み砂粒をあまり多く含まず明黄褐色を呈するものと、B. 繊維を含み砂粒を多量含み暗赤褐色を呈するもの、とがある。尖底のものを含め古い段階の要素がみられるものはAが多い。

### 2) 該期土器の例

#### 春日町式との比較

函館市春日町遺跡出土土器により設定された同型式は、平縁・尖底を基本とし、胎土に繊維を含み厚手でもろい。地文は結束羽状縄文がみられるが、多くは斜行縄文である。特徴は竹管状施文具による押し文が口縁部や底部に施されることである。森川4遺跡ではこれらの土器に直接相当するものはないが、尖底である点(M1・4・5)や竹管状施文具による文様がみられる(M15)点が類似する。

松前町白坂遺跡第3地点では春日町式が出土している。竹管状施文具による押し文が施文されているものが特徴的で、尖底(S1・2)、極小の平底(S3)、平底(S4)がある。森川4遺跡の資料には押し文が施されるものはないが、底部の器形はそれぞれ類似するものがある(S1-M1 S2-M4 S3-M6)。

松前町大津遺跡第2群は「春日町遺跡、早稲田貝塚のものと同対できるもの」、第3群は「円筒下層式の直前くらいに位置されるもの」である。第2群は基本的に尖底であるが、O切のような平底の土器もある。第3群について、口縁部が薄く燃糸文が施されるもの(O2)、地文の斜行縄文に「へら状のものでおしつけた感じの文様がつけられている」もの(O3)、複節縄文が施文された上げ底(O4)を例示した。森川4遺跡のM7・M8および章で示した底部に類似するものが多い。また未掲載の土器破片にもこれらの土器に類似するものが多く含まれている。この第3群の一部(Oなど)が江差町般川遺跡出土のものと類似することから、これらの一部の土器は「円筒土器下層式のはじめの方に入るのではないかと考え」られている。

#### 深郷田式との比較

円筒土器下層a式の直前に位置づけられ、円筒土器の出現をたどる上で重要であるが、出土資料はあまり多くないようである。胎土に繊維を多く含み、口縁が少し反し、平縁で平底の深鉢が基本である。文様は単節縄文・複節縄文・燃糸文を地文とし、特に付加条の縄文が施されることが特徴である。また内面に貝殻糸痕が施されることも大きな特徴である。森川4遺跡の土器は、口縁部の形状などこれらの土器と器形が類似するものが多い。しかし付加条の縄文が施されたものは見られず、内面に糸痕が一部調整痕のように残存するものがわずかにあるだけで、内外面ともに糸痕があるものはM2のみである。

### 白座式との比較

青森県階上町白座遺跡では、円筒土器下層 a 式と大木 2 式の両方の影響を強く受けた土器として「白座式」が提唱された。器形は円筒形のみならず深鉢形が多く、胴部が膨らむものがあることが大きな特徴である。口縁部に篋瓦状襷糸文が集約されて施されるものが多く口唇上に刻みが見られるなど、円筒土器成立期の様相がよく現れているようである。中には不整襷糸文が胴部にまで施文されるなど、大木 2 式の影響を強く受けたものがある。森川 4 遺跡の土器には、胴部がわずかに膨らむものはあるが、直接的に影響を受けたものはないと思われる。

### 円筒土器下層 a 式との比較

そもそも、山内清男により設定された円筒土器下層 a 式の文様の特徴の概略は、次のようであった。口縁部の文様帯には不整襷糸文（結節回転文）が施されることが多く、頸部隆帯は少数例認められ、その場合は 1 条である。口唇に点列が施される。体部は斜行縄文が多いが、組紐回転文や無文の例もある。森川 4 の土器には、不整襷糸文が施されるものは少数有り、頸部隆帯が明瞭なものはない。しかし複節の斜行縄文が施され、尖底の土器群とはやや異なる胎土（上記 B）であるものは多く、器形が円筒形を示すものが少数ある。円筒土器下層 a 式そのものに相当するものが、少なからず含まれているとみられる。

### 函館市（旧南茅部町）八木 A 遺跡の例

縄文尖底土器群から円筒土器下層式への移行期の土器が、盛土遺構を主体に多量出土している。数点例示した。Y1・Y2は深郷田式で、付加条の縄文（Y1）や内外面の貝殻条痕文（Y2）など典型的な文様が見られる。これらの要素は円筒土器下層 a 式直前（Y3）や円筒土器下層 a 式（Y6）にもつながるものである。Y3は胴部がわずかに膨らみ底部がすぼまり弱い上げ底になっており、外面に条痕や不整襷糸文がなく、円筒土器下層 a 式直前に比定されている。そして不整襷糸文が口縁部付近に集約される Y5や頸部隆帯の発達した Y6の円筒土器下層 a 式を例示した。そうした中に、Y4のような胴部が膨らみ文様が口縁部に集約される、典型的な白座式が数多く出土している。

深郷田式や白座式など東北北部と密接に関係する土器や、噴火湾沿岸から影響を受けた土器がみられ、「円筒土器の成立を窺うには十分といえるだけの資料が出土して」いる。森川 4 遺跡ではこのように明確な特徴をもつものは少なく、むしろ円筒下層 a 式の範疇に収まるような土器群が多いように見受けられる。

### 3) 森川 4 遺跡出土の該期土器の位置づけ

円筒土器下層 a 式およびその直前の土器について、明確な型式細分をすることが困難なため便宜上尖底のものを主体に 群 a 類、それ以外を 群 b - 1 類に区分して記述してきた。それらの土器群について、以上の各遺跡資料などから森川 4 遺跡の土器をふり返ると、次のように捉えられる。

春日町式に相当するものが少数存在する（尖底の一部、竹管状施工具を用いた土器の一部）

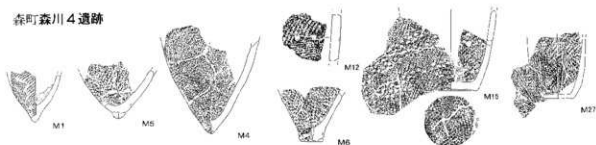
円筒下層式の直前段階に相当するものが大部分を占める

円筒土器下層 a 式に属するものが少なからず含まれる（章図 63Qほか、破片多数）

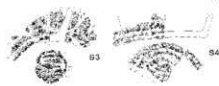
尖底土器群から円筒土器の成立期について、渡島半島南東部と南西部での変遷過程に深郷田式や春日町式の影響の度合いで若干の差が認められる。渡島半島中部にあたる森川 4 遺跡においては、深郷田式や白座式の影響は少なく、例示した中では大津遺跡第 2 群の一部と第 3 群の大部分が類似している。今回例示しなかったが、函館市（旧戸井町）高屋敷川 遺跡から森川 4 遺跡出土土器に非常に類似した土器が多数出土している。噴火湾沿岸地域の該期の影響も含め、さらに検討を加えていく必要がある。

（阿部）

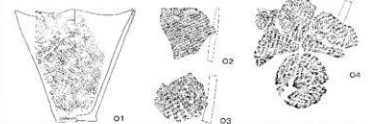
森町森川4遺跡



松前町白板遺跡第3地点



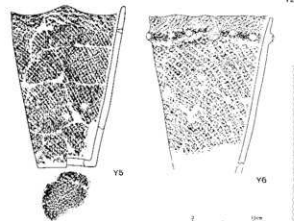
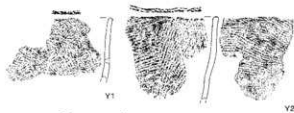
松前町大津遺跡(第2群・第3群)



青森県中里村深郷田遺跡



函館市(旧南茅部町)八木A遺跡



青森県階上町白座遺跡



図 - 2 円筒土器下層 a 式およびその直前の土器

引用・参考文献

(1) 論文・報文等

- 鈴木克彦 1999「北海道渡島・桧山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学』第3輯  
吉崎昌一ほか 1979『聖山 北海道亀田郡七飯町における縄文時代遺跡の調査』  
北海道大学教養部人類学研究室 報告 1

(2) 単行本・資料集等

- 森町 1980『森町史』  
村越 潔 1984『増補 円筒土器文化』雄山閣考古学選書10  
北海道考古学情報交換会 1995『円筒土器下層式図録集』  
鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣  
海峽土器編年研究会 2003『東北・北海道の十腰内 式再検討』

(3) 発掘調査報告書

- 松前町教育委員会 1974『松前町大津遺跡発掘報告書』  
松前町教育委員会 1983『白坂』  
知内町教育委員会 1972『涌元遺跡』  
函館市教育委員会 1979『見晴町B遺跡発掘調査報告書』  
函館市教育委員会 1981『権現台場遺跡発掘調査報告書』  
南茅部町教育委員会 1988『白尻B遺跡 vol.1』  
南茅部町埋蔵文化財調査団 1993『八木A遺跡 八マナス野遺跡』  
南茅部町埋蔵文化財調査団 1997『八木A遺跡 八木C遺跡』  
七飯町教育委員会 1979『峠下聖山遺跡』  
森町教育委員会 1975『鳥崎遺跡』  
八雲町教育委員会 1995『宋浜1遺跡』  
北海道第四紀研究会 1974『西股』  
北海道埋蔵文化財センター 1987『函館市桔梗2遺跡』北埋調報46集  
北海道埋蔵文化財センター 2002『森町本内川右岸遺跡』北埋調報182集  
北海道埋蔵文化財センター 2002『森町濁川左岸遺跡 - B地区 - 』北埋調報190集  
北海道埋蔵文化財センター 2002『森町本茅部1遺跡』北埋調報19集  
北海道埋蔵文化財センター 2003『森町倉知川右岸遺跡』北埋調報196集  
北海道埋蔵文化財センター 2003『森町石倉2遺跡』北埋調報19集  
北海道埋蔵文化財センター 2004『森町濁川左岸遺跡 - A地区 - 』北埋調報208集  
青森県階上町教育委員会 1988『白座遺跡 野場遺跡(3) 発掘調査報告書』

# 写真図版









1 調査状況（北東から）



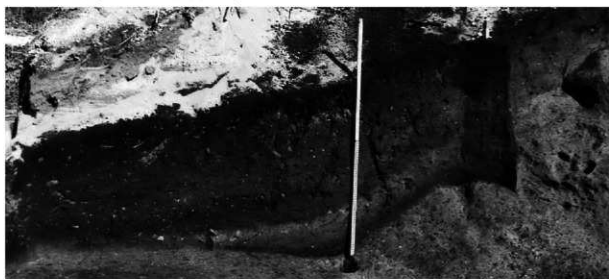
2 調査状況（南から）



1 基本土層 (L - 4区 南東から)



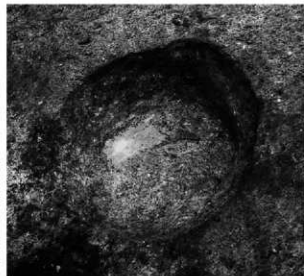
2 基本土層 (I - 4区 南西から)



3 基本土層 (N - 4区 南東から)



1 MP - 1 断面 (北から)



2 MP - 1 完掘 (南から)



3 MP - 2 検出 (東から)



4 MP - 2 断面 (北西から)

図版 4



1 MP - 2 断面 (南から)



2 MP - 2 小礫、焼土検出状況 (北から)



3 MP - 2 小礫出土状況 (北から)



4 MP - 2 完掘 (東から)



5 MP - 3 断面 (西から)



6 MP - 3 完掘 (北西から)



1 MP - 4 断面 (南西から)



2 MP - 4 完掘 (北から)



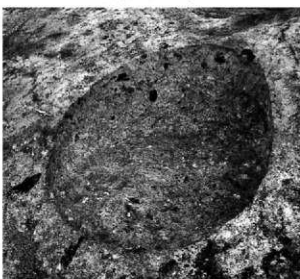
3 MP - 5 断面 (南東から)



4 MP - 5 完掘 (南東から)



5 MP - 6 断面 (南西から)



6 MP - 6 完掘 (西から)



1 MP - 7 断面 (北西から)



2 MP - 7 土器出土状況 (南西から)



3 MP - 7 完掘 (東から)



4 MP - 7 完掘 (北西から)



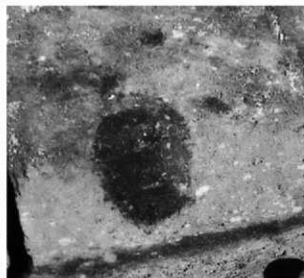
5 MP - 8 断面 (北西から)



6 MP - 8 完掘 (西から)



1 SP - 1 断面 (西から)



2 SP - 2 断面 (西から)



3 MS - 1・2 検出状況 (西から)



4 MS - 1 (西から)



5 MS - 2 (西から)



1 MF - 1 検出状況(西から) 2 MF - 2 断面(西から)

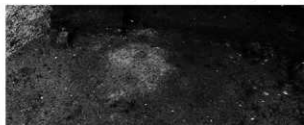


3 MF - 2 断面(西から)

4 MF - 2 出土状況(北から)



5 MF - 3 検出状況(西から)



6 MF - 4 検出状況(西から)



7 MF - 5 検出状況(南西から)





MP - 7 ( 3 )



MS - 1 ( 1 )

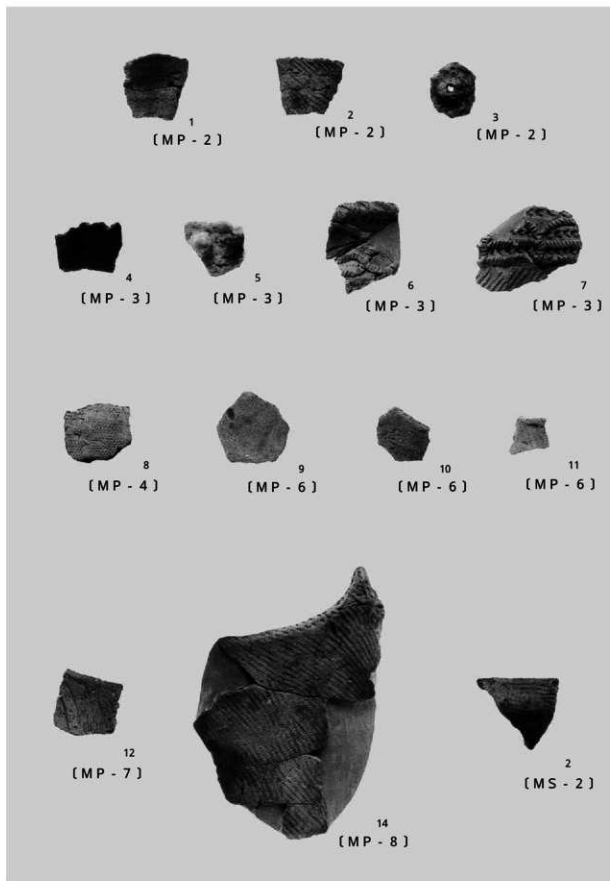


MF - 2 ( 1 )

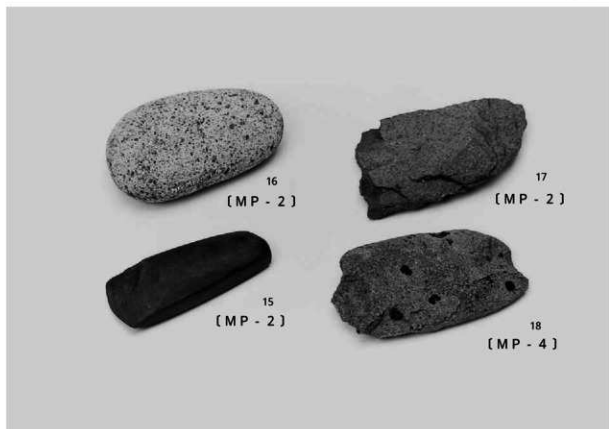


MF - 2 ( 2 )

遺構出土の土器 ( 1 )



遺構出土の土器(2)

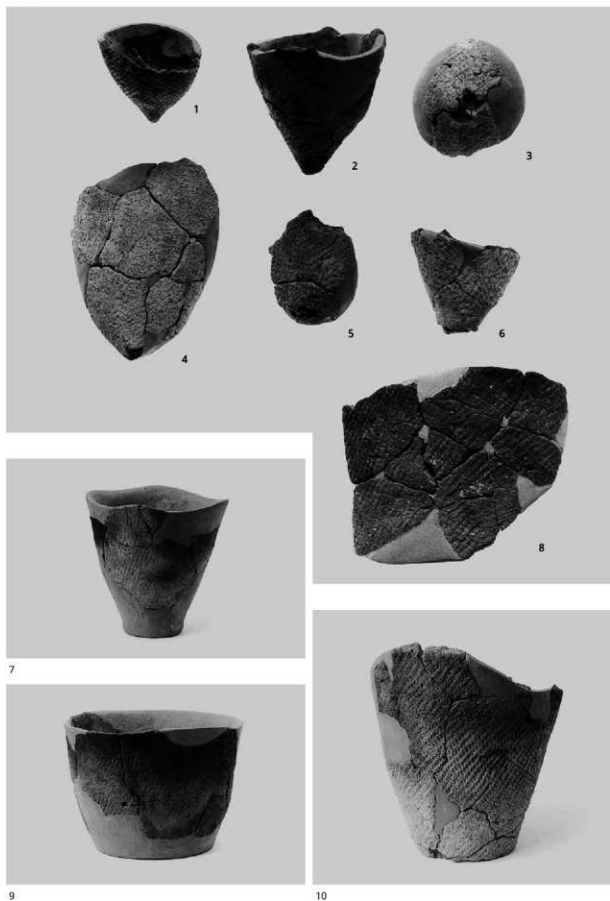


遺構出土の石器

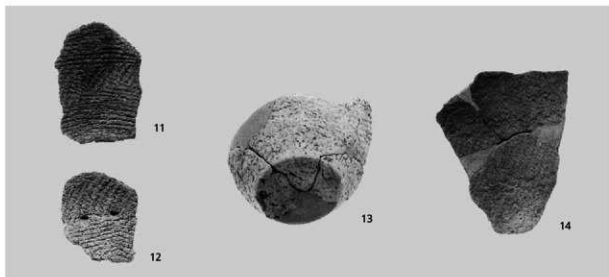


MF - 2 出土の石冠様石器

遺構出土の石器等



群類、群b - 1類(1)



15



17

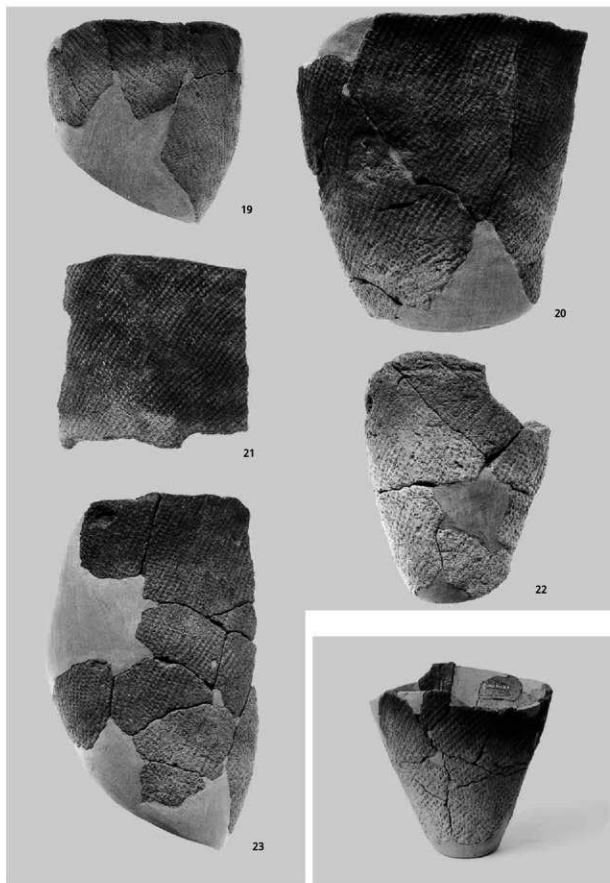


16

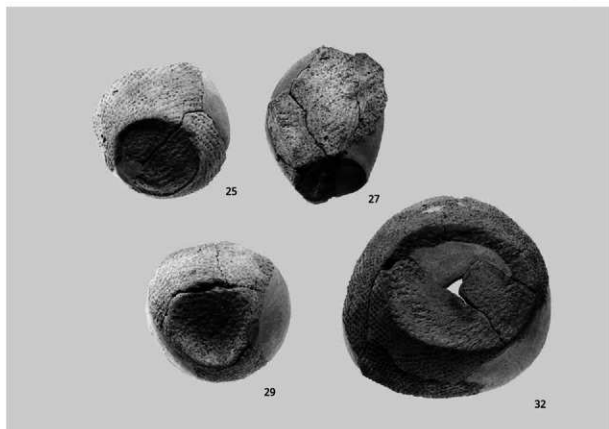


18

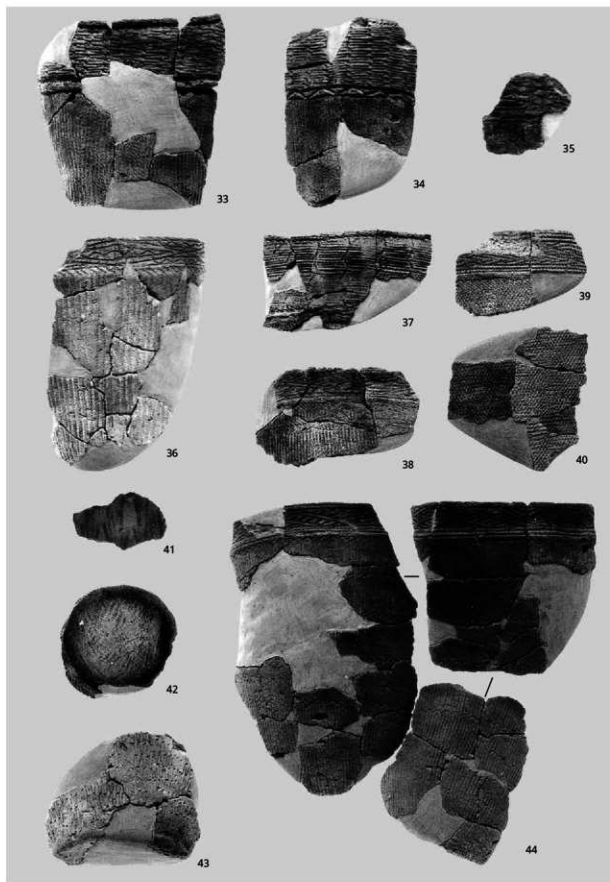
群b - 1類(2)



群b - 1類(3)



群b - 1類(4)



群b - 4類(1)

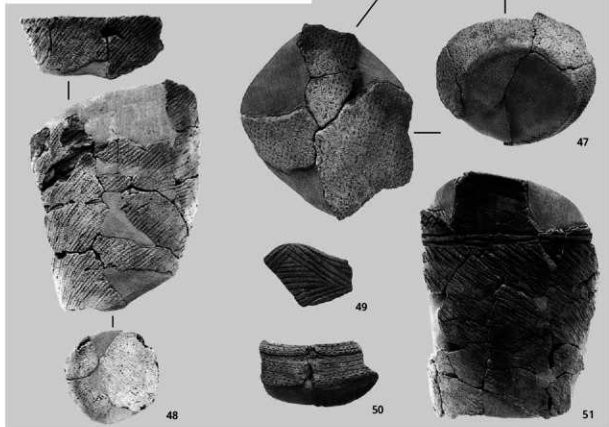




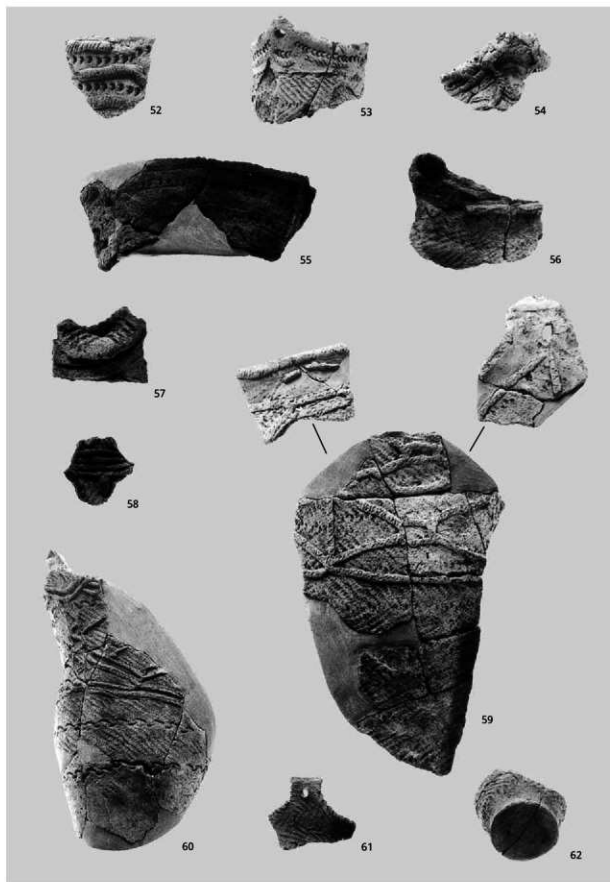
45



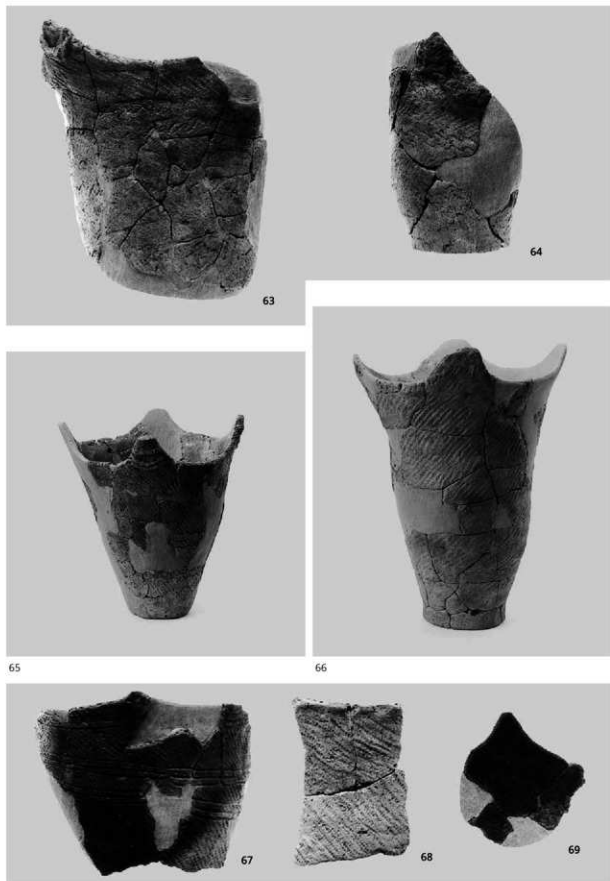
46



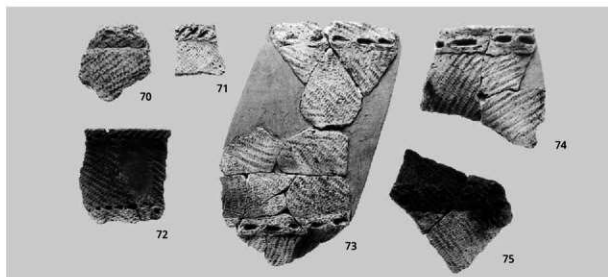
群b - 4類(2)



群 a 類 ( 1 )



群 a 類 ( 2 )



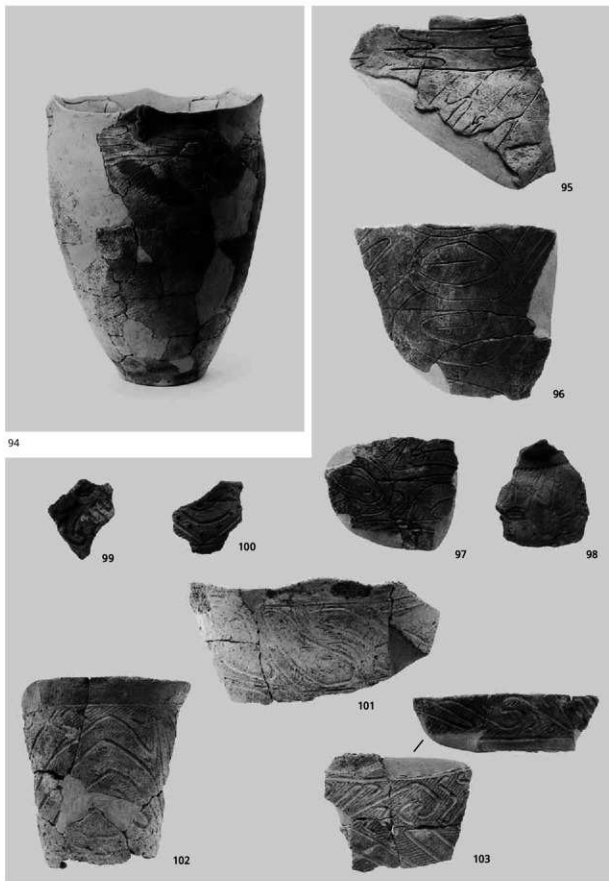
79

80

群b類、群a類(1)



群a類(2)



群 a 類 ( 3 )



105



106



107

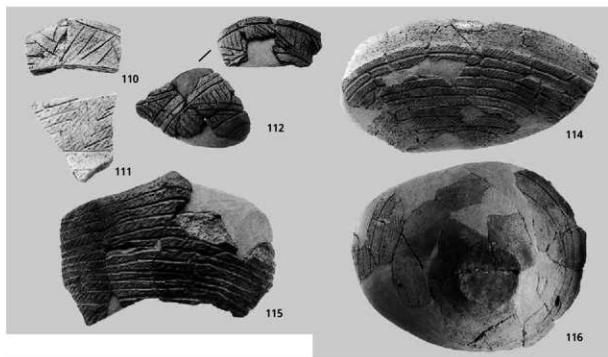


108



109

群 a 類 ( 4 )



113



117



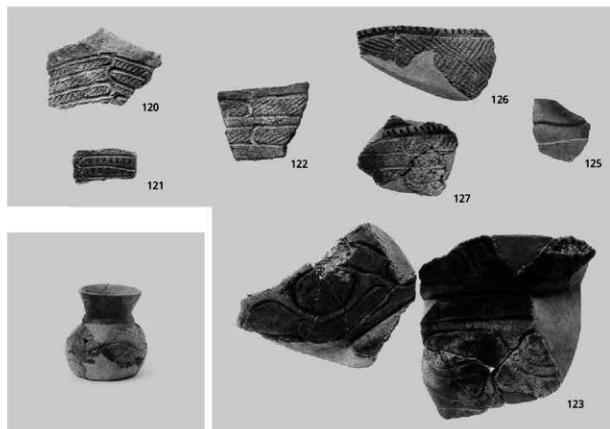
118



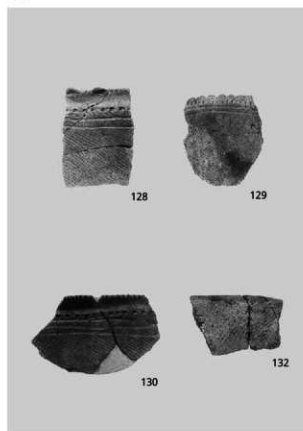
119

群b類(1)





124

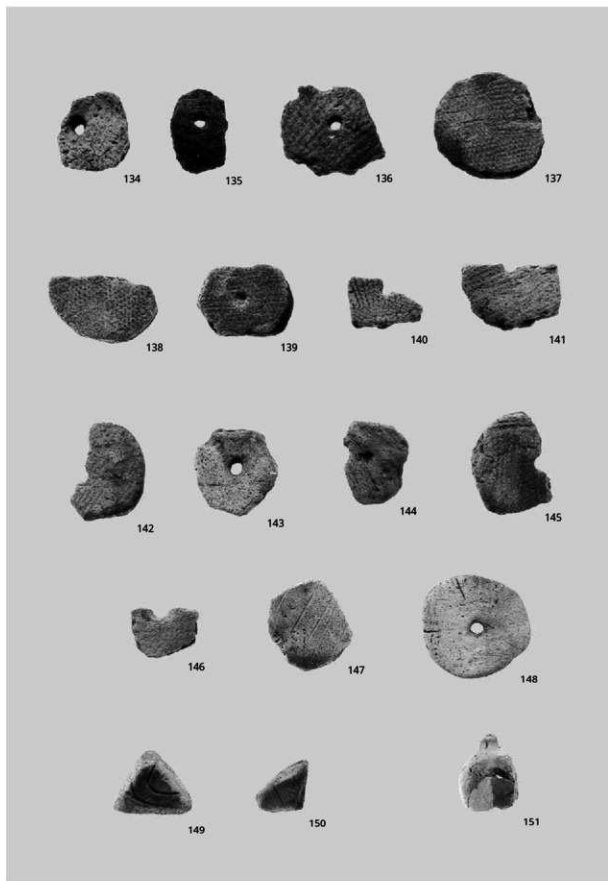


131

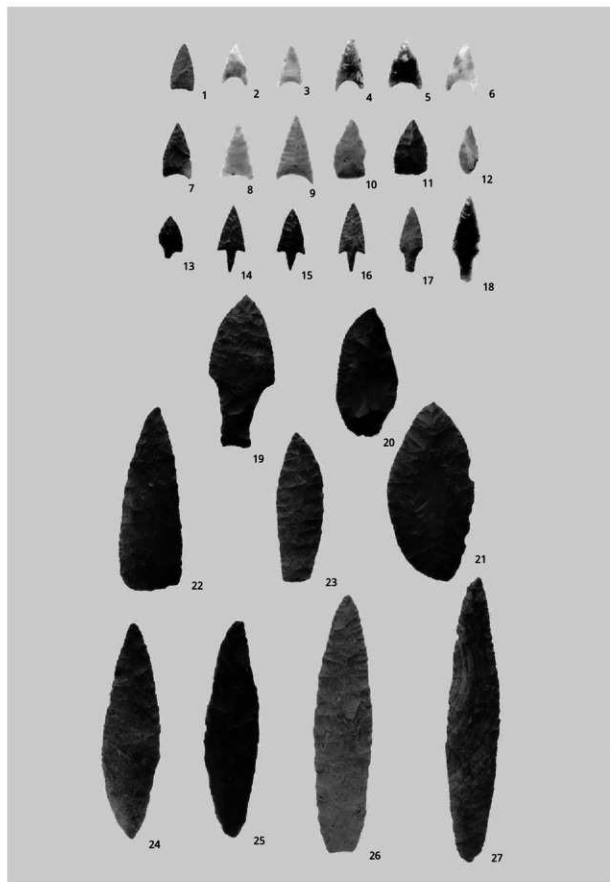


133

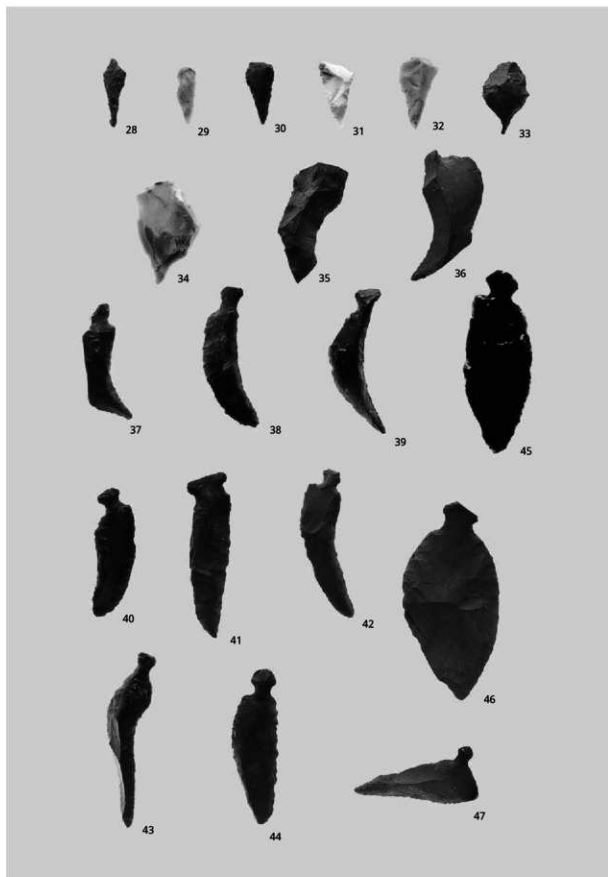
群b類(2) 群



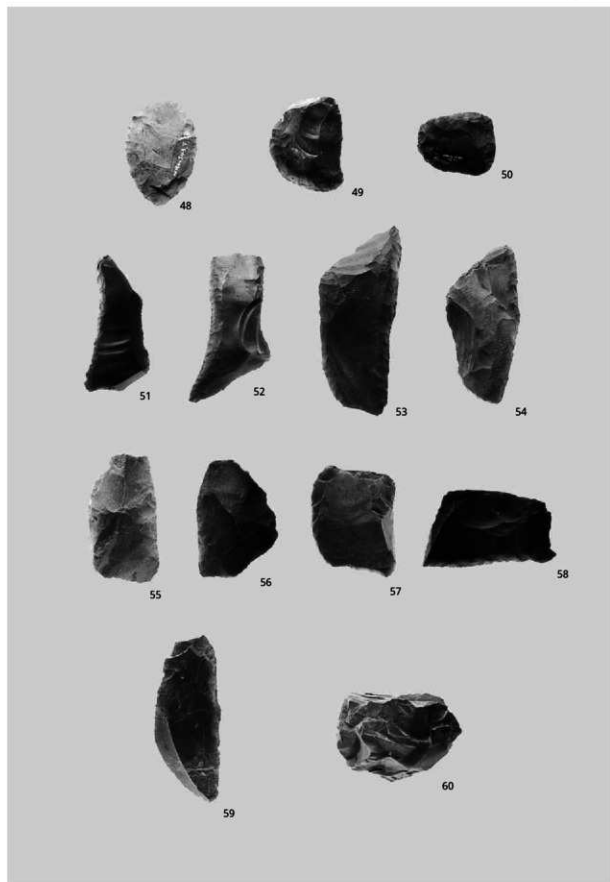
土製品



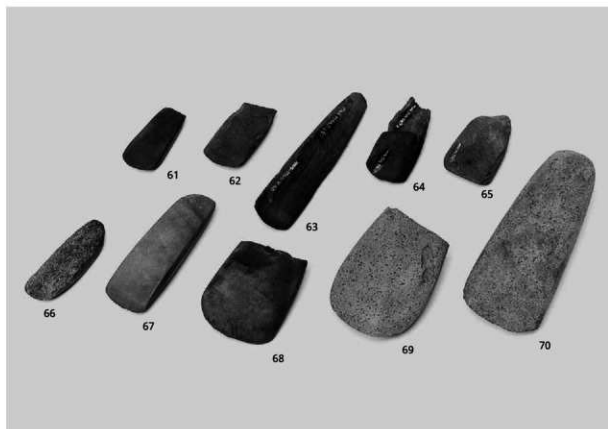
石鏃、ポイント・ナイフ



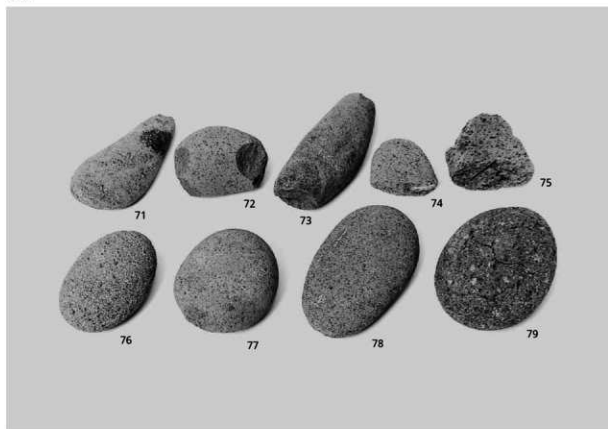
石錐、つまみ付ナイフ



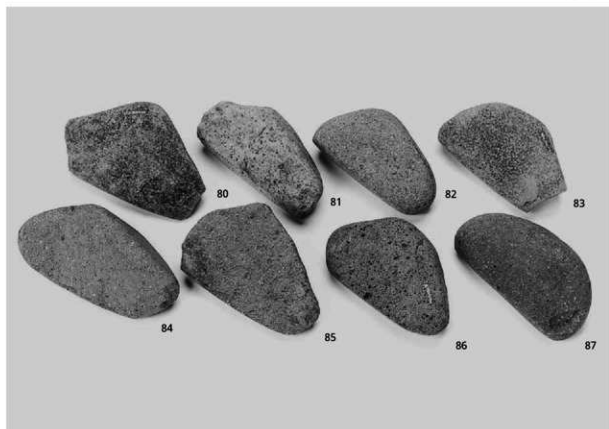
スクレイパー、石核



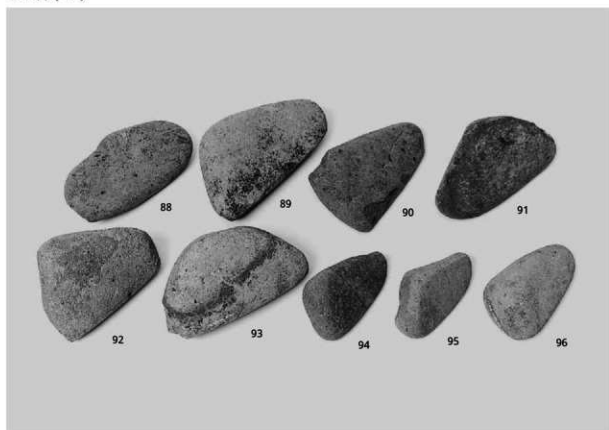
石斧



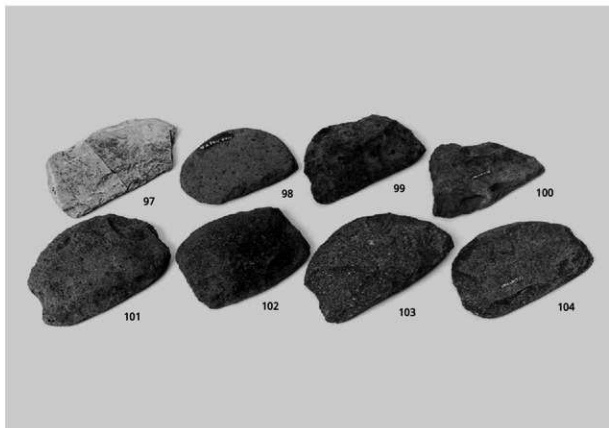
たたき石・すり石(1)



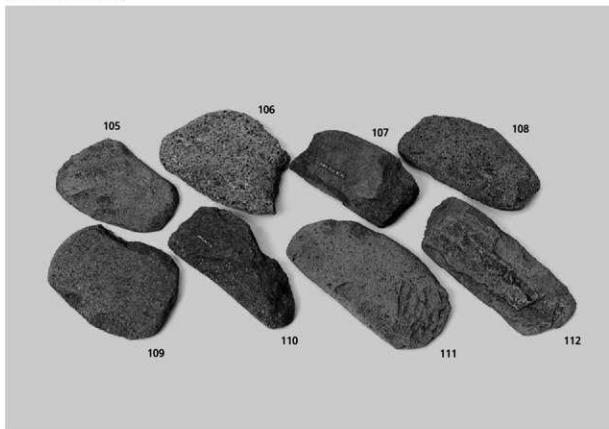
すり石 ( 2 )



すり石 ( 3 )

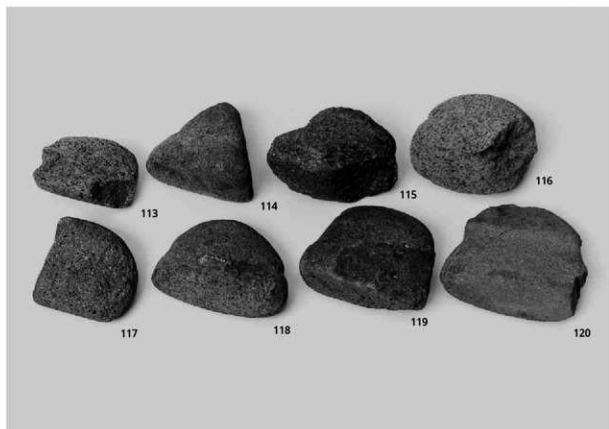


扁平打製石器 ( 1 )

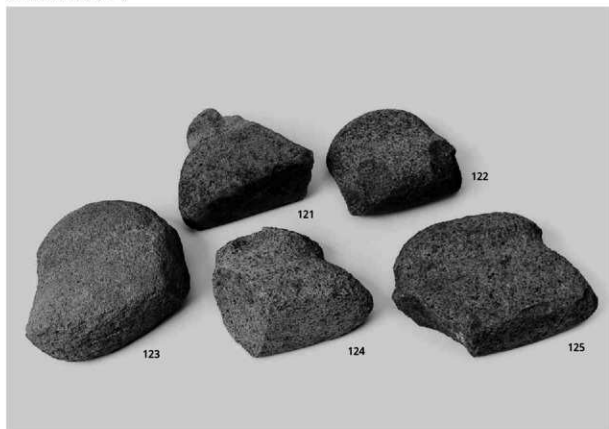


扁平打製石器 ( 2 )

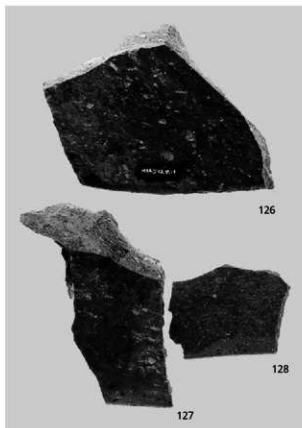




北海道式石冠 ( 1 )



北海道式石冠 ( 2 )



130

131

石鏢、砥石

## 報告書抄録

ふりがな	もりまち もりかわよんいせき							
書名	森町 森川4遺跡							
副書名	北海道縦貫自動車道(七飯～長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第218巻							
編著者名	村田 大、阿部明義							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069 0832 北海道江別市西野幌 685番地 1 TEL 011 386 3231							
発行年月日	西暦 2009年 3月 25日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もりかわ いせき 森川4遺跡	ほっかいどう 北海道 かやべくん 茅部郡 もりまち 森町 あざもりかわまち 字森川町 317 18ほか	01345	B 15 30	42 5 00	140 34 25	20030506 ～ 20031024	1 400㎡	北海道縦貫 自動車道(七 飯～長万部) 建設工事に 伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
森川4遺跡	遺物 包含地	縄文時代 前期 後期	土壌 石組炉 焼土	8基 2基 5カ所	土器 縄文前期円筒下層 a, d 式 縄文中期サイベ沢 式 縄文後期トリサキ式・熊鷹式併行 縄文晩期聖山 式 土製品 三角形土製品 土器片再生円盤 石器 石鏃・石槍・石錐・スクレイバ ー・つまみ付ナイフ・扁平打製 石器・石斧・たたき石・すり 石・砥石・台石・石皿ほか 石製品 「石冠様石器」			

財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第218巻

森 町

## 森川4遺跡

北海道縦貫自動車道（七飯一長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書

発 行 平成17年 3月 25日

編 集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069 0832 江別市西野幌 68番地 1

TEL 011 386 3231(代表)

FAX 011 386 3238

URL <http://www.domaibun.or.jp>

印 刷 札幌大同印刷株式会社

〒004 0003 札幌市厚別区厚別東 3条 2丁目

TEL(011) 897 9711

FAX(011) 897 9715